

大和市
健康都市やまと総合計画に関する
市民意識調査
報告書

令和4年2月

大 和 市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果.....	2
1	回答者属性.....	2
2	大和市について.....	14
III	まちづくりに関する意見・要望.....	140

I 調査の概要

1 調査の目的

健康都市やまと総合計画・前期基本計画（計画期間：2019～2023年度）において成果を計る指標として掲出している中間目標値に対する定点観測等を行い、施策推進の基礎資料とするため、調査を実施するものである。

2 調査対象

大和市在住の16歳以上の方から無作為抽出

3 調査期間

令和3年8月27日から令和3年9月13日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
5,000通	2,396通	47.9%

6 調査結果の表示方法

- ・回答比率は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・割合の表記については、下記のとおりとする。

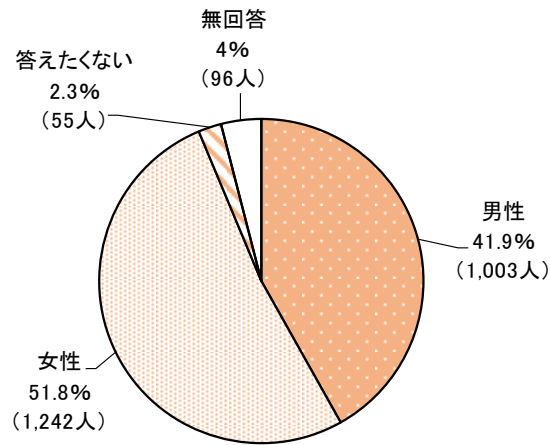
例：40%台

表記	約4割（4割）	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱（5割）
範囲	40.1～40.9% (40.0%)	41.0～43.9%	44.0～45.9%	46.0～48.9%	49.0～49.9% (50.0%)

Ⅱ 調査結果

1 回答者属性

F 1 性別

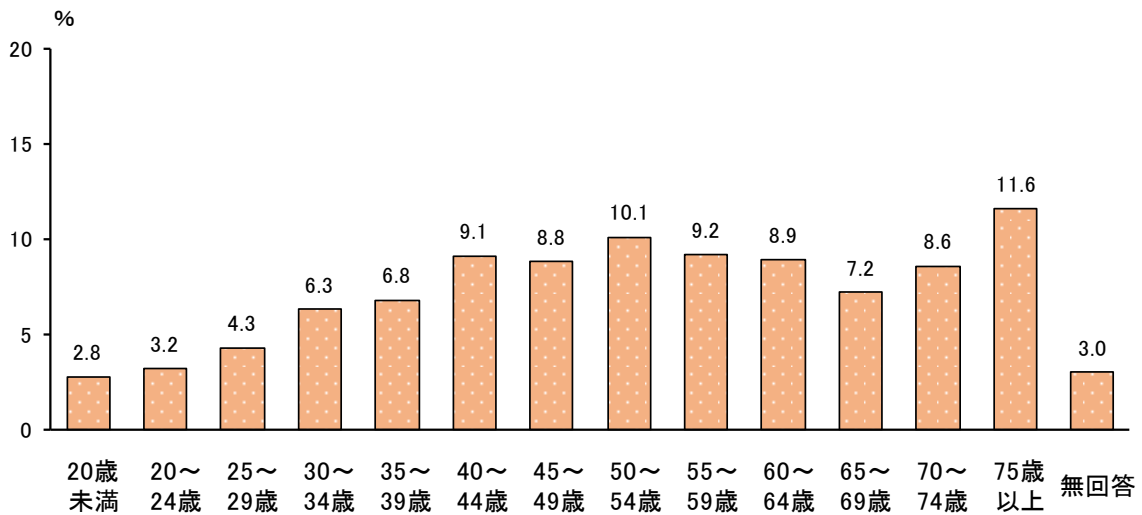
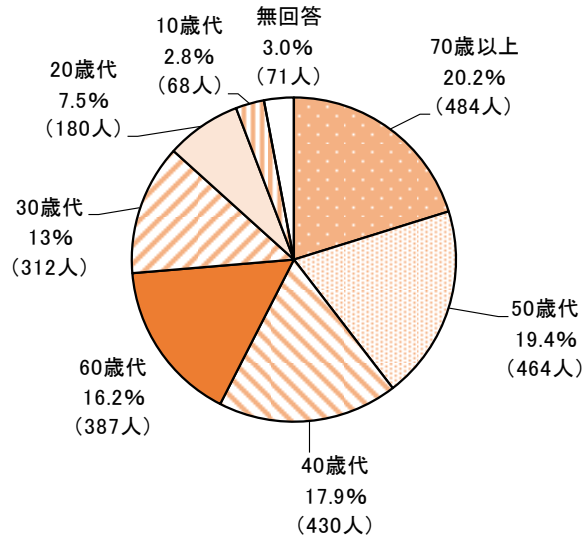


単位：%

区分	回答者数 (N)	男性	女性	答えたくない	無回答
令和3年度調査	2,396	41.9	51.8	2.3	4.0
令和元年度調査	2,294	42.1	54.6	-	3.3
平成28年度調査	2,451	41.1	52.2	-	6.7

※「答えたくない」の選択肢は令和3年度調査で追加しました。

F 2 年齢



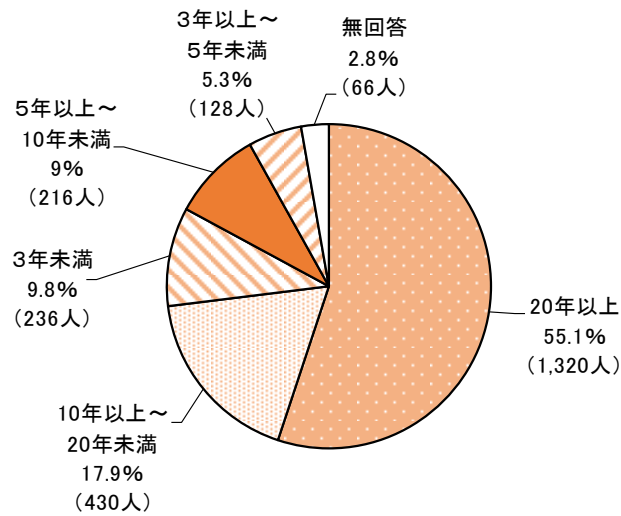
単位：%

区分	回答者数 (N)	20歳未満	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答
全体	2,396	2.8	3.2	4.3	6.3	6.8	9.1	8.8	10.1	9.2	8.9	7.2	8.6	11.6	3.0
男性	1,003	3.3	2.9	5.7	6.0	7.2	9.3	9.1	10.1	10.1	9.2	7.8	8.3	11.3	0.0
女性	1,242	2.7	3.6	3.4	6.6	6.9	9.4	9.0	10.9	9.4	9.3	7.1	9.7	11.7	0.3

単位：%

区分	回答者数 (N)	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
令和3年度調査	2,396	2.8	3.2	4.3	6.3	6.8	9.1	8.8	10.1	9.2	8.9	7.2	8.6	11.6	3.0
令和元年度調査	2,294	2.4	2.5	3.2	5.1	5.6	7.5	9.9	8.8	9.0	8.3	8.5	12.6	15.9	0.6
平成28年度調査	2,451	2.3	3.3	4.9	7.1	7.8	9.3	8.5	8.2	6.7	8.3	10.5	10.6	11.6	0.9

F 3 市内での居住年数



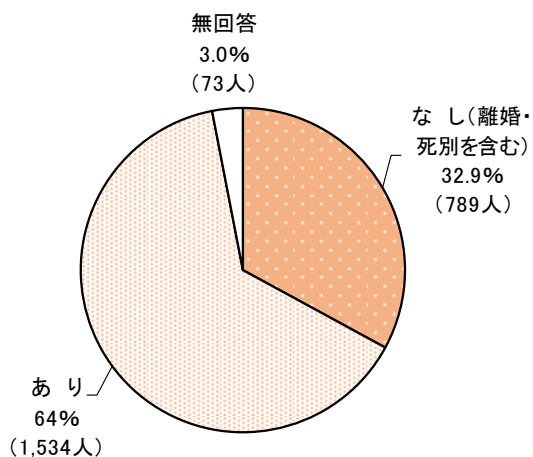
単位：%

区分	回答者数 (N)	3年未満	3年以上～5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上	無回答
合計	2,396	9.8	5.3	9.0	17.9	55.1	2.8
いる (未就学のお子さんのみ)	171	32.2	19.3	28.1	5.3	15.2	0.0
いる (小学生以上18歳未満のお子さんのみ)	304	4.9	1.6	16.1	39.5	37.5	0.3
いる (未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも)	91	5.5	7.7	30.8	30.8	25.3	0.0
いない	1,645	9.2	4.8	4.9	15.6	65.4	0.1

単位：%

区分	回答者数 (N)	3年未満	3年以上～5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上	無回答
令和3年度調査	2,396	9.8	5.3	9.0	17.9	55.1	2.8
令和元年度調査	2,294	7.5	4.3	8.4	19.0	60.0	0.8
平成28年度調査	2,451	9.3	6.7	9.1	17.6	56.7	0.6

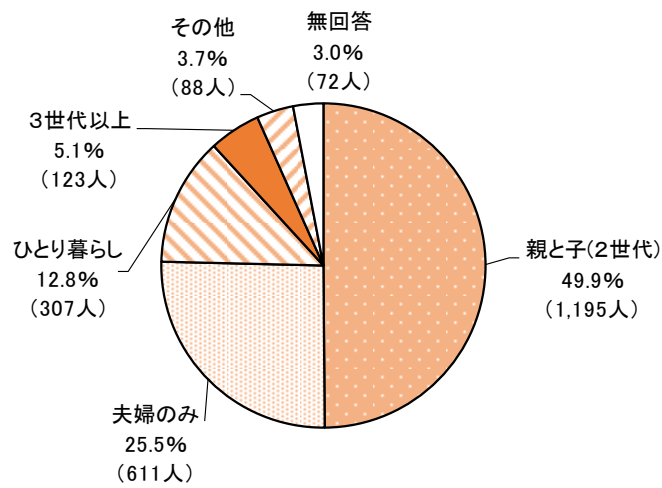
F 4 配偶者の有無



単位：%

区分	回答者数 (N)	なし(離婚・死別を含む)	あり	無回答
令和3年度調査	2,396	32.9	64.0	3.0
令和元年度調査	2,294	32.3	66.4	1.3
平成28年度調査	2,451	31.3	67.4	1.3

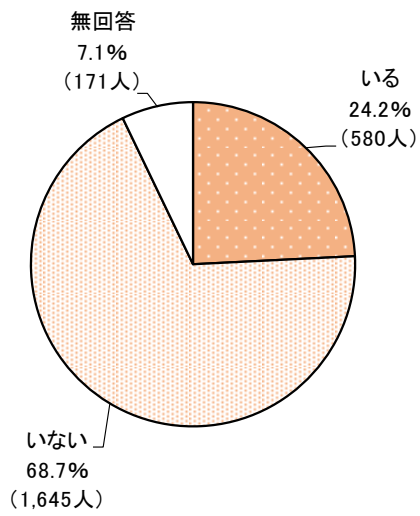
F 5 家族構成（同居）



単位：%

区分	回答者数 (N)	ひとり暮らし	夫婦のみ	親と子 (2世代)	3世代以上	その他	無回答
令和3年度調査	2,396	12.8	25.5	49.9	5.1	3.7	3.0
令和元年度調査	2,294	12.7	29.0	48.3	5.7	3.6	0.8
平成28年度調査	2,451	10.9	26.8	52.2	6.0	3.2	0.8

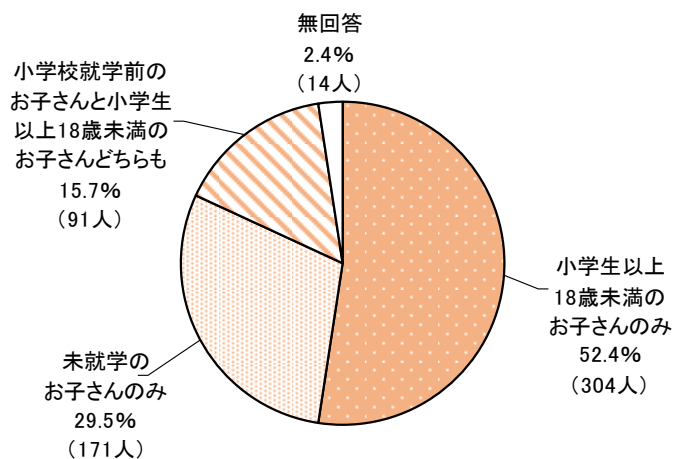
F 6 - 1 18歳未満のこどもの有無



単位：%

区分	回答者数 (N)	いる	いない	無回答
令和3年度調査	2,396	24.2	68.7	7.1
令和元年度調査	2,294	22.7	74.6	2.7
平成28年度調査	2,441	27.1	60.5	12.4

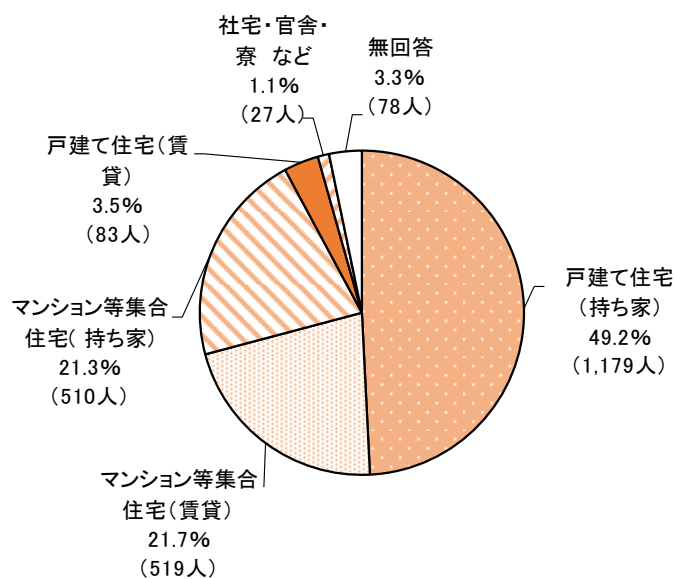
F 6 - 2 18歳未満のこどもの年代



単位：%

区分	回答者数 (N)	いる (未就学のお子さんのみ)	いる (小学生以上18歳未満のお子さんのみ)	いる (未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも)	いない
令和3年度調査	580	29.5	52.4	15.7	2.4
令和元年度調査	521	31.3	52.8	15.9	0.0
平成28年度調査	669	37.5	40.5	22.0	0.0

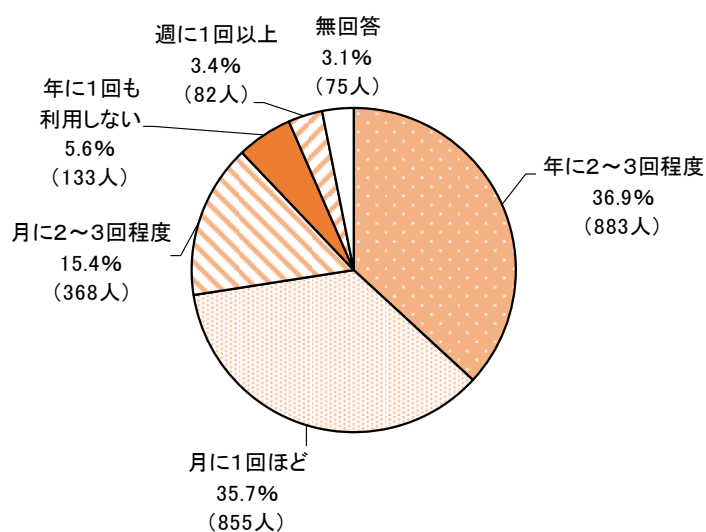
F 7 住居の形態



単位：%

区分	回答者数 (N)	戸建て住宅 (持ち家)	戸建て住宅 (賃貸)	マンション等集合住宅 (持ち家)	マンション等集合住宅 (賃貸)	社宅・官舎・寮など	無回答
令和3年度調査	2,396	49.2	3.5	21.3	21.7	1.1	3.3
令和元年度調査	2,294	53.4	3.5	21.1	20.1	1.0	0.8
平成28年度調査	2,451	53.1	4.0	19.7	21.0	1.4	0.7

F 8 医療機関の利用頻度



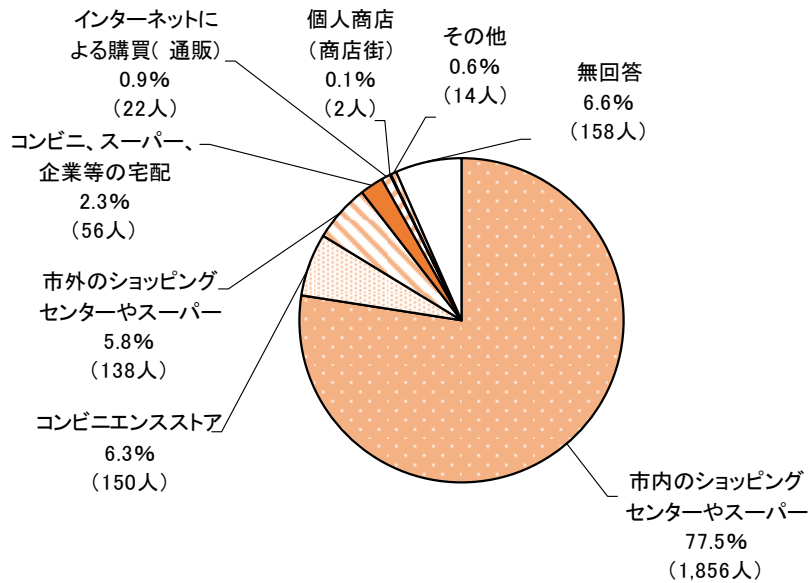
単位：%

区分	回答者数 (N)	週に1回以上	月に2～3回程度	月に1回ほど	年に2～3回程度	年に1回も利用しない	無回答
合計	2,396	3.4	15.4	35.7	36.9	5.6	3.1
10歳代	68	1.5	5.9	23.5	58.8	10.3	0.0
20歳代	180	0.6	9.4	24.4	51.1	14.4	0.0
30歳代	312	1.6	20.5	31.7	41.7	4.5	0.0
40歳代	430	3.3	16.3	29.1	44.7	6.7	0.0
50歳代	464	3.9	12.7	34.5	42.0	5.8	1.1
60歳代	387	3.4	13.7	44.4	33.9	4.4	0.3
70歳以上	484	5.6	20.7	48.6	20.7	2.7	1.9

単位：%

区分	回答者数 (N)	週に1回以上	月に2～3回程度	月に1回ほど	年に2～3回程度	年に1回も利用しない	無回答
令和3年度調査	2,396	3.4	15.4	35.7	36.9	5.6	3.1
令和元年度調査	2,294	4.3	16.4	38.0	34.8	5.2	1.3
平成28年度調査	2,451	4.3	17.3	35.0	36.5	5.7	1.3

F 9 最も買い物に利用する場所



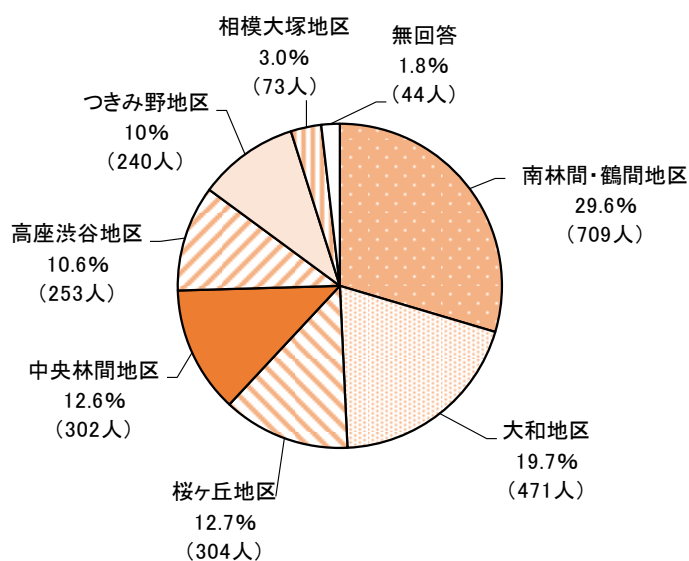
単位：％

区分	回答者数(N)	市内のショッピングセンターやスーパー	市外のショッピングセンターやスーパー	コンビニエンスストア	個人商店(商店街)	インターネットによる購買(通販)	コンビニ、スーパー、企業等の宅配	その他	無回答
合計	2,396	77.5	5.8	6.3	0.1	0.9	2.3	0.6	6.6
中央林間地区	302	79.1	4.6	4.6	0.0	2.0	2.6	0.3	6.6
つきみ野地区	240	79.2	6.3	6.7	0.0	0.4	2.9	0.0	4.6
南林間・鶴間地区	709	81.4	4.8	4.1	0.0	0.6	2.1	0.8	6.2
相模大塚地区	73	58.9	21.9	11.0	0.0	0.0	1.4	0.0	6.8
大和地区	471	78.3	3.6	8.3	0.2	1.1	1.9	0.4	6.2
桜ヶ丘地区	304	69.4	7.9	7.9	0.0	1.6	3.6	1.0	8.6
高座渋谷地区	253	80.2	6.3	5.1	0.4	0.4	1.2	0.8	5.5

単位：％

区分	回答者数(N)	市内のショッピングセンターやスーパー	市外のショッピングセンターやスーパー	コンビニエンスストア	個人商店(商店街)	インターネットによる購買(通販)	コンビニ、スーパー、企業等の宅配	その他	無回答
令和3年度調査	2,396	77.5	5.8	6.3	0.1	0.9	2.3	0.6	6.6
令和元年度調査	2,294	78.7	6.3	5.8	0.3	0.9	1.9	0.6	5.5
平成28年度調査	2,451	71.2	4.9	2.9	0.2	0.4	3.1	0.8	16.6

F 10 あなたのお住まいの地域を教えてください。(○印は1つ)



単位：%

区分	回答者数 (N)	中央林間地区	つきみ野地区	南林間・鶴間地区	相模大塚地区	大和地区	桜ヶ丘地区	高座渋谷地区	無回答
合計	2,396	12.6	10.0	29.6	3.0	19.7	12.7	10.6	1.8
10歳代	68	13.2	13.2	23.5	2.9	22.1	14.7	8.8	1.5
20歳代	180	16.7	12.2	18.3	2.8	25.6	11.1	12.2	1.1
30歳代	312	17.0	10.9	32.4	3.8	14.4	12.5	8.7	0.3
40歳代	430	14.2	11.4	29.3	4.0	22.3	9.8	7.9	1.2
50歳代	464	14.7	9.9	30.2	3.4	20.5	11.9	8.2	1.3
60歳代	387	10.1	8.5	31.5	2.8	20.7	13.2	11.4	1.8
70歳以上	484	7.2	8.7	31.2	1.4	17.1	16.7	15.5	2.1

単位：%

区分	回答者数 (N)	中央林間地区	つきみ野地区	南林間・鶴間地区	相模大塚地区	大和地区	桜ヶ丘地区	高座渋谷地区	無回答
令和3年度調査	2,396	12.6	10.0	29.6	3.0	19.7	12.7	10.6	1.8
令和元年度調査	2,294	10.5	9.6	27.9	3.1	18.3	11.6	11.2	7.8
平成28年度調査	2,451	10.5	9.4	27.8	2.8	17.1	12.3	10.1	10.0

2 大和市について

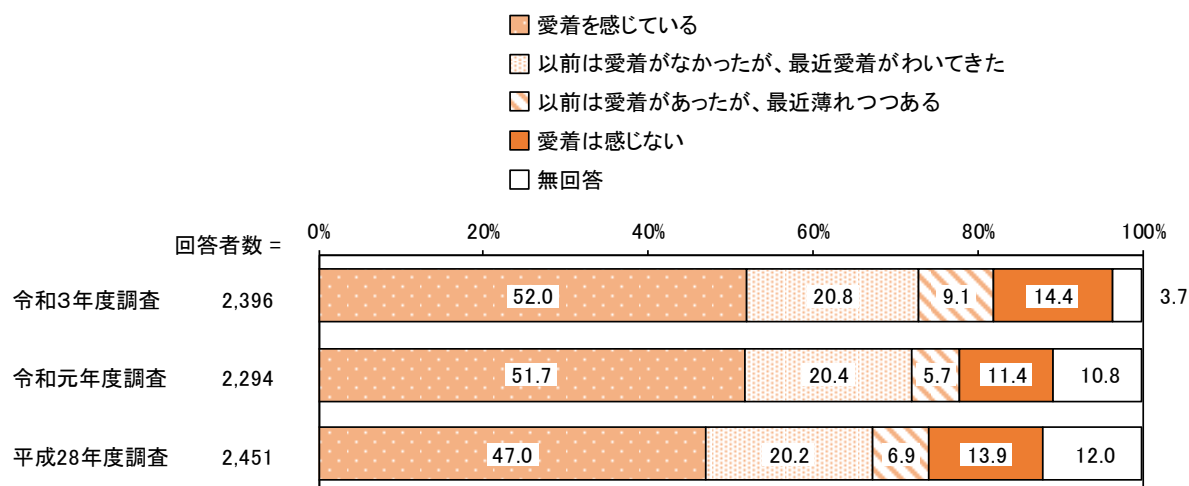
(1) 大和市への愛着度について

問1 あなたは、大和市に愛着を感じていますか。(○印は1つ)

大和市への愛着度については、「愛着を感じている」(52.0%)が最も多く、5割を超えている。次いで、「以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた」(20.8%)、「愛着は感じない」(14.4%)、「以前は愛着があったが、最近薄れつつある」(9.1%)の順となっている。「愛着を感じている」と「以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた」を合わせた【愛着を感じる(以下同様)】(72.8%)は7割を超えている。(図表1-1)

【愛着を感じる】について、前回結果(72.1%)と比較すると0.7ポイント増加している。(図表1-1)

図表1-1 愛着度—全体・経年比較



単位：%

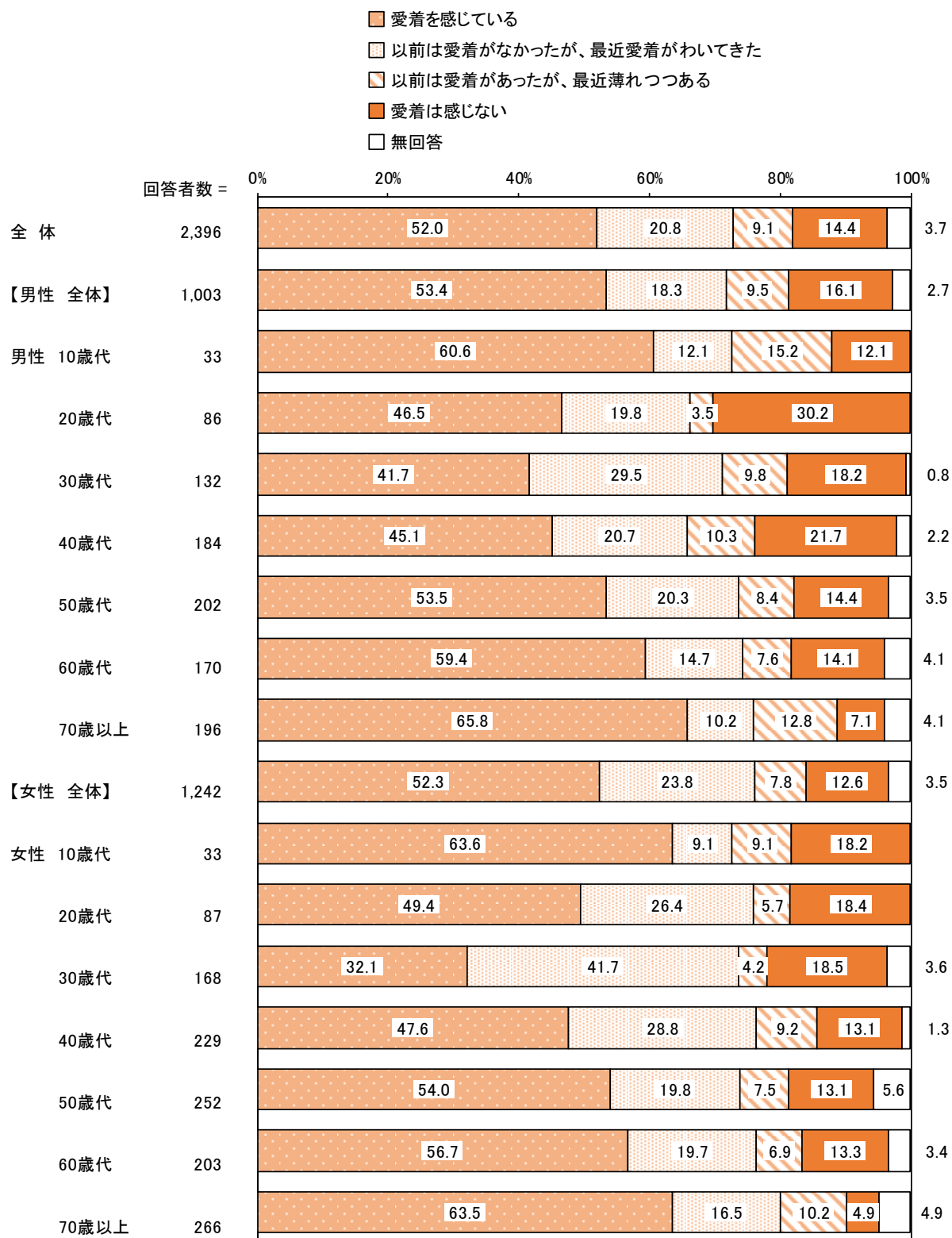
区分	回答者数(N)	愛着を感じている	以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた	以前は愛着があったが、最近薄れつつある	愛着は感じない	無回答
令和3年度調査	2,396	52.0	20.8	9.1	14.4	3.7
令和元年度調査	2,294	51.7	20.4	5.7	11.4	10.8
平成28年度調査	2,451	47.0	20.2	6.9	13.9	12.0

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに【愛着を感じる】と回答した人は7割を超えている。

年齢別にみると、「以前は愛着があったが、最近薄れつつある」と「愛着は感じない」を合わせた【愛着は感じない（以下同様）】が男性70歳以上（19.9%）、女性70歳以上（15.1%）で2割以下となっており他の年代と比べ少なくなっている。（図表1-2）

図表1-2 愛着度—性別・年齢別

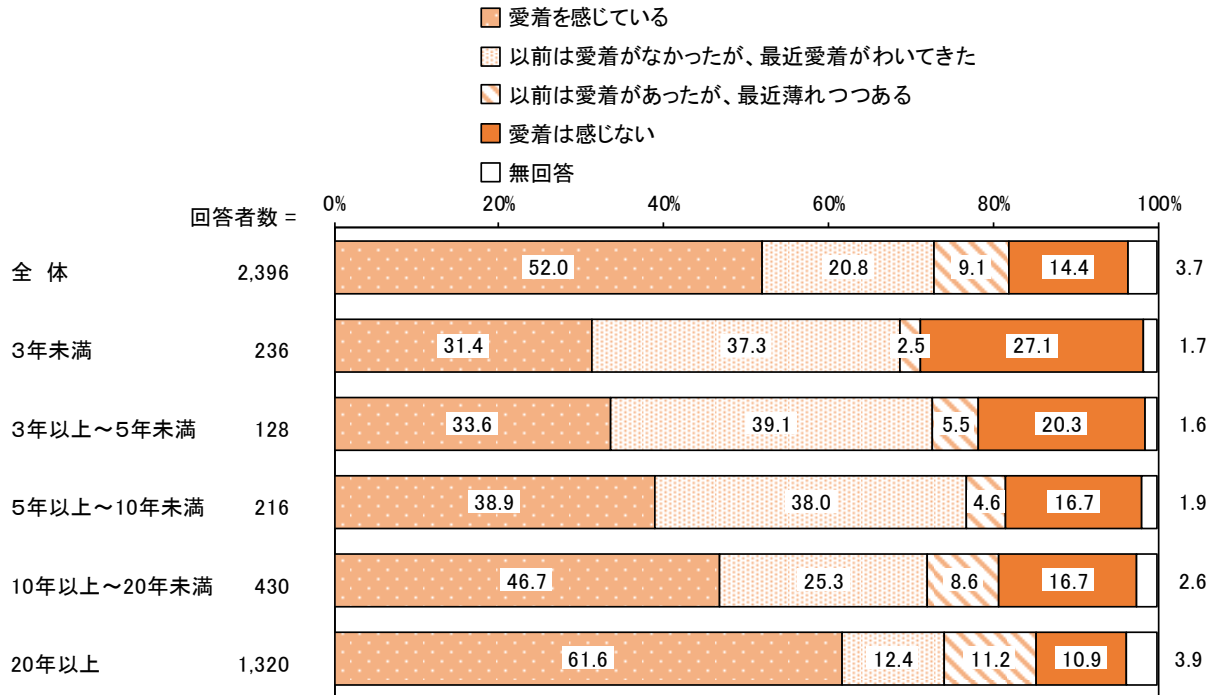


【居住年数別】

居住年数別にみると、【愛着を感じる】と回答した人が、5年以上～10年未満（76.9%）で多くなっている。一方、3年未満では【愛着は感じない】が、他の区分と比べ29.6%と多くなっている。

（図表1－3）

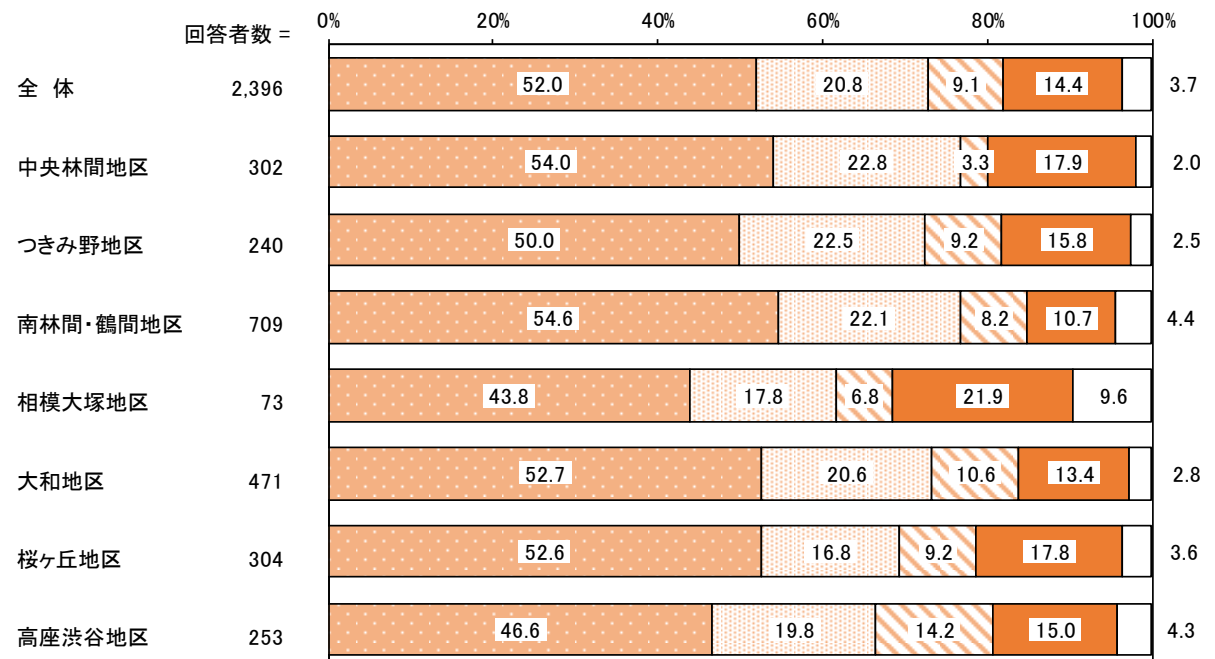
図表1－3 愛着度－居住年数別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【愛着を感じる】と回答した人が、中央林間地区（76.8%）、南林間・鶴間地区（76.7%）で8割近くと多くなっている。一方、相模大塚地区、高座渋谷地区では【愛着を感じない】が3割近くとなっており、ほかの地域と比較して多くなっている。（図表1－4）

図表1－4 愛着度－居住地域別



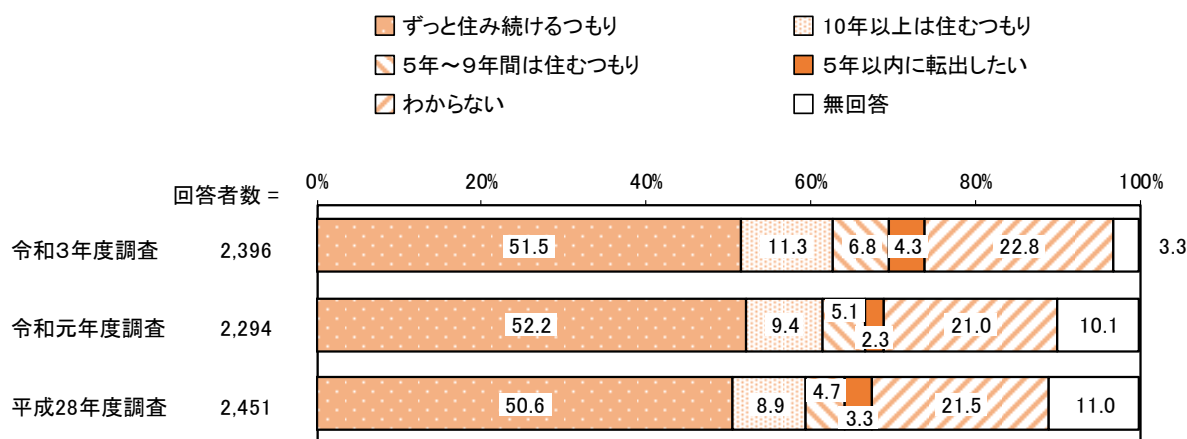
(2) 大和市への定住意向について

問2 あなたは、これからも大和市内に住み続けたいですか。(○印は1つ)

大和市内への定住意向については、「ずっと住み続けるつもり」(51.5%)が最も多く5割を超えている。次いで、「10年以上は住むつもり」(11.3%)、「5年～9年間は住むつもり」(6.8%)、「5年以内に転出したい」(4.3%)の順となっている。「ずっと住み続けるつもり」と「10年以上は住むつもり」を合わせた【定住希望(以下同様)】(62.8%)は6割を超えている。一方、「わからない」(22.8%)は2割を超えている。(図表2-1)

【定住希望】について、前回結果(61.6%)と比較すると1.2ポイント増加している。(図表2-1)

図表2-1 定住傾向—全体・経年比較



単位：%

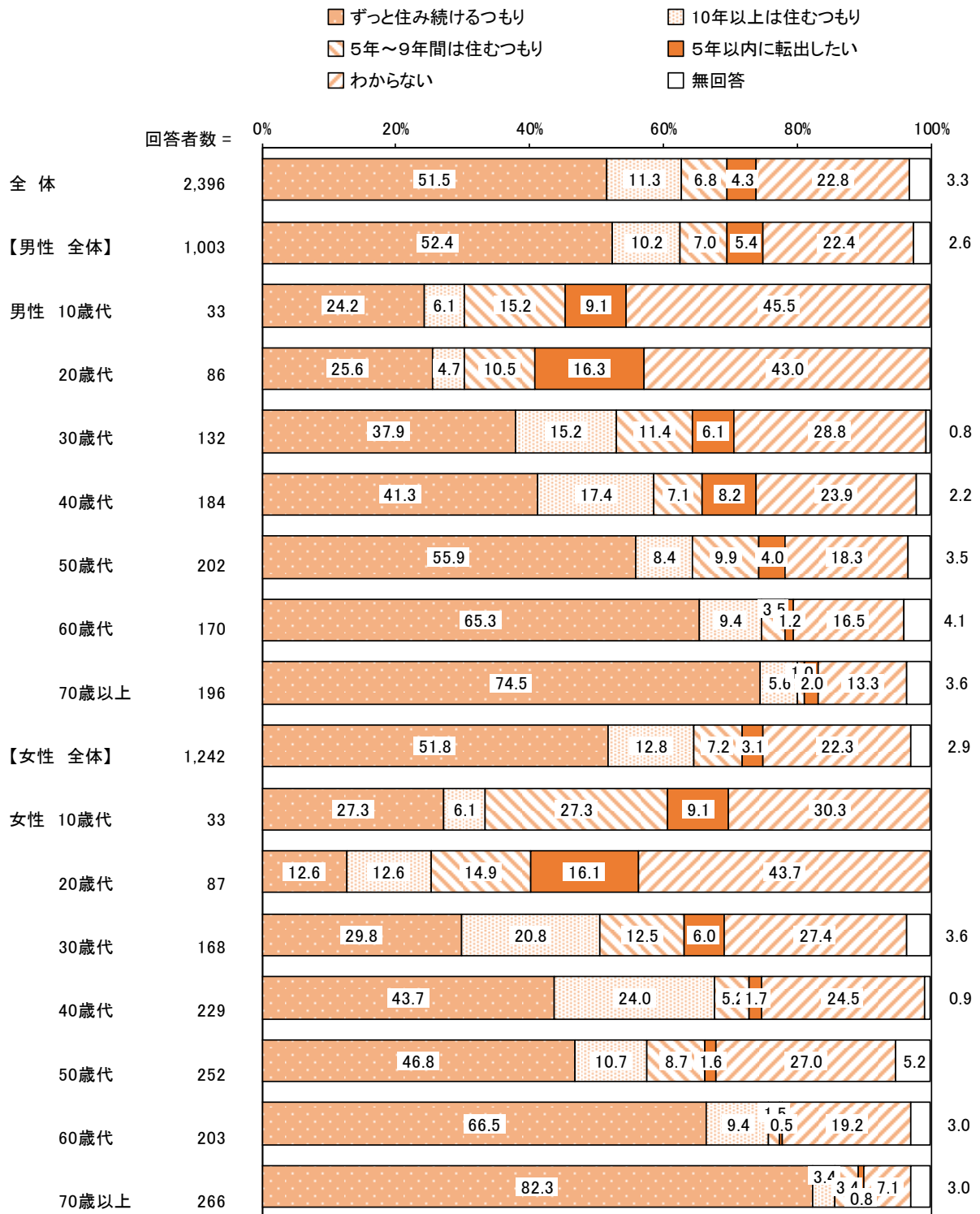
区分	回答者数(N)	ずっと住み続けるつもり	10年以上は住むつもり	5年～9年間は住むつもり	5年以内に転出したい	わからない	無回答
令和3年度調査	2,396	51.5	11.3	6.8	4.3	22.8	3.3
令和元年度調査	2,294	52.2	9.4	5.1	2.3	21.0	10.1
平成28年度調査	2,451	50.6	8.9	4.7	3.3	21.5	11.0

【性別・年齢別】

性別にみると、女性の【定住希望】（64.6%）は男性の【定住希望】（62.6%）より2.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれて【定住希望】が増加傾向となり、男性70歳以上では80.1%、女性の70歳以上では85.7%となっている。（図表2-2）

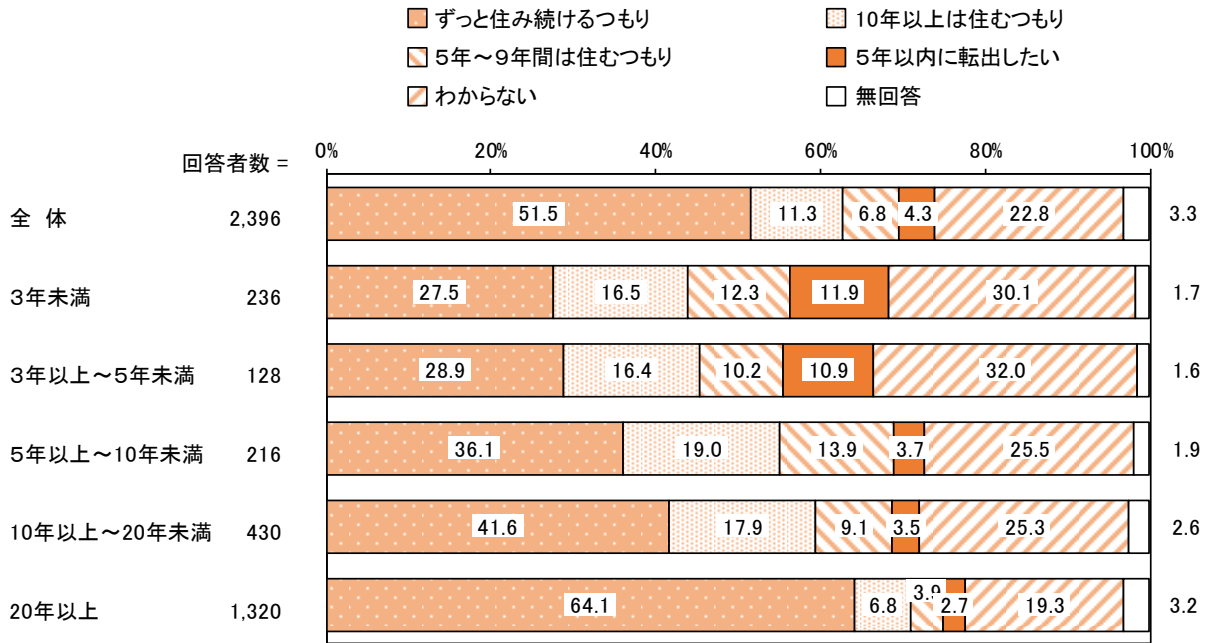
図表2-2 定住傾向—性別・年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、居住年数が長いほど【定住希望】の割合が高くなり、20年以上では【定住希望】(70.9%)が約7割と多くなっている。一方、3年未満では【定住希望】(44.0%)が4割台半ばとなっている。(図表2-3)

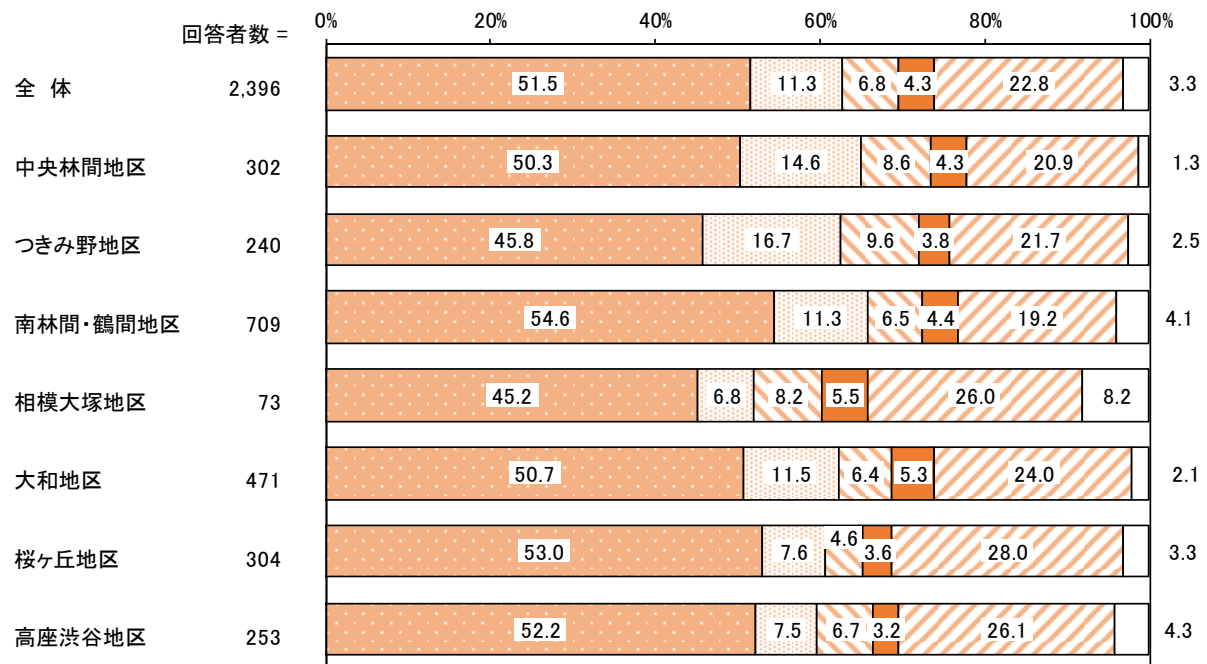
図表2-3 定住傾向－居住年数別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【定住希望】と回答した人は南林間・鶴間地区(65.9%)や中央林間地区(64.9%)で多くなっている。(図表2-4)

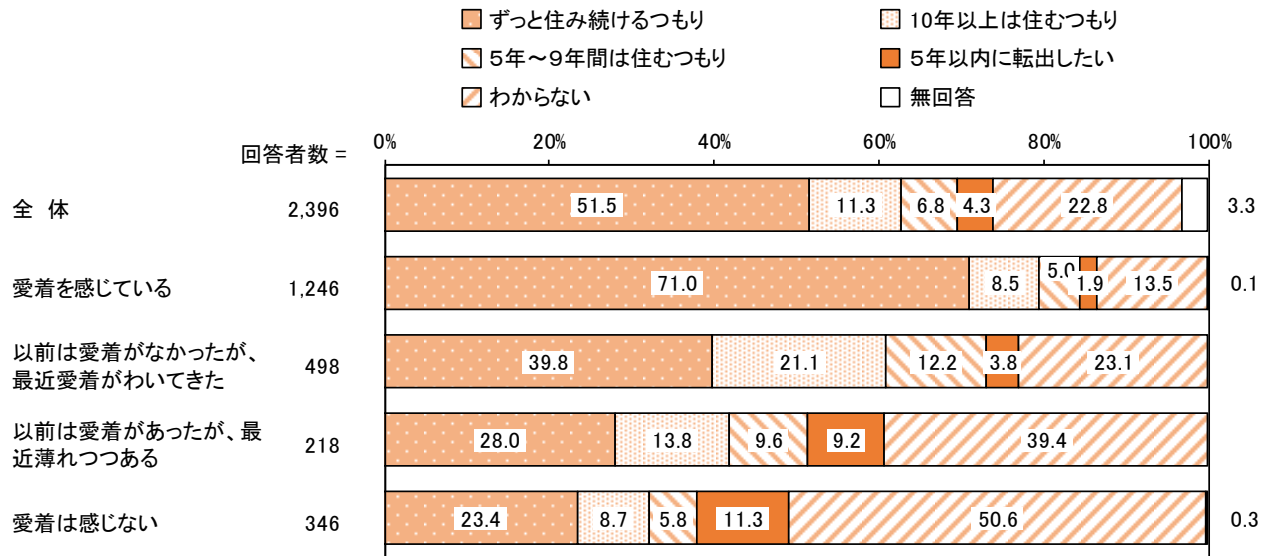
図表2-4 定住傾向－居住地域別



【愛着度別】

愛着度別にみると、「愛着を感じている」と回答した人では【定住希望】（79.5%）が約8割と多くなっている。また「以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた」と回答した人では【定住希望】（60.9%）が約6割となっている。一方、「愛着は感じない」と回答した人では「わからない」（50.6%）が約5割と多くなっている。大和市への愛着度と定住意向は相関関係にあることがうかがえる。（図表2-5）

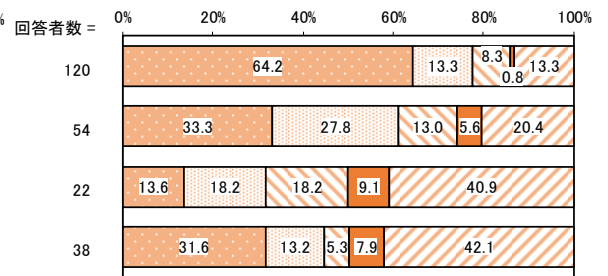
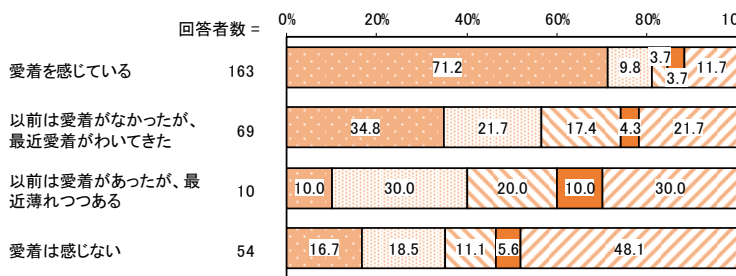
図表2-5 定住傾向-愛着度別



図表2-6 定住傾向-愛着度別・居住地域別

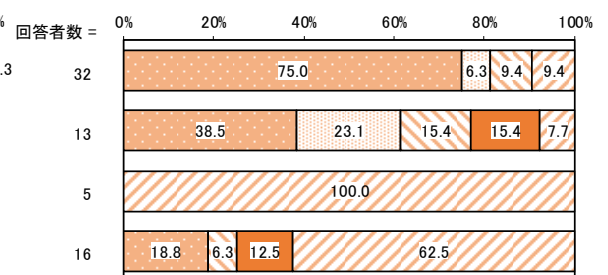
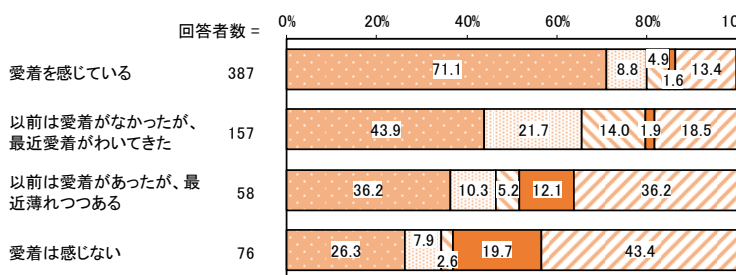
【中央林間地区】

【つきみ野地区】



【南林間・鶴間地区】

【相模大塚地区】

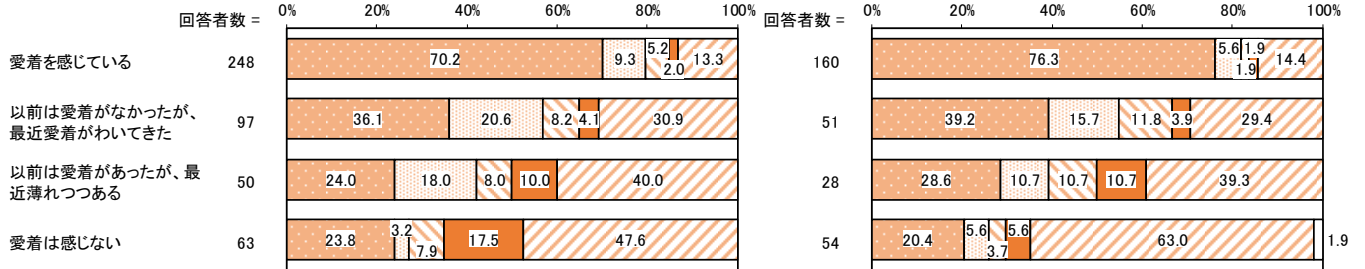


図表 2-6 定住傾向-愛着度別・居住地域別（つづき）

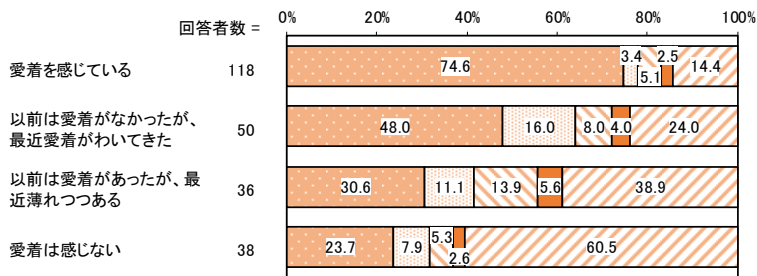
- ずっと住み続けるつもり
- 5年～9年間は住むつもり
- わからない
- 10年以上は住むつもり
- 5年以内に転出したい
- 無回答

【大和地区】

【桜ヶ丘地区】



【高座渋谷地区】



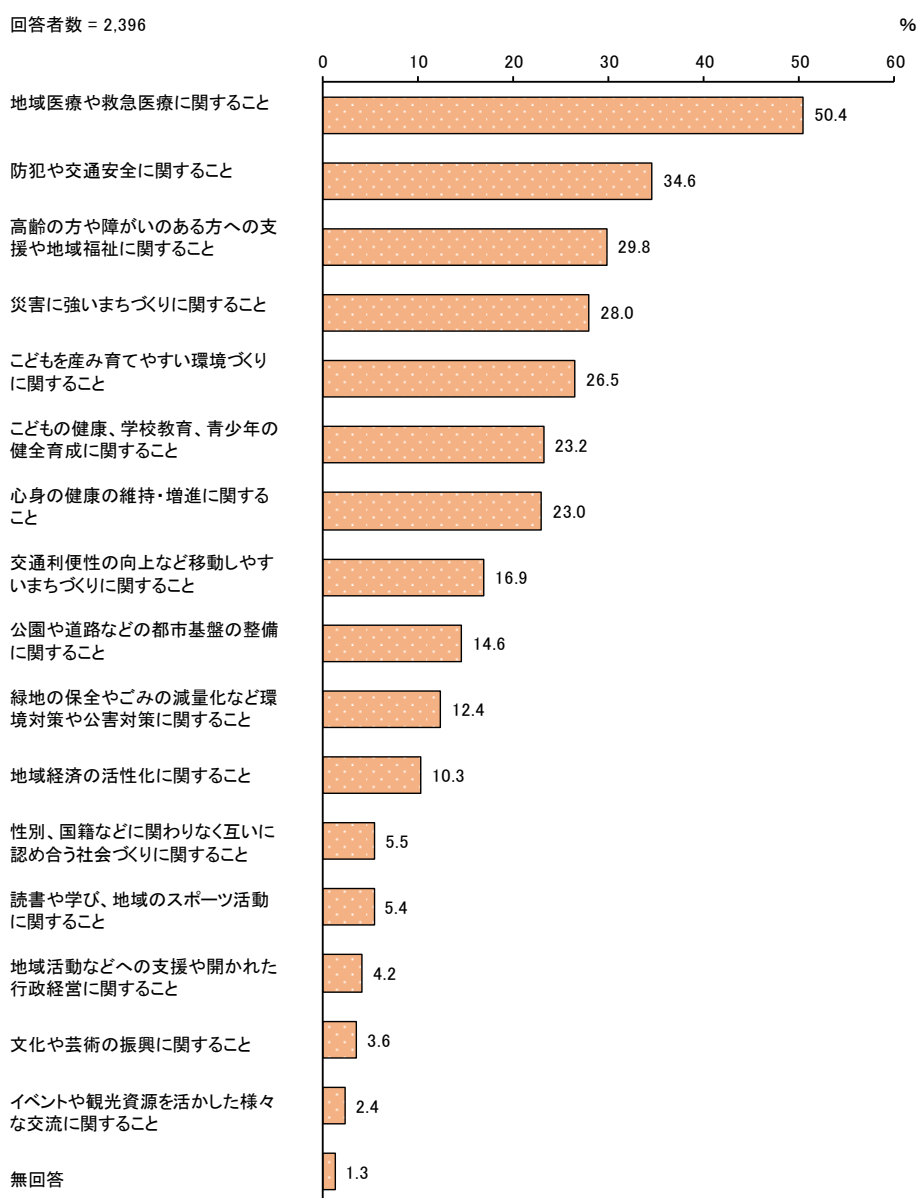
(3) 個別目標の重要度・満足度について

問3 あなたは、次に掲げるまちづくりの分野の中で、どの分野が重要と感じていますか。また、どの分野に満足していますか。下記の1～16の中から、重要度、満足度それぞれに該当する番号を3つまで選んで記入してください。
また、(1)で選んだ中から、最も重点的に進めて欲しいと思う分野について、1つだけ番号を記入してください。

(1) あなたにとって重要度の高い分野（1～16の中から3つまで）

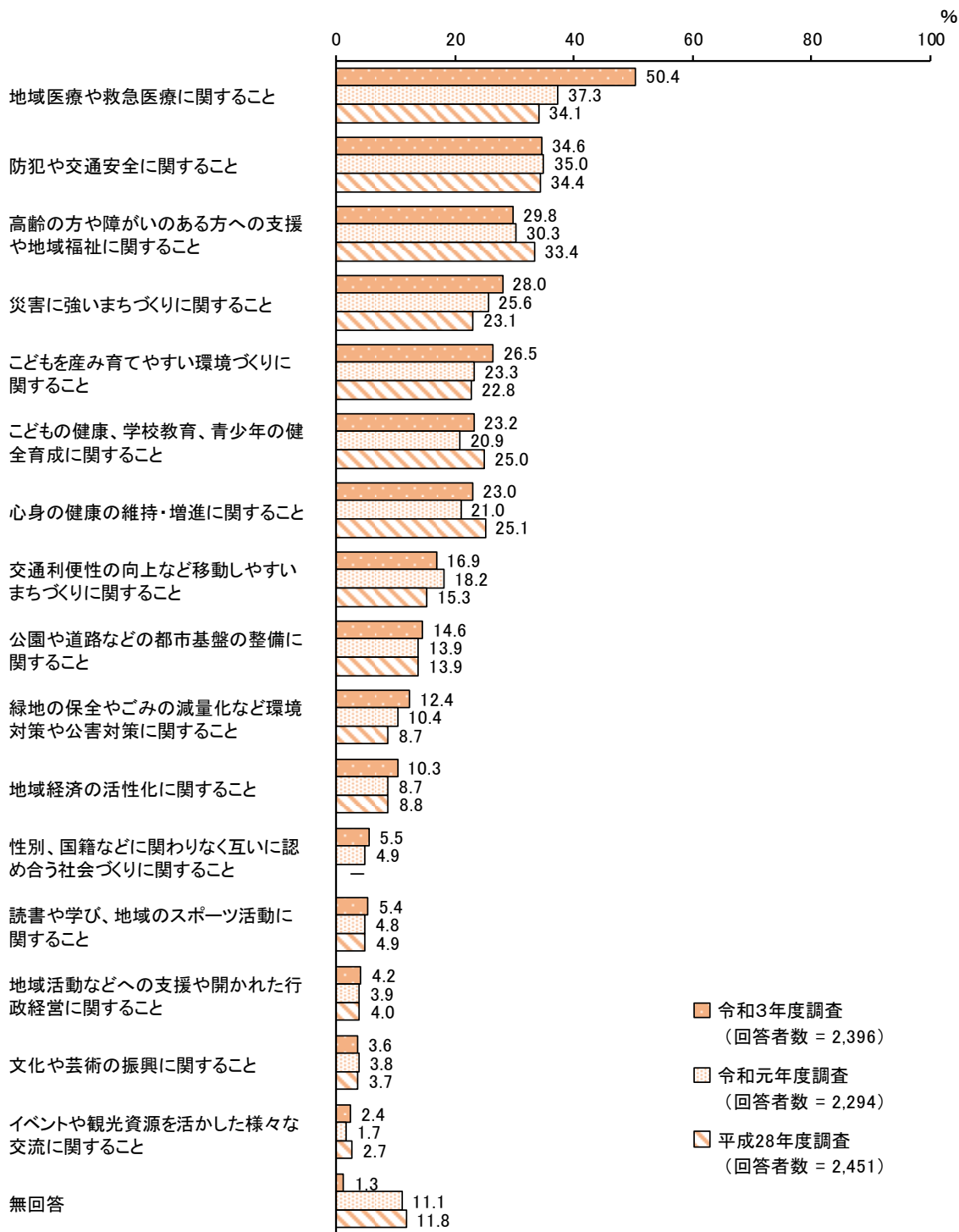
まちづくりの分野で重要度の高い分野について、「地域医療や救急医療に関すること」(50.4%)が約5割、「防犯や交通安全に関すること」(34.6%)が3割半ば、「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」(29.8%)が3割弱となっている。次いで、「災害に強いまちづくりに関すること」(28.0%)、「子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること」(26.5%)などの順となっている。(図表3-1)

図表3-1 重要度の高い分野—全体（グラフ）



前回結果と比較すると、「地域医療や救急医療に関すること」は前回と変わらず1位となっているが前回より13.1ポイント増加している。また、「防犯や交通安全に関すること」が2位、「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」が3位と、それぞれ順位は前回と変わらない。(図表3-2)

図表3-2 重要度の高い分野一経年比較



※平成28年度調査には「性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること」の選択肢はありません。

図表 3-2 重要度の高い分野一経年比較（つづき）

単位：％

区分	回答者数（N）	地域医療や救急医療に関すること	防犯や交通安全に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	心身の健康の維持・増進に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること
令和3年度調査	2,396	50.4	34.6	29.8	28.0	26.5	23.2	23.0	16.9
令和元年度調査	2,294	37.3	35.0	30.3	25.6	23.3	20.9	21.0	18.2
平成28年度調査	2,451	34.1	34.4	33.4	23.1	22.8	25.0	25.1	15.3

区分	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること	地域経済の活性化に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	文化や芸術の振興に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	無回答
令和3年度調査	14.6	12.4	10.3	5.5	5.4	4.2	3.6	2.4	1.3
令和元年度調査	13.9	10.4	8.7	4.9	4.8	3.9	3.8	1.7	11.1
平成28年度調査	13.9	8.7	8.8	-	4.9	4.0	3.7	2.7	11.8

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「地域医療や救急医療に関すること」が1位となっている。

年齢別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれて「地域医療や救急医療に関すること」が増加傾向となっている。(図表3-3)

図表3-3 重要度の高い分野一性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数(N)	心身の健康の維持・増進に関すること	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
全体	2,396	23.0	50.4	29.8	26.5	23.2	28.0	34.6	12.4
【男性 全体】	1,003	23.3	47.7	27.7	27.7	21.7	26.2	37.3	11.9
男性 10歳代	33	24.2	33.3	15.2	24.2	15.2	21.2	39.4	18.2
20歳代	86	22.1	32.6	14.0	40.7	23.3	26.7	34.9	10.5
30歳代	132	21.2	27.3	9.8	49.2	31.8	22.7	36.4	13.6
40歳代	184	16.8	45.7	14.7	34.2	31.0	21.2	46.7	11.4
50歳代	202	27.7	54.0	32.2	18.8	15.8	32.2	43.6	8.4
60歳代	170	23.5	57.1	44.1	18.8	16.5	32.4	35.3	12.4
70歳以上	196	26.5	57.7	41.3	18.9	17.3	22.4	25.0	13.8
【女性 全体】	1,242	23.2	53.0	31.6	25.3	24.6	29.9	32.9	12.6
女性 10歳代	33	18.2	48.5	24.2	18.2	24.2	21.2	48.5	18.2
20歳代	87	20.7	40.2	9.2	47.1	18.4	33.3	43.7	9.2
30歳代	168	13.1	35.1	13.7	61.3	45.2	22.6	39.9	10.1
40歳代	229	20.1	48.0	27.9	25.8	38.0	30.1	31.9	9.6
50歳代	252	23.4	60.7	36.5	15.9	14.7	36.9	35.3	11.5
60歳代	203	25.1	54.7	39.9	17.7	18.2	32.5	31.5	14.8
70歳以上	266	31.6	64.3	43.6	10.9	16.9	25.6	23.3	15.8

図表3-3 重要度の高い分野－性別・年齢別（つづき）

単位：％

区分	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
全体	14.6	16.9	5.4	3.6	5.5	10.3	2.4	4.2	1.3
【男性 全体】	16.4	17.7	5.7	3.5	6.0	12.5	2.9	4.7	0.8
男性 10歳代	24.2	12.1	15.2	9.1	18.2	9.1	6.1	6.1	—
20歳代	24.4	27.9	10.5	3.5	4.7	12.8	3.5	7.0	—
30歳代	22.0	22.0	8.3	3.8	7.6	11.4	1.5	0.8	0.8
40歳代	17.4	24.5	7.1	2.2	3.8	13.6	3.3	3.3	—
50歳代	12.4	15.3	5.9	4.0	5.0	12.4	2.5	5.0	0.5
60歳代	13.5	6.5	1.2	2.9	5.3	14.1	3.5	6.5	1.2
70歳以上	13.3	17.3	2.6	3.6	7.1	11.2	2.6	5.6	2.0
【女性 全体】	13.2	16.5	5.5	3.7	4.9	8.9	1.9	3.4	1.1
女性 10歳代	18.2	9.1	6.1	3.0	15.2	3.0	12.1	6.1	—
20歳代	19.5	19.5	5.7	6.9	8.0	6.9	5.7	1.1	—
30歳代	20.2	12.5	9.5	0.6	6.0	3.6	0.6	1.2	0.6
40歳代	11.4	16.2	6.6	5.2	6.6	10.5	2.6	1.7	0.9
50歳代	11.9	19.8	7.1	4.0	4.0	8.7	0.8	2.0	0.4
60歳代	13.3	15.3	2.0	2.5	3.9	11.8	1.5	7.4	1.5
70歳以上	9.0	17.3	3.0	4.1	2.3	10.2	0.8	4.9	2.3

【居住地域別】

居住地域別にみると、「地域医療や救急医療に関すること」が相模大塚地区（57.5%）で6割近くと多くなっている。（図表3-4）

図表3-4 重要度の高い分野—居住地域別

単位：%

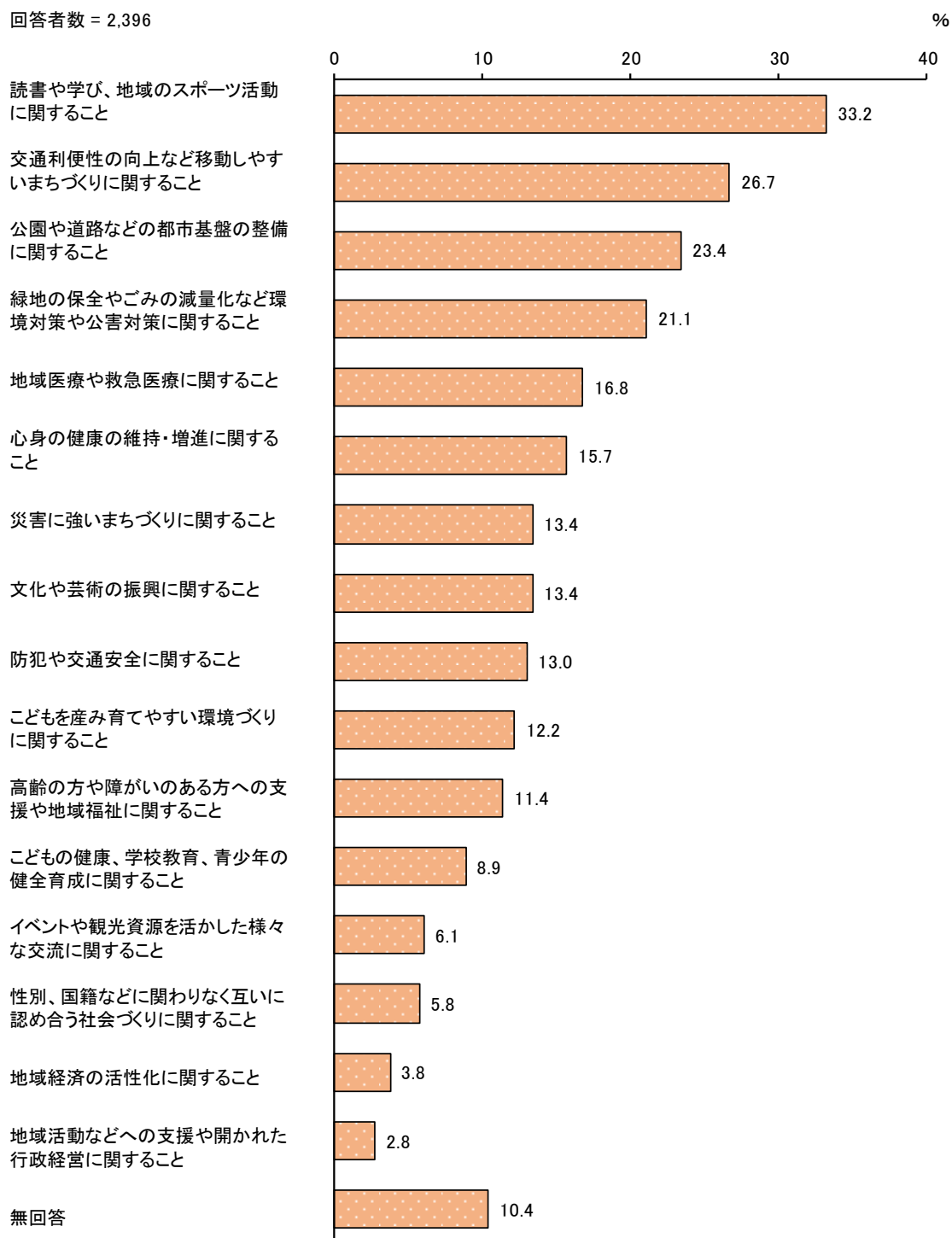
区分	回答者数（N）	心身の健康の維持・増進に関すること	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
全体	2,396	23.0	50.4	29.8	26.5	23.2	28.0	34.6	12.4
中央林間地区	302	21.5	45.0	25.5	30.5	24.5	27.5	32.8	13.2
つきみ野地区	240	17.1	52.1	26.3	27.5	26.3	27.9	38.8	14.6
南林間・鶴間地区	709	23.1	51.3	33.0	26.1	22.3	28.5	36.0	14.0
相模大塚地区	73	26.0	57.5	19.2	35.6	19.2	21.9	32.9	11.0
大和地区	471	24.6	50.3	30.4	25.1	21.4	28.7	35.2	11.0
桜ヶ丘地区	304	23.4	52.0	28.6	24.7	25.0	28.9	31.3	10.9
高座渋谷地区	253	24.5	52.2	33.6	24.5	24.9	28.5	34.8	9.9

区分	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
全体	14.6	16.9	5.4	3.6	5.5	10.3	2.4	4.2	1.3
中央林間地区	17.9	18.2	7.3	6.0	5.0	9.3	3.0	5.0	1.0
つきみ野地区	12.1	18.8	5.4	3.3	6.3	10.4	3.3	3.8	1.3
南林間・鶴間地区	14.2	15.4	5.6	3.5	5.8	9.3	1.8	4.1	0.6
相模大塚地区	19.2	20.5	6.8	—	6.8	15.1	1.4	—	—
大和地区	12.5	16.6	4.7	4.2	5.7	12.5	2.8	4.9	0.6
桜ヶ丘地区	18.1	17.4	4.3	1.6	5.3	9.9	3.0	3.9	2.6
高座渋谷地区	13.4	17.0	5.1	3.2	3.6	9.5	1.2	4.3	0.8

(2) あなたにとって満足度の高い分野（1～16の中から3つまで）

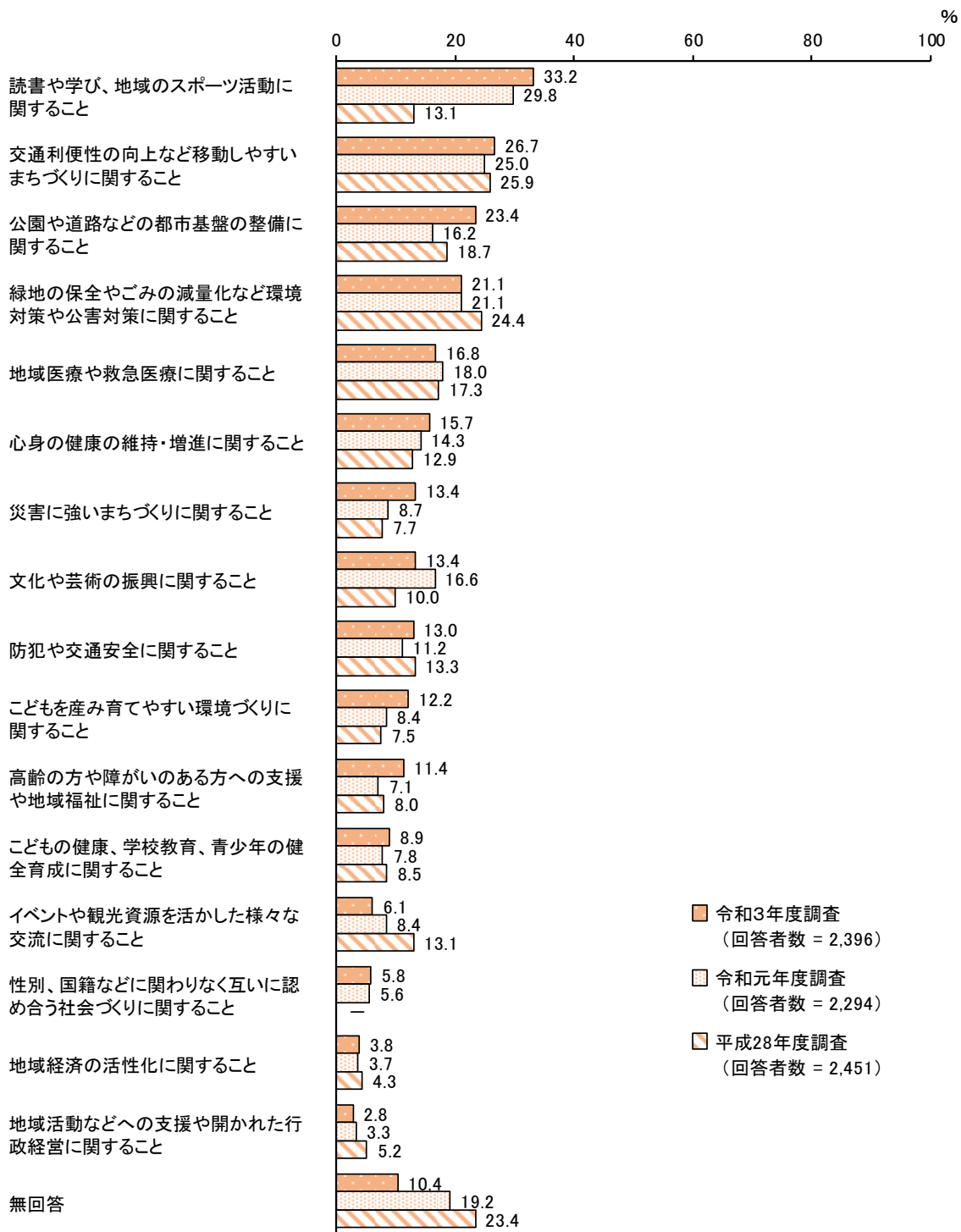
まちづくりの分野で満足度の高い分野について、「読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること」(33.2%)が3割強と多くなっている。次いで、「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」(26.7%)、「公園や道路などの都市基盤の整備に関すること」(23.4%)、「緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること」(21.1%)の順となっている。(図表3-5)

図表3-5 満足度の高い分野—全体（グラフ）



前回結果と比較すると、「読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること」は前回と変わらず1位となっているが前回より3.4ポイント増加している。また、「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」が前回と変わらず2位、「公園や道路などの都市基盤の整備に関すること」(23.4%)が前回6位から今回3位となっている。(図表3-6)

図表3-6 満足度の高い分野一経年比較



※平成28年度調査には「性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること」の選択肢はありません。

図表 3-6 満足度の高い分野一経年比較（つづき）

単位：％

区分	回答者数（N）	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	移動しやすいまちづくりに関すること	交通利便性の向上など	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること	地域医療や救急医療に関すること	心身の健康の維持・増進に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	文化や芸術の振興に関すること
令和3年度調査	2,396	33.2	26.7	23.4	21.1	16.8	15.7	13.4	13.4	
令和元年度調査	2,294	29.8	25.0	16.2	21.1	18.0	14.3	8.7	16.6	
平成28年度調査	2,451	13.1	25.9	18.7	24.4	17.3	12.9	7.7	10.0	

区分	防犯や交通安全に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
令和3年度調査	13.0	12.2	11.4	8.9	6.1	5.8	3.8	2.8	10.4
令和元年度調査	11.2	8.4	7.1	7.8	8.4	5.6	3.7	3.3	19.2
平成28年度調査	13.3	7.5	8.0	8.5	13.1	-	4.3	5.2	23.4

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること」が高くなっている。

年齢別にみると、男性 10 歳代で「こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること」(24.2%) が 2 割半ば、女性 60 歳代、女性 70 歳以上で「緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること」が 3 割弱、女性 20 歳代で「公園や道路などの都市基盤の整備に関すること」(31.0%) が約 3 割、男性 20 歳代で「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」(38.4%) が 4 割近く、男性 40 歳代で「読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること」(45.1%) が 4 割半ばと多くなっている。(図表 3-7)

図表 3-7 満足度の高い分野—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数 (N)	心身の健康の維持・増進に関すること	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること	こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
全体	2,396	15.7	16.8	11.4	12.2	8.9	13.4	13.0	21.1
【男性 全体】	1,003	14.3	19.0	10.3	9.9	8.9	16.2	12.8	21.4
男性 10 歳代	33	18.2	12.1	—	18.2	24.2	15.2	9.1	9.1
20 歳代	86	9.3	20.9	4.7	8.1	5.8	12.8	19.8	14.0
30 歳代	132	8.3	19.7	3.0	17.4	12.1	15.9	9.1	18.2
40 歳代	184	15.2	14.1	10.3	16.8	7.6	14.7	10.9	21.7
50 歳代	202	12.4	18.8	8.9	4.5	8.4	18.8	11.4	21.3
60 歳代	170	16.5	21.8	11.8	7.6	11.2	14.7	14.1	22.9
70 歳以上	196	18.9	21.4	19.4	5.1	5.1	17.9	14.8	27.6
【女性 全体】	1,242	17.2	15.3	12.2	14.1	9.2	11.4	13.0	21.7
女性 10 歳代	33	15.2	12.1	9.1	9.1	21.2	12.1	9.1	6.1
20 歳代	87	18.4	14.9	17.2	12.6	6.9	8.0	13.8	23.0
30 歳代	168	15.5	17.9	10.1	23.2	7.1	8.9	11.9	18.5
40 歳代	229	15.7	16.2	10.9	22.7	11.8	9.2	9.2	15.3
50 歳代	252	15.5	12.7	9.5	13.1	10.7	9.1	12.7	17.5
60 歳代	203	19.2	14.3	14.3	7.9	5.9	9.9	11.3	29.1
70 歳以上	266	19.9	16.9	13.9	7.9	8.6	19.2	18.8	29.7

図表3-7 満足度の高い分野—性別・年齢別（つづき）

単位：％

区分	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
全体	23.4	26.7	33.2	13.4	5.8	3.8	6.1	2.8	10.4
【男性 全体】	24.8	27.1	34.3	14.3	6.5	4.5	6.5	3.1	9.9
男性 10歳代	21.2	30.3	36.4	18.2	9.1	—	18.2	9.1	3.0
20歳代	25.6	38.4	30.2	14.0	9.3	3.5	8.1	2.3	8.1
30歳代	20.5	23.5	31.8	11.4	6.8	3.0	6.8	3.8	15.9
40歳代	25.0	23.4	45.1	12.5	3.8	6.0	7.1	2.2	6.5
50歳代	23.8	30.7	36.6	12.9	5.4	4.5	5.0	0.5	11.9
60歳代	24.7	26.5	34.1	16.5	8.8	2.9	7.1	4.1	7.6
70歳以上	29.1	24.5	25.0	16.8	6.1	6.6	4.1	4.6	10.7
【女性 全体】	22.5	26.8	33.3	13.4	4.9	3.2	6.0	2.4	9.6
女性 10歳代	12.1	36.4	39.4	18.2	12.1	9.1	18.2	—	6.1
20歳代	31.0	34.5	31.0	5.7	9.2	1.1	2.3	4.6	5.7
30歳代	28.0	17.9	35.1	9.5	4.2	1.8	6.0	2.4	10.7
40歳代	20.5	25.8	39.7	13.5	3.5	2.6	8.7	2.2	7.4
50歳代	24.2	27.0	40.1	17.9	5.2	2.8	3.6	2.4	8.3
60歳代	19.2	29.6	35.5	15.8	4.9	3.4	3.9	3.4	12.3
70歳以上	20.3	27.8	18.8	11.7	4.1	4.9	7.1	1.5	10.9

【居住地域別】

居住地域別にみると、高座渋谷地区で「公園や道路などの都市基盤の整備に関すること」（32.8%）が3割を超え、中央林間地区、大和地区で「読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること」が4割近くと他の地域と比べて多くなっている。（図表3-8）

図表3-8 満足度の高い分野—居住地域別

単位：%

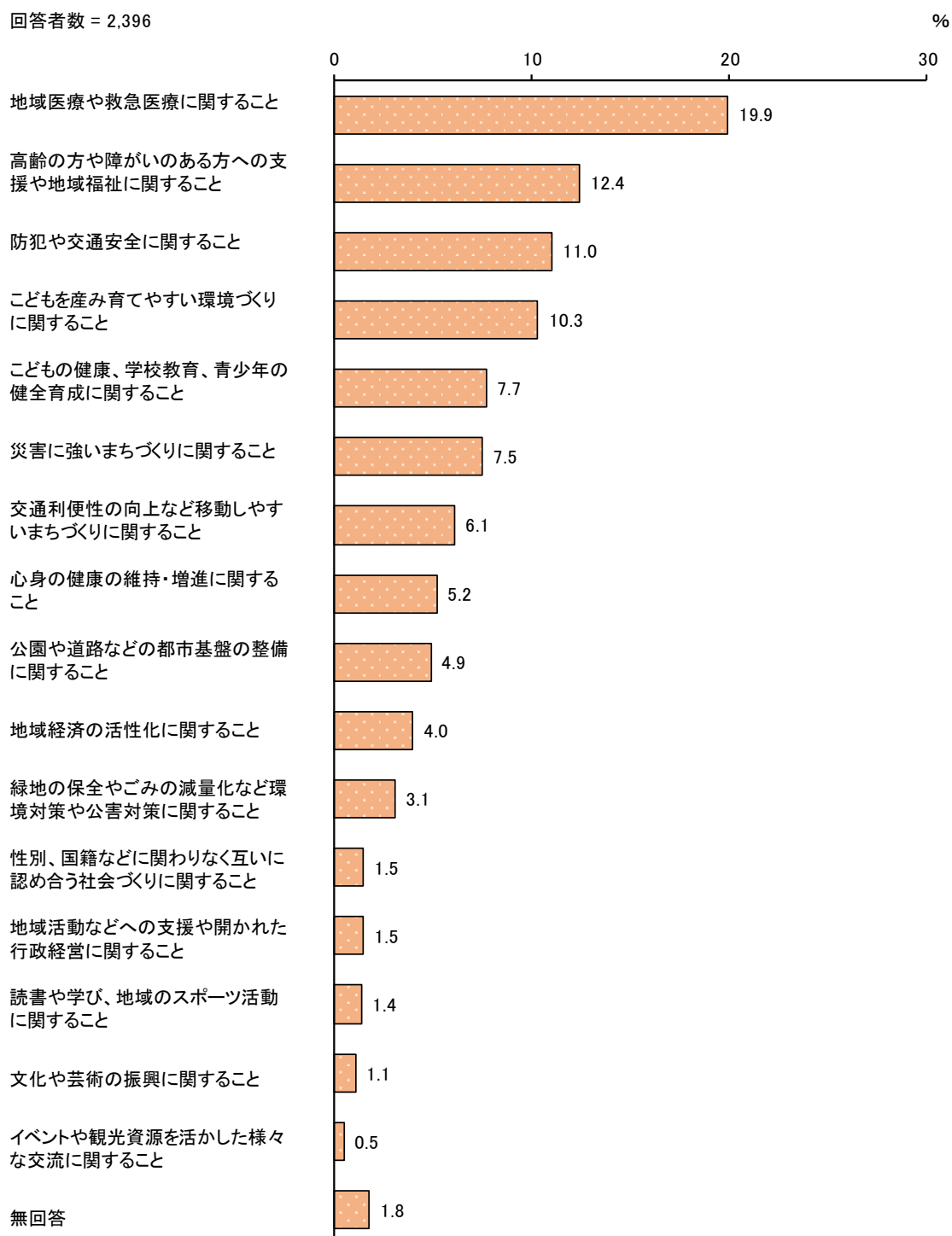
区分	回答者数（N）	心身の健康の維持・増進に関すること	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
全体	2,396	15.7	16.8	11.4	12.2	8.9	13.4	13.0	21.1
中央林間地区	302	16.6	16.2	8.3	13.6	7.9	9.6	13.6	22.2
つきみ野地区	240	11.7	10.4	12.5	19.6	13.3	13.8	17.9	22.9
南林間・鶴間地区	709	16.6	21.7	11.8	13.4	8.6	16.1	11.8	23.1
相模大塚地区	73	12.3	19.2	11.0	11.0	1.4	8.2	12.3	19.2
大和地区	471	16.1	13.6	10.8	11.7	10.0	9.8	12.5	15.5
桜ヶ丘地区	304	15.5	16.8	12.2	6.3	8.9	13.5	14.8	22.7
高座渋谷地区	253	17.4	16.6	12.6	9.1	7.1	20.2	11.9	23.7

区分	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
全体	23.4	26.7	33.2	13.4	5.8	3.8	6.1	2.8	10.4
中央林間地区	20.2	32.1	38.7	11.9	3.6	3.3	3.6	2.0	9.6
つきみ野地区	25.0	22.1	32.1	8.8	5.4	6.3	2.5	2.5	9.2
南林間・鶴間地区	23.4	24.8	33.3	14.7	6.9	3.2	6.1	2.4	8.7
相模大塚地区	21.9	23.3	34.2	6.8	4.1	—	5.5	2.7	19.2
大和地区	20.8	30.6	38.4	17.6	4.5	4.0	9.8	3.4	9.8
桜ヶ丘地区	23.0	26.0	29.9	15.1	8.6	4.3	6.9	2.3	11.8
高座渋谷地区	32.8	26.9	23.3	8.7	5.5	4.0	5.1	5.1	9.5

(3) あなたが最も重点的に進めて欲しいと思う分野（(1)で選んだ中から1つだけ）

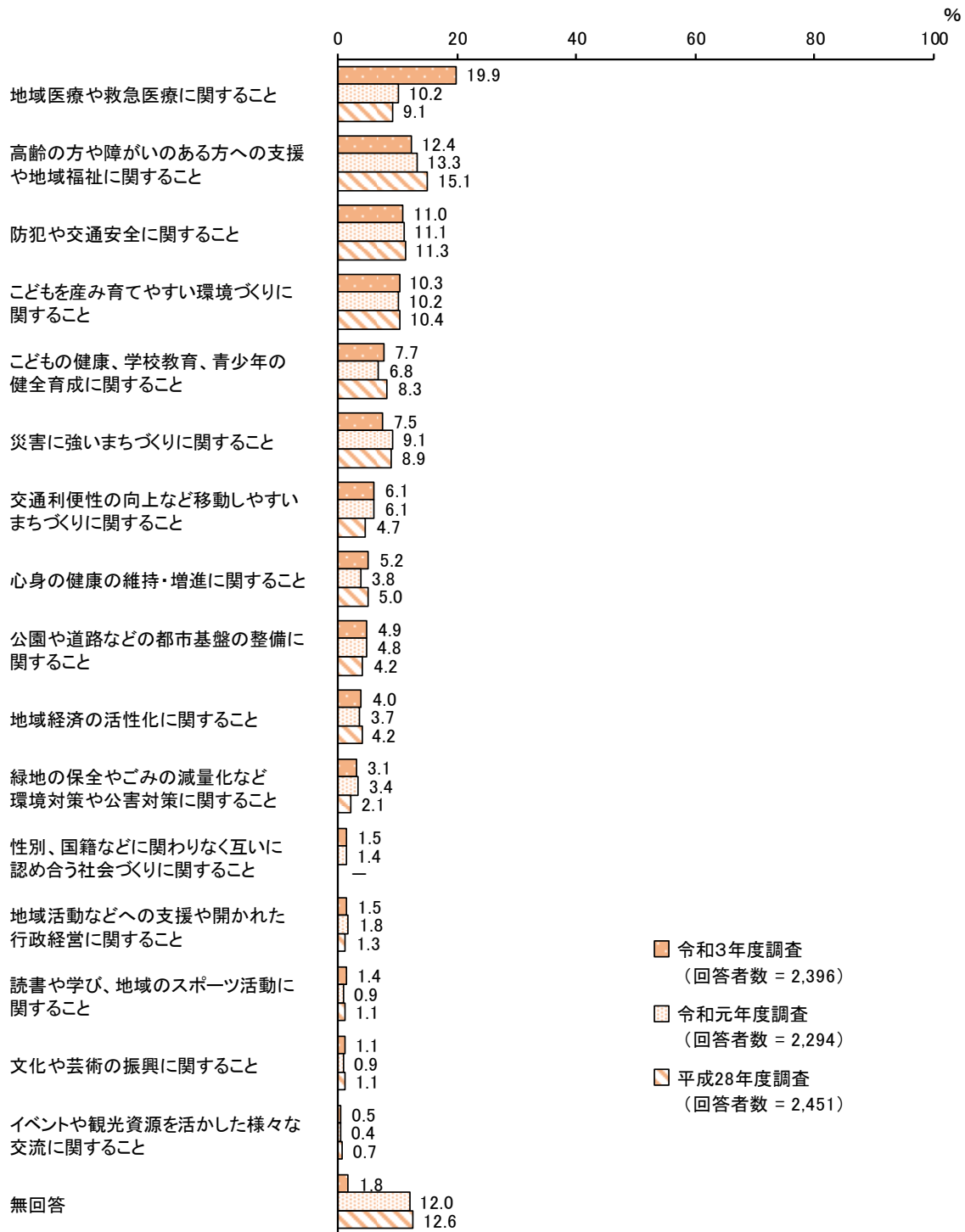
まちづくりの分野で最も重点的に進めてほしいと思う分野については、「地域医療や救急医療に関すること」(19.9%)が最も多く、次いで「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」(12.4%)、「防犯や交通安全に関すること」(11.0%)、「こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること」(10.3%)などの順となっている。(図表3-9)

図表3-9 最も重点的に進めてほしい分野ー全体(グラフ)



前回結果と比較すると、「地域医療や救急医療に関すること」が3位だった前回より9.7ポイント増加して今回1位となっている。「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」が前回1位から今回2位となっている。また、「防犯や交通安全に関すること」が前回2位から今回3位となっている。(図表3-10)

図表3-10 最も重点的に進めてほしい分野一経年比較



※平成28年度調査には「性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること」の選択肢はありません。

図表3-10 最も重点的に進めてほしい分野—経年比較（つづき）

単位：％

区分	回答者数（N）	心身の健康の維持・増進に関すること	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
令和3年度調査	2,396	5.2	19.9	12.4	10.3	7.7	7.5	11.0	3.1
令和元年度調査	2,294	3.8	10.2	13.3	10.2	6.8	9.1	11.1	3.4
平成28年度調査	2,451	5.0	9.1	15.1	10.4	8.3	8.9	11.3	2.1

区分	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
令和3年度調査	4.9	6.1	1.4	1.1	1.5	4.0	0.5	1.5	1.8
令和元年度調査	4.8	6.1	0.9	0.9	1.4	3.7	0.4	1.8	12.0
平成28年度調査	4.2	4.7	1.1	1.1	-	4.2	0.7	1.3	12.6

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「地域医療や救急医療に関すること」が1位、男性では「防犯や交通安全に関すること」が2位、女性では「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」が2位となっている。

年齢別にみると、女性 30 歳代で「子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること」が4割近く、女性 10 歳代で「防犯や交通安全に関すること」が3割近くとなっている。(図表3-11)

図表3-11 最も重点的に進めてほしい分野—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数(N)	心身の健康の維持・増進に関すること	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
全体	2,396	5.2	19.9	12.4	10.3	7.7	7.5	11.0	3.1
【男性 全体】	1,003	5.4	19.0	11.4	10.5	6.1	7.2	12.5	2.4
男性 10歳代	33	3.0	15.2	9.1	6.1	6.1	6.1	15.2	6.1
20歳代	86	7.0	15.1	2.3	22.1	0.0	5.8	10.5	0.0
30歳代	132	3.8	6.8	4.5	26.5	10.6	4.5	10.6	5.3
40歳代	184	4.9	20.1	6.5	12.5	9.8	2.2	14.1	0.5
50歳代	202	5.4	24.3	10.4	5.0	2.0	14.4	15.3	2.0
60歳代	170	5.9	21.2	18.2	5.9	5.9	6.5	14.1	2.9
70歳以上	196	6.1	21.4	19.9	3.1	6.6	7.7	8.2	2.6
【女性 全体】	1,242	4.8	20.9	13.3	10.5	9.2	8.1	10.0	3.8
女性 10歳代	33	3.0	21.2	9.1	9.1	3.0	3.0	27.3	0.0
20歳代	87	3.4	17.2	1.1	27.6	5.7	5.7	16.1	3.4
30歳代	168	1.2	11.9	3.0	38.7	15.5	3.6	8.9	1.8
40歳代	229	4.8	18.3	11.4	7.0	17.0	7.0	11.8	1.7
50歳代	252	6.3	28.6	14.3	2.0	5.2	9.9	11.1	5.6
60歳代	203	3.9	20.2	15.8	5.9	6.4	15.3	6.9	5.4
70歳以上	266	7.1	22.9	22.6	2.3	6.4	6.4	6.4	4.5

図表3-11 最も重点的に進めてほしい分野－性別・年齢別（つづき）

単位：％

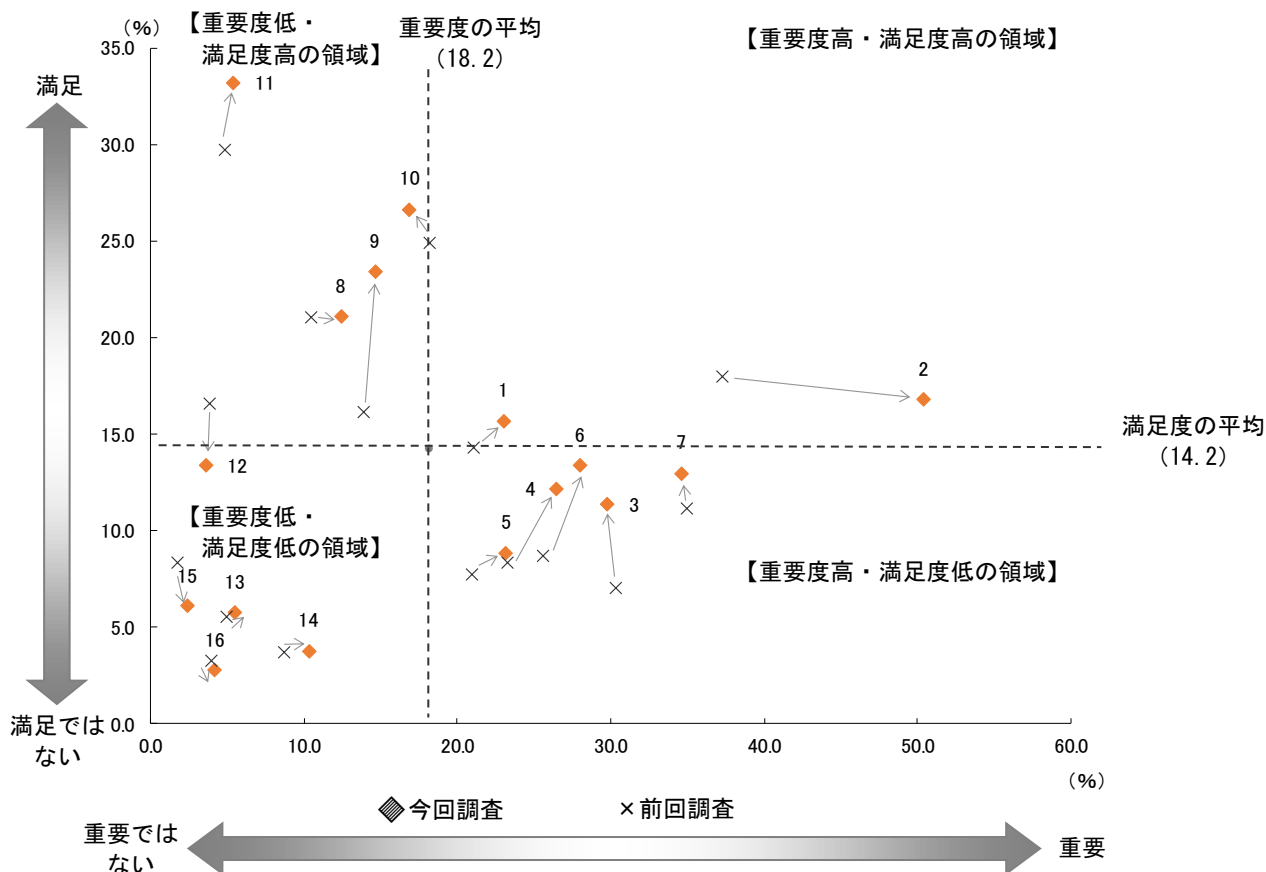
区分	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
全体	4.9	6.1	1.4	1.1	1.5	4.0	0.5	1.5	1.8
【男性 全体】	5.4	6.2	1.9	1.6	1.6	5.3	0.3	1.9	1.5
男性 10歳代	12.1	6.1	6.1	6.1	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	7.0	12.8	3.5	3.5	2.3	7.0	0.0	0.0	1.2
30歳代	4.5	9.1	3.0	0.8	3.8	3.8	0.0	0.8	1.5
40歳代	7.6	8.2	1.6	2.2	1.6	6.5	1.1	0.5	0.0
50歳代	5.0	4.5	2.5	1.0	1.0	4.5	0.5	2.0	0.5
60歳代	3.5	1.8	0.0	0.6	1.8	7.1	0.0	2.9	1.8
70歳以上	4.1	5.1	1.0	1.5	0.5	4.1	0.0	4.1	4.1
【女性 全体】	4.3	6.1	0.9	0.6	1.4	2.8	0.6	1.3	1.4
女性 10歳代	12.1	3.0	0.0	0.0	6.1	0.0	3.0	0.0	0.0
20歳代	5.7	3.4	1.1	2.3	0.0	1.1	3.4	1.1	1.1
30歳代	5.4	4.8	1.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
40歳代	3.5	7.4	0.4	0.4	2.2	3.5	0.9	1.7	0.9
50歳代	2.8	7.5	0.8	0.0	2.0	3.6	0.0	0.0	0.4
60歳代	3.9	5.4	0.5	0.5	1.5	4.9	0.0	2.5	1.0
70歳以上	4.5	6.4	1.1	1.1	0.4	2.3	0.0	1.9	3.8

(4) 個別目標の重要度・満足度

縦軸を満足度、横軸を重要度とし、各施策に対する回答の割合を座標で示した。重要度と満足度の平均値を中間線で区分し、各施策に対する回答結果を4つの領域に分けて示している。


(図表3-12)

図表3-12 個別目標の重要度・満足度一クロス分析



	分野
1	心身の健康の維持・増進に関すること
2	地域医療や救急医療に関すること
3	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること
4	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること
5	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること
6	災害に強いまちづくりに関すること
7	防犯や交通安全に関すること
8	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
9	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること
10	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること
11	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること
12	文化や芸術の振興に関すること
13	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること
14	地域経済の活性化に関すること
15	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること
16	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること

図表 3-13 個別目標の重要度・満足度－クロス分析の詳細

満足  満足ではない	【重要度低・満足度高の領域】 8 緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること 9 公園や道路などの都市基盤の整備に関すること 10 交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること 11 読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	【重要度高・満足度高の領域】 1 心身の健康の維持・増進に関すること 2 地域医療や救急医療に関すること
	【重要度低・満足度低の領域】 12 文化や芸術の振興に関すること 13 性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること 14 地域経済の活性化に関すること 15 イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること 16 地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	【重要度高・満足度低の領域】 3 高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること 4 こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること 5 こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること 6 災害に強いまちづくりに関すること 7 防犯や交通安全に関すること
	重要ではない ←	→ 重要

重要度・満足度ともに高い領域には「心身の健康の維持・増進に関すること」、「地域医療や救急医療に関すること」がある。この領域にある施策は、質・量ともに住民のニーズに即していると考えられる。

重要度が高く満足度が低い領域には「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」、「こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること」、「こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること」、「災害に強いまちづくりに関すること」「防犯や交通安全に関すること」がある。この領域については、施策の充実について検討していく必要があると考えられる。

重要度が低く満足度が高い領域には「緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること」、「公園や道路などの都市基盤の整備に関すること」、「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」、「読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること」がある。この領域については、施策が効果的に推進されてきたと捉えることもでき、提供するサービスの量について検討する必要があると考えられる。

重要度が低く満足度が低い領域には「文化や芸術の振興に関すること」、「性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること」、「地域経済の活性化に関すること」、「イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること」、「地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること」がある。この領域については、施策のあり方や効果的な推進方法について検討する必要があると考えられる。(図表 3-13)

(5) 成果を計る指標について

問4 あなたは次にあげる項目についてどう思われますか。1～28の項目それぞれについて、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の中から選んで番号に○印をつけてください。(それぞれ○印は1つ)

成果を計る指標について、「そう思う」と「ややそう思う」の合計(以下【そう思う】という)が6割以上となっている項目は、「大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う」(81.1%)、「あなたは、健康であると思う」(79.1%)、「大和市は、買い物がしやすいと思う」(75.5%)、「以前に比べて、航空機による騒音の被害が減ったと思う」(74.4%)、「大和市には、緑や公園が多いと思う」(71.2%)、「あなたの地域では、広域避難場所が知られていると思う」(70.9%)、「大和市は、安心して医療が受けられる体制が整っていると思う」(68.0%)、「あなたのまわりでは、男女が平等であると感じる」(66.1%)、「あなたの地域では、差別意識がないと思う」(63.5%)、「あなたは、自ら健康づくりに取り組んでいると思う」(62.7%)、「あなたの地域では、高齢の方が生き生きと活動していると思う」(61.8%)、「大和市では、市政情報(市が提供すべき情報)を手軽に入手できると思う」(61.5%)の12項目となっている。(図表4-1)

また、健康都市やまと総合計画・前期基本計画において成果を計る指標に設定している19項目のうち、中間目標値を達成したものは、「あなたの地域では、介護を必要とする人が安心して暮らしていると思う」(56.3%、中間目標値:54.5%)、「あなたのまわりでは、男女が平等であると感じる」(66.1%、中間目標値:26.0%)、「大和市では、子育てに関する不安を相談できる場があると思う」(58.2%、中間目標値:58.0%)、「大和市では、こどもの個性や能力にあった教育が行われていると思う」(42.6%、中間目標値:42.5%)、「大和市には、緑や公園が多いと思う」(71.2%、中間目標値:71.0%)、「大和市には、良好な街並みが形成されていると思う」(54.5%、中間目標値:50.5%)、「大和市は、買い物がしやすいと思う」(75.5%、中間目標値:69.0%)、「大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う」(81.1%、中間目標値:79.0%)の8項目となっている。

図表 4-1 成果を計る指標-全体 (グラフ)

■ そう思う □ ややそう思う ▨ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 無回答

回答者数 = 2,396



図表４－１ 成果を計る指標－全体（つづき）

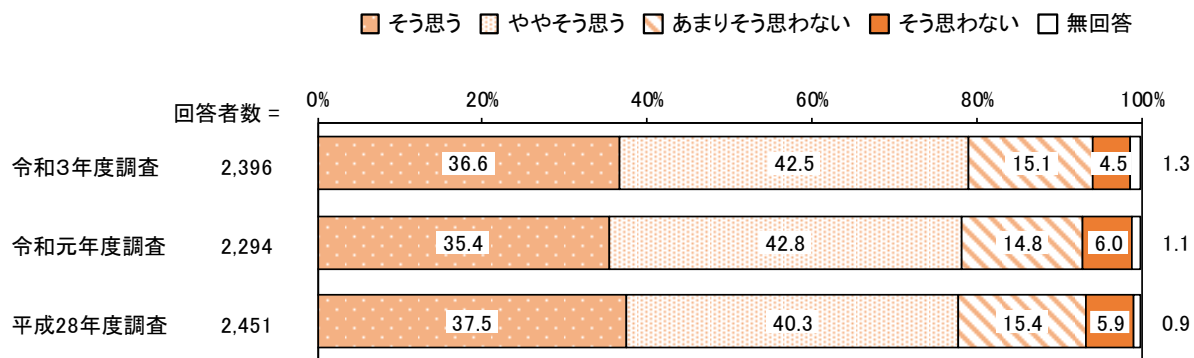
単位：％

回答者数（N） 2,396		そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答
【健康・医療・福祉・人権】	あなたは、健康であると思う	36.6	42.5	15.1	4.5	1.3
	あなたは、自ら健康づくりに取り組んでいると思う	20.5	42.2	28.7	7.2	1.5
	こどもから高齢の方まで、年代に応じた居場所があると思う	12.5	42.1	34.2	8.1	3.1
	大和市は、安心して医療が受けられる体制が整っていると思う	14.2	53.8	24.5	5.6	2.0
	あなたの地域では、介護を必要とする人が安心して暮らしていると思う	7.3	49.0	35.4	4.5	3.8
	あなたの地域では、高齢の方が生き生きと活動していると思う	12.4	49.4	30.8	4.3	3.1
	あなたの地域では、支えあう人のつながりがあると思う	6.0	32.3	46.7	12.4	2.5
	あなたの地域では、差別意識がないと思う	16.0	47.5	27.2	6.3	2.9
	あなたのまわりでは、男女が平等であると感じる	18.4	47.7	25.7	5.4	2.7
【こども】	大和市では、子育てに関する不安を相談できる場があると思う	11.9	46.3	30.4	4.6	6.8
	大和市では、経済的に不安なく子育てができていると思う	5.8	39.4	39.1	8.5	7.1
	大和市では、こどもの個性や能力にあった教育が行われていると思う	5.2	37.4	41.5	8.4	7.5
【スポーツ・文化・国際交流】	あなたは、日常的にスポーツを楽しんでいると思う	11.1	21.5	36.9	28.5	1.9
	大和の歴史や文化は、しっかり継承されていると思う	5.1	33.3	44.5	13.3	3.7
	大和市では、文化や芸術活動が盛んに行われていると思う	9.1	39.1	38.6	9.3	3.9
	あなたのまわりでは、多文化共生や国際交流が行われていると思う	4.4	22.0	50.8	18.9	4.0
【安全・安心】	以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う	11.2	47.7	27.9	9.6	3.7
	あなたの地域では、広域避難場所が知られていると思う	21.9	49.0	22.2	4.9	2.1
	以前に比べて、航空機による騒音の被害が減ったと思う	34.1	40.3	15.7	8.1	1.9
【環境・緑・公園】	あなたのまわりでは、環境に配慮している人が多いと思う	7.3	44.0	37.8	8.3	2.6
	大和市には、緑や公園が多いと思う	21.9	49.3	21.5	5.3	2.0
【都市環境】	大和市は、良好な街並みが形成されていると思う	9.8	44.7	33.6	9.6	2.3
	大和市は、買い物がしやすいと思う	28.3	47.2	17.7	5.2	1.5
	大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う	35.1	46.0	13.4	4.0	1.5
【地域活動】	あなたは、地域活動に参加していると思う	4.5	15.9	36.7	42.0	0.8
【開かれた行政】	大和市では、市政情報（市が提供すべき情報）を手軽に入手できると思う	12.6	48.9	30.1	7.2	1.3
	大和市役所は、市民の声が届く市役所であると思う	5.3	35.3	44.5	12.7	2.1
	大和市では、市政への参加の機会が確保されていると思う	4.3	28.4	52.6	12.1	2.6

1 あなたは、健康であると思う

【そう思う】は79.1%で、前回結果（78.2%）と比較して0.9ポイント増加している。
 (図表4-2)

図表4-2 成果を計る指標—経年比較（グラフ）

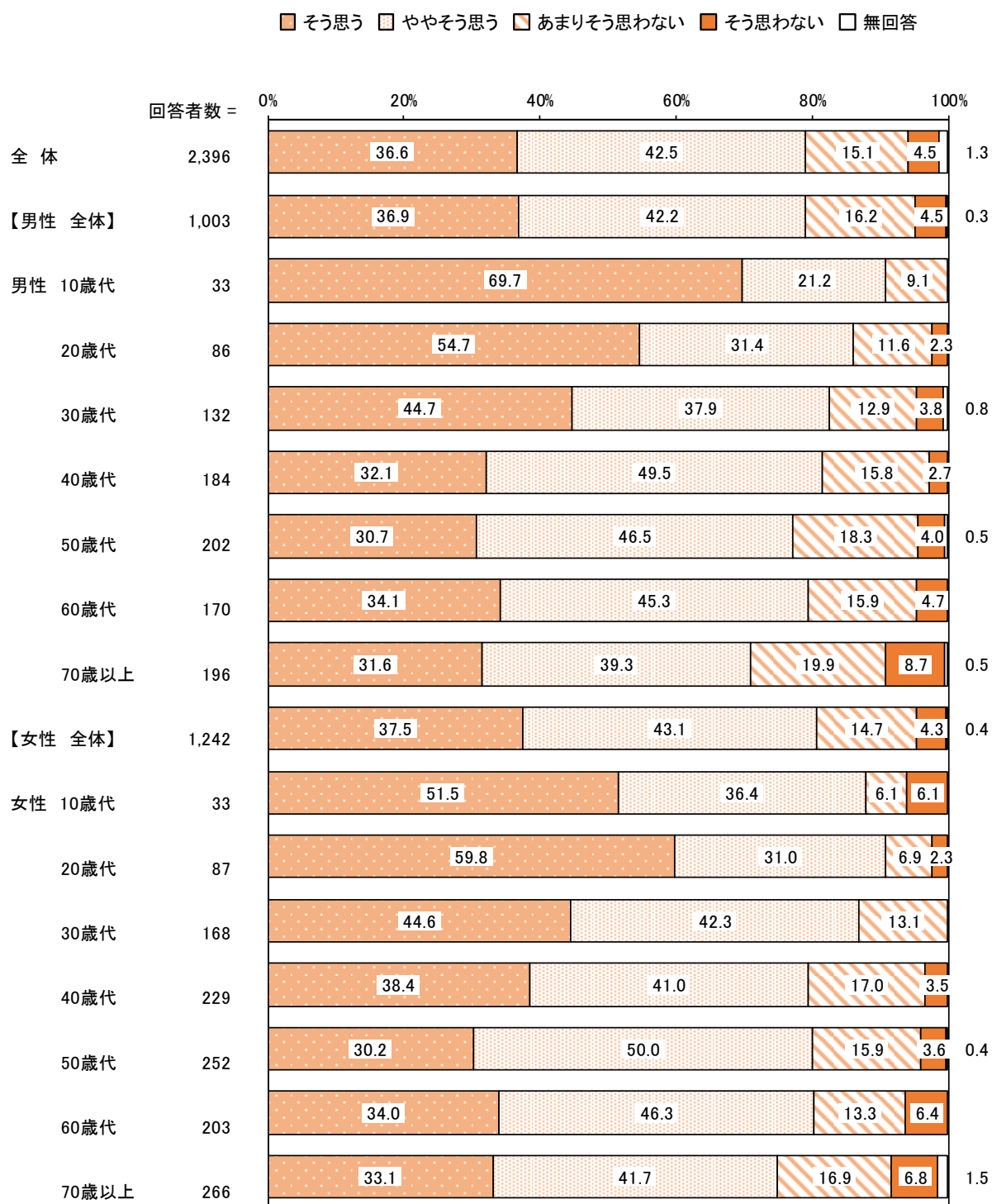


【性別・年齢別】

性別にみると、女性の【そう思う】(80.6%)は男性の【そう思う】(79.1%)よりも1.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男性10歳代、女性20歳代で【そう思う】と回答した人が約9割と高くなっている。また、男性70歳以上では【そう思う】(70.9%)と回答した人が約7割と低くなっている。(図表4-3)

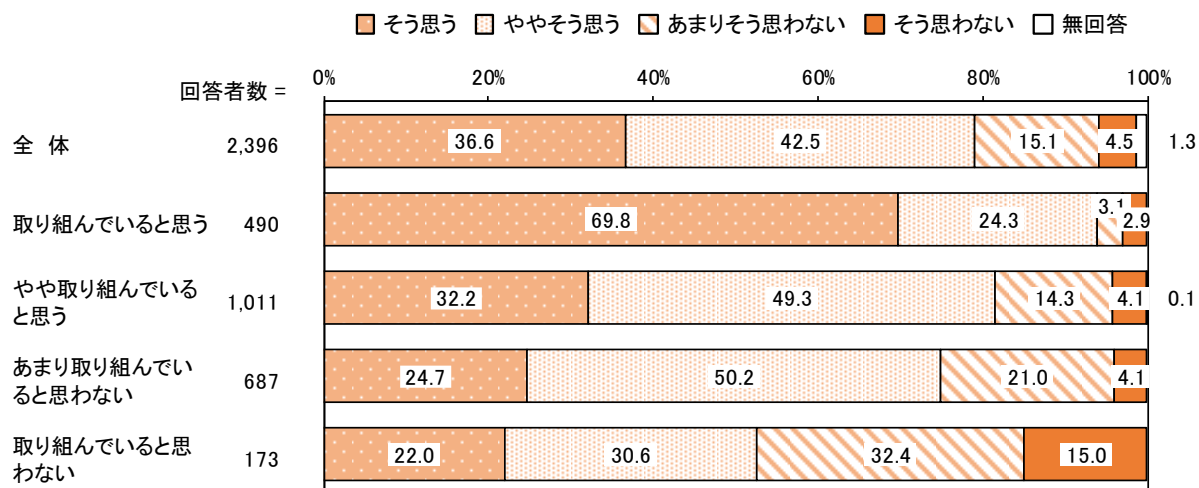
図表4-3 成果を計る指標—性別・年齢別



【健康づくりへの取り組み別】

健康づくりへの取り組み別にみると、「取り組んでいると思う」と回答した人では【そう思う】(94.1%)が9割台半ばと多くなっている。また、「取り組んでいると思わない」と回答した人では【そう思う】(52.6%)が5割強と低くなっている。(図表4-4)

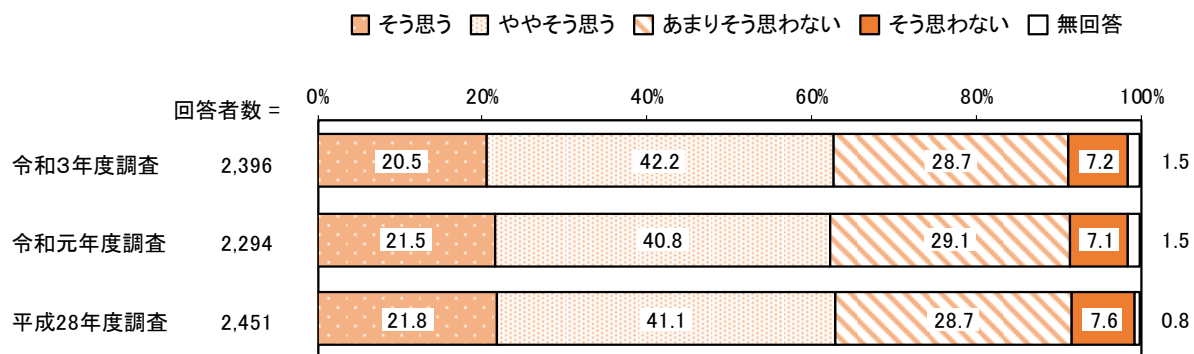
図表4-4 成果を計る指標—健康づくりへの取り組み別



2. あなたは、自ら健康づくりに取り組んでいると思う

【そう思う】は62.7%で、前回結果（62.3%）と比較して0.4ポイント増加している。
（図表4-5）

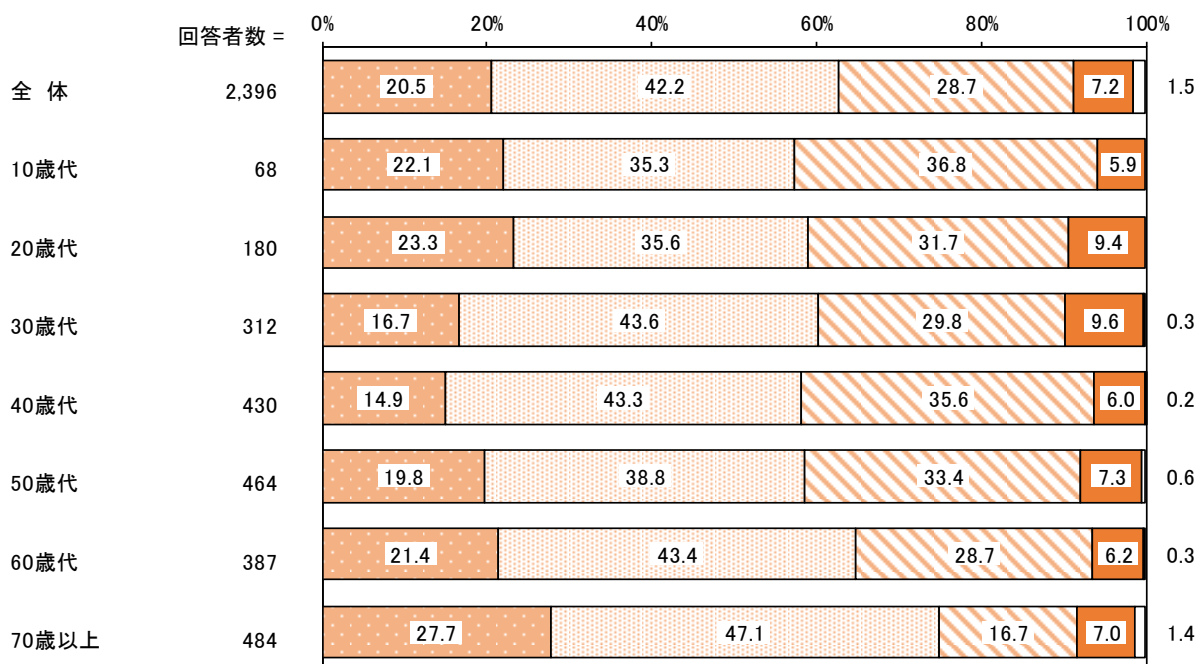
図表4-5 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、【そう思う】が70歳以上（74.8%）で7割半ばとなっている。（図表4-6）

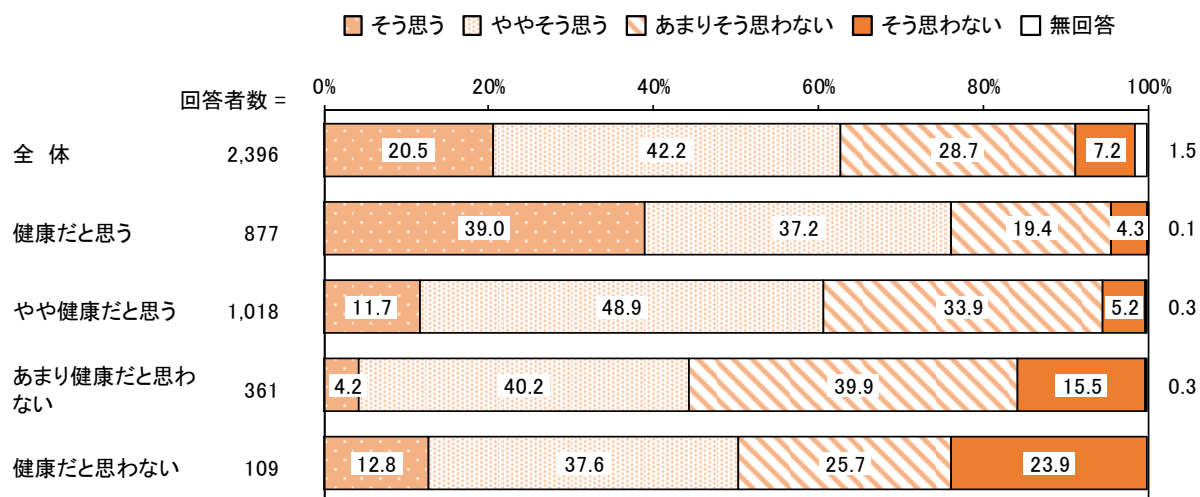
図表4-6 成果を計る指標—年齢別



【健康感別】

健康感別にみると、「健康だと思う」と回答した人では、【そう思う】(76.2%)が7割半ばと多くなっている。また、「あまり健康だと思わない」と回答した人では【そう思う】(44.4%)が4割台半ばと低くなっている。(図表4-7)

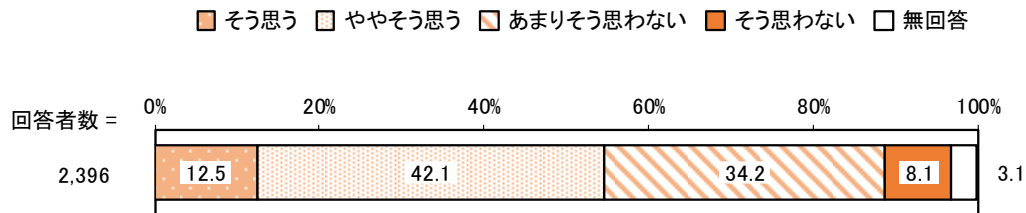
図表4-7 成果を計る指標－健康感別



3. こどもから高齢の方まで、年代に応じた居場所があると思う

【そう思う】は54.6%で5割半ばとなっている。(図表4-8)

図表4-8 成果を計る指標—経年比較

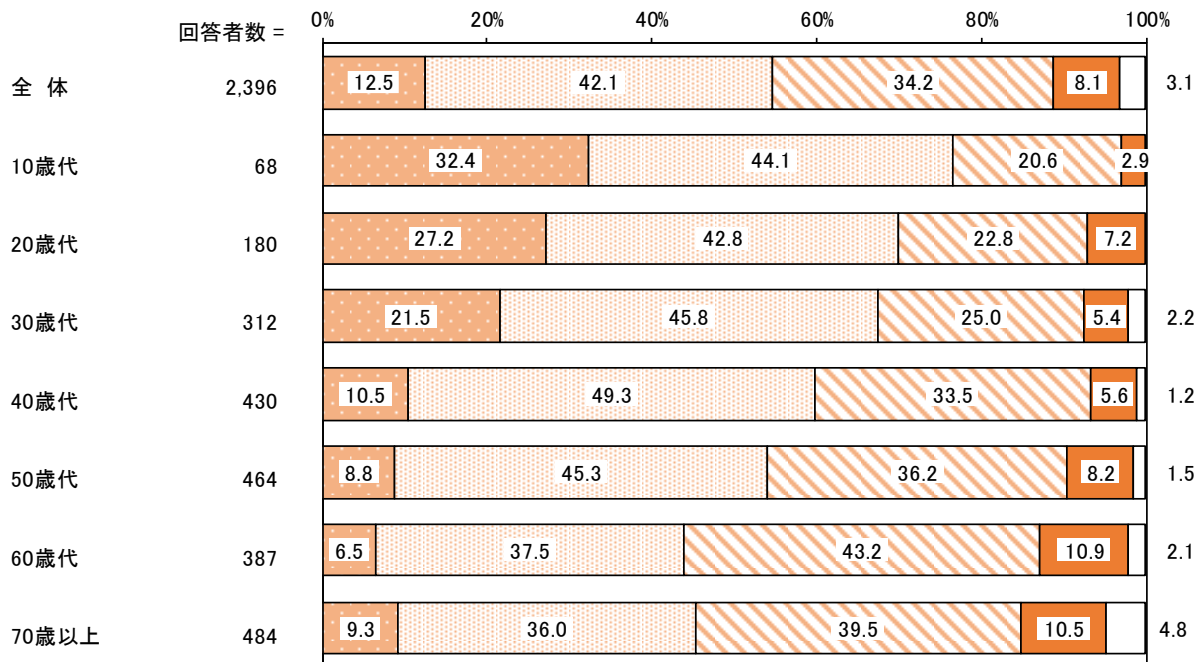


※平成28年度調査、令和元年度調査には該当設問はありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるにつれて【そう思う】が増加傾向となっている。(図表4-9)

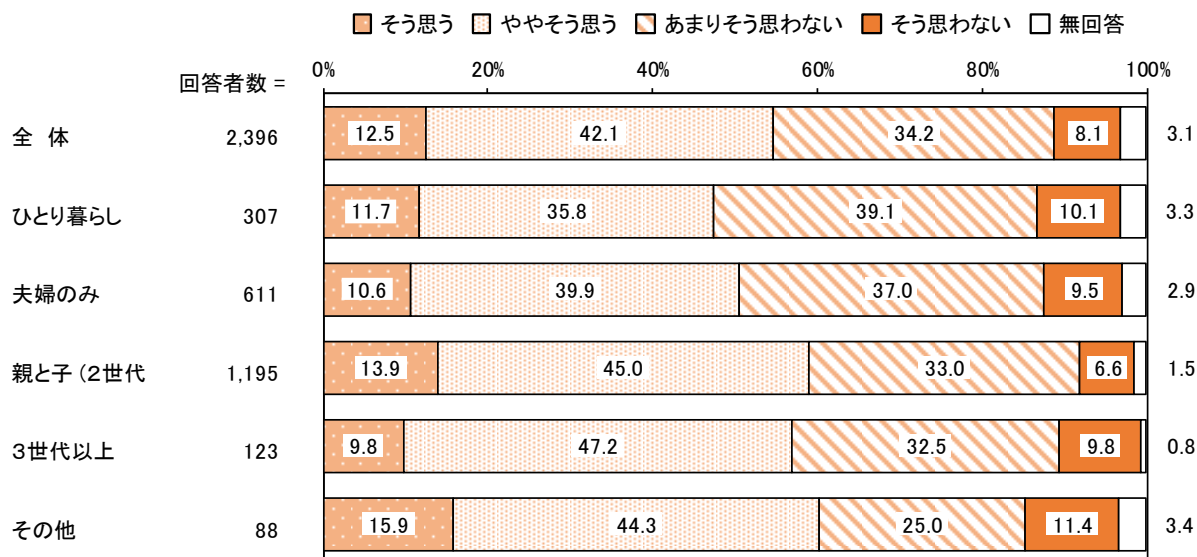
図表4-9 成果を計る指標—年齢別



【家族構成別】

家族構成別では、【**そう思う**】と回答した人が、親と子(2世代)(58.9%)で6割近くとなっている。(図表4-10)

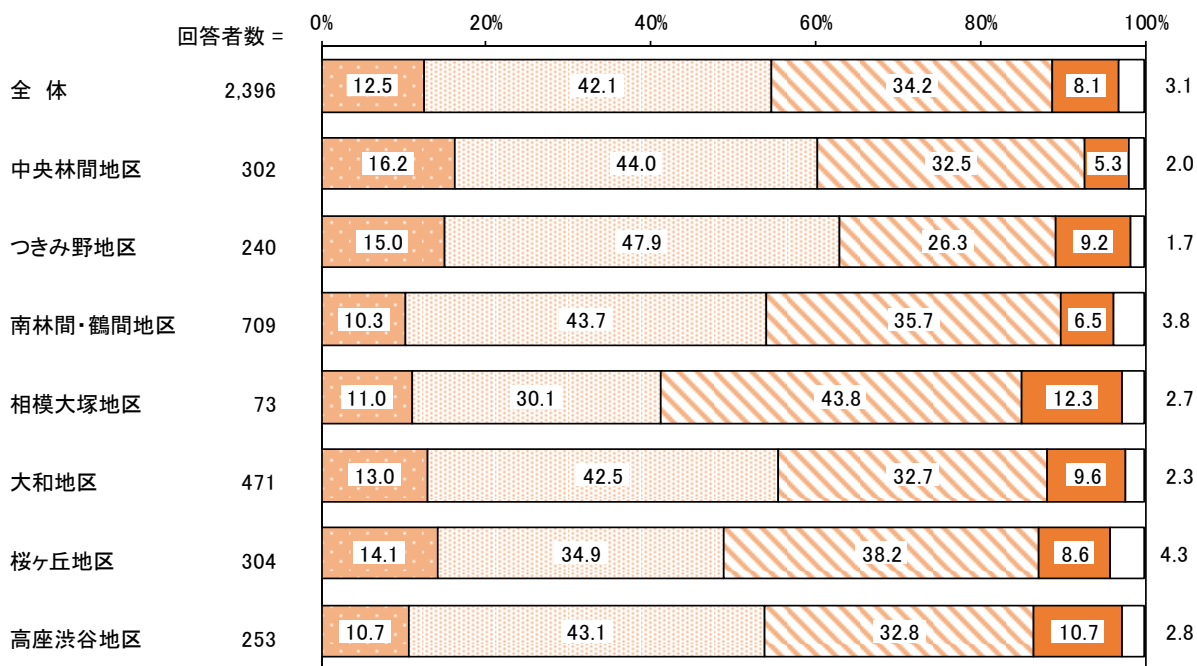
図表4-10 成果を計る指標—家族構成別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【**そう思う**】と回答した人が、つきみ野地区(62.9%)、中央林間地区(60.2%)で6割以上となっている。(図表4-11)

図表4-11 成果を計る指標—居住地域別

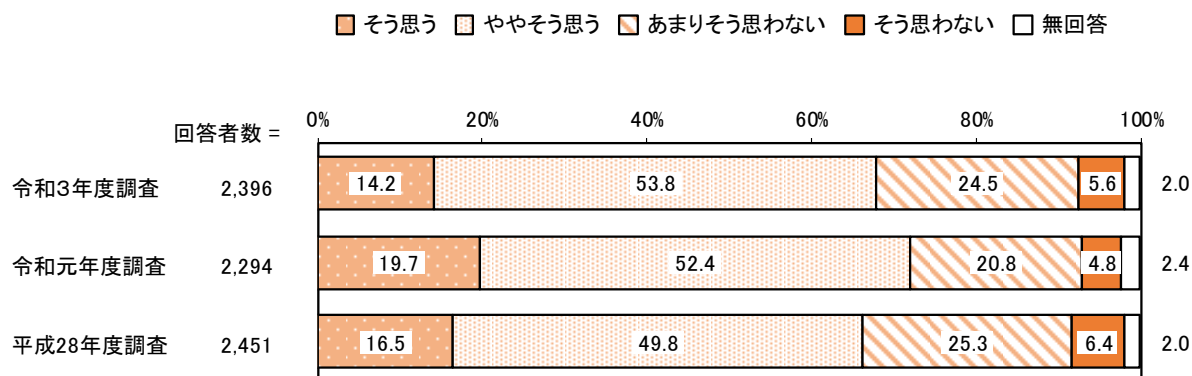


4. 大和市は、安心して医療が受けられる体制が整っていると思う

【そう思う】は68.0%で、前回結果（72.1%）と比較して4.1ポイント減少している。

（図表4-12）

図表4-12 成果を計る指標－経年比較

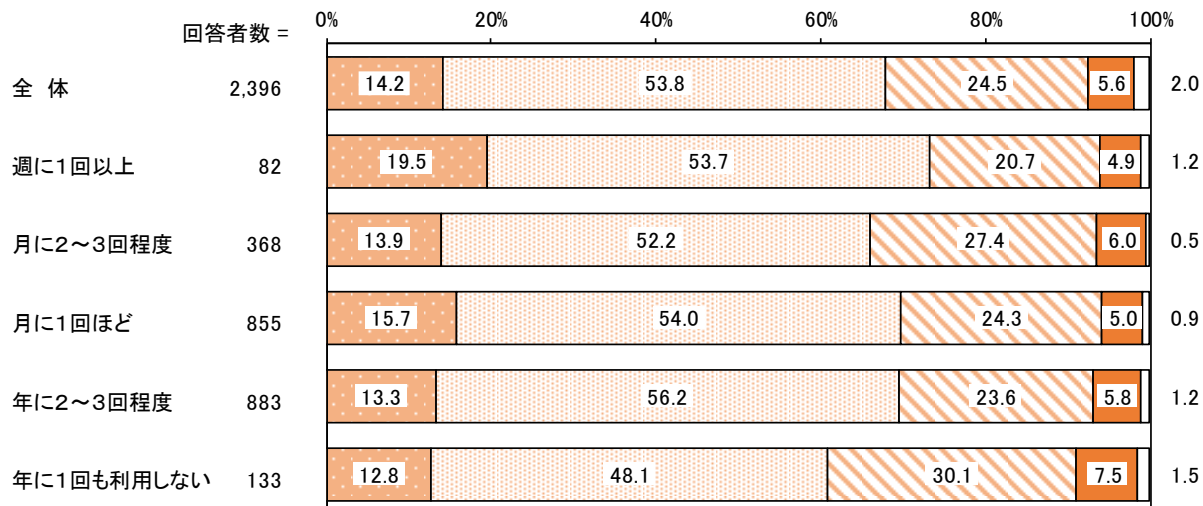


【医療機関の利用頻度別】

医療機関の利用頻度別では、週に1回以上で【そう思う】が73.2%と7割を超えている。

（図表4-13）

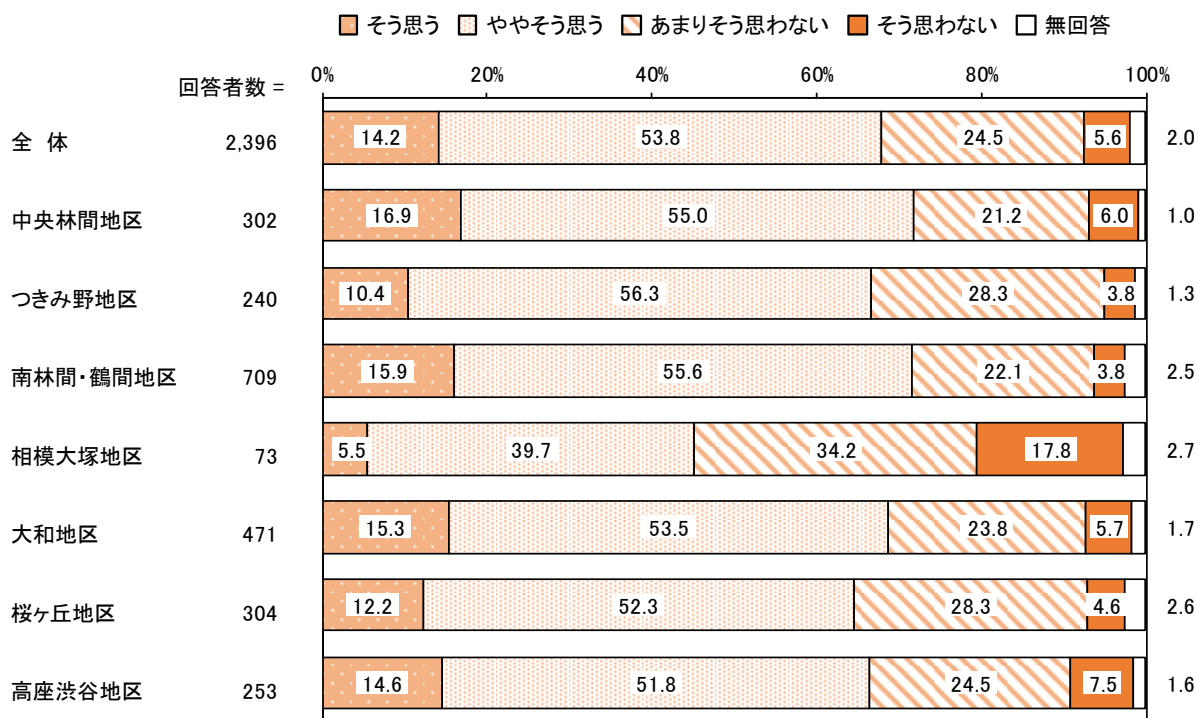
図表4-13 成果を計る指標－医療機関の利用頻度別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、中央林間地区（71.9%）、南林間・鶴間地区（71.5%）で7割を超えている。（図表4-14）

図表4-14 成果を計る指標－居住地域別

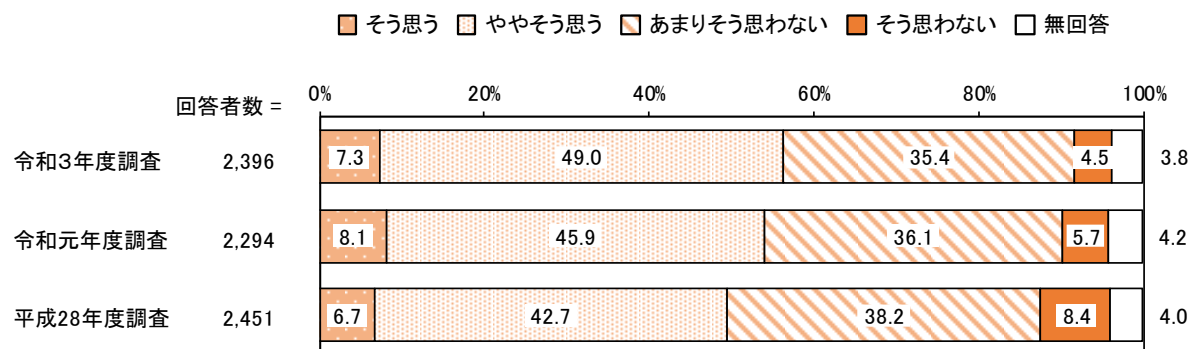


5. あなたの地域では、介護を必要とする人が安心して暮らしていると思う

【そう思う】は56.3%で、前回結果（54.0%）と比較して2.3ポイント増加している。

（図表4-15）

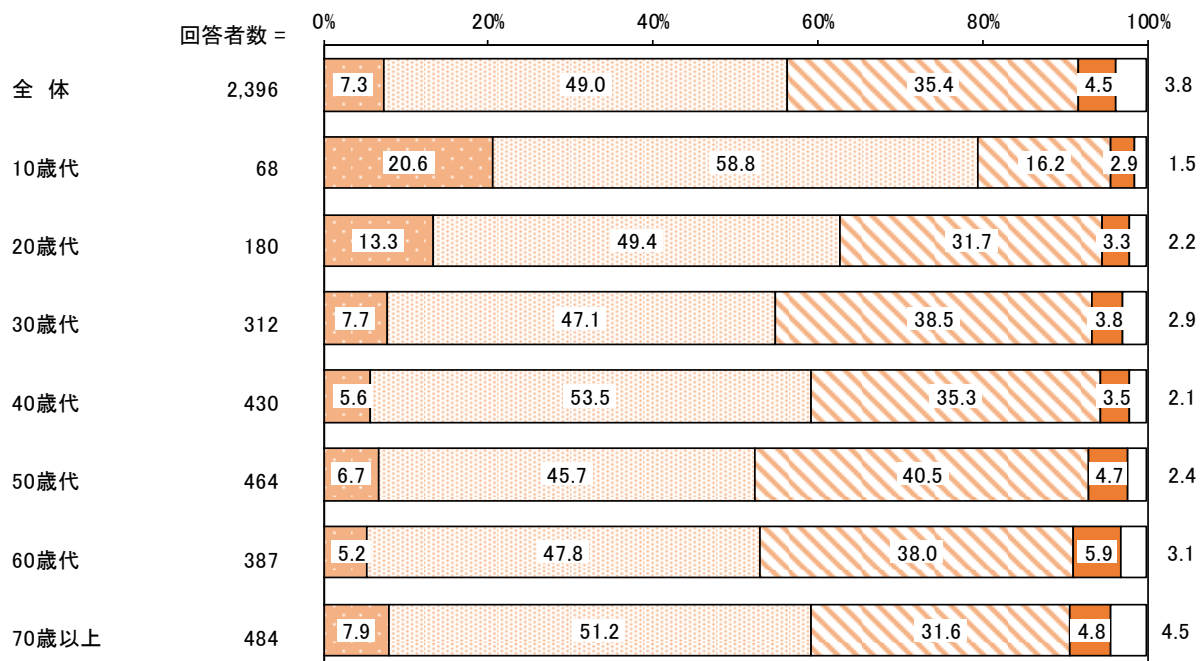
図表4-15 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、【そう思う】と回答した人が、10歳代（79.4%）、20歳代（62.7%）で多くなっている。（図表4-16）

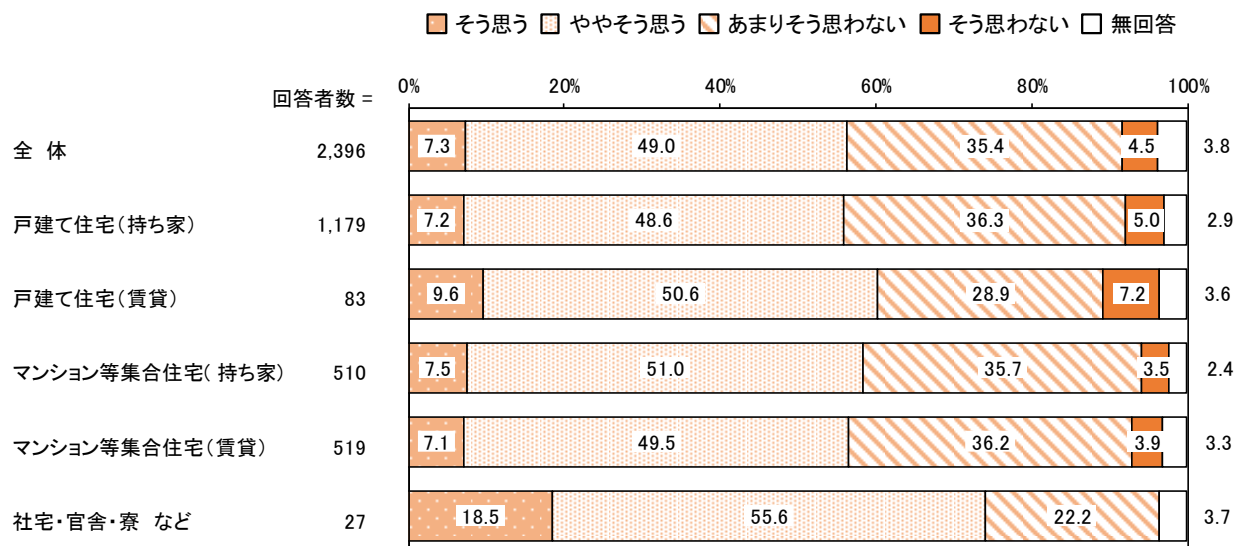
図表4-16 成果を計る指標—年齢別



【居住の形態別】

居住の形態別では、【**そう思う**】と回答した人が社宅・官舎・寮など（74.1%）で7割半ばとなっている。（図表4-17）

図表4-17 成果を計る指標－居住の形態別

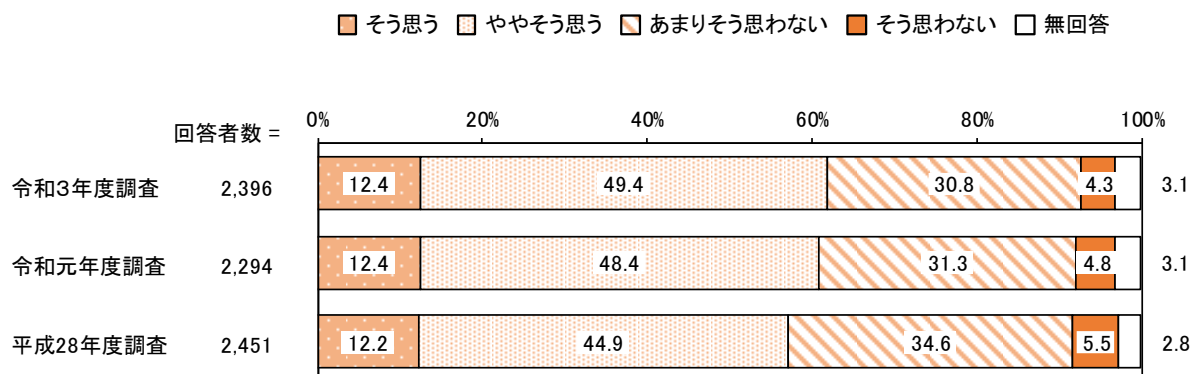


6. あなたの地域では、高齢の方が生き生きと活動していると思う

【そう思う】は61.8%で、前回結果（60.8%）と比較して1.0ポイント増加している。

（図表4-18）

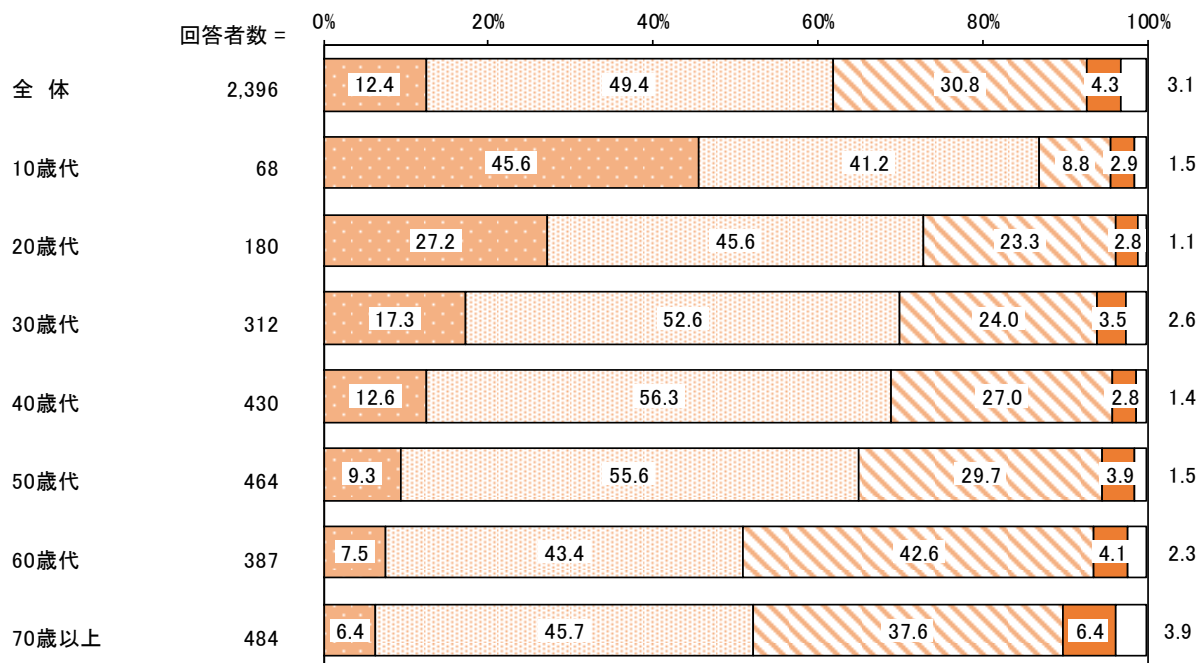
図表4-18 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるにつれて【そう思う】が増加傾向となっている。（図表4-19）

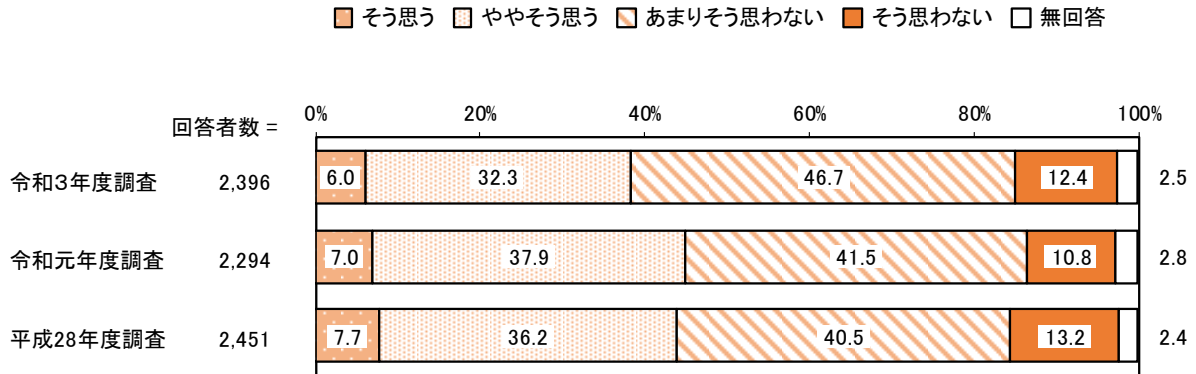
図表4-19 成果を計る指標—年齢別



7. あなたの地域では、支えあう人のつながりがあると思う

【そう思う】は38.3%で、前回結果（44.9%）と比較して6.6ポイント減少している。
 (図表4-20)

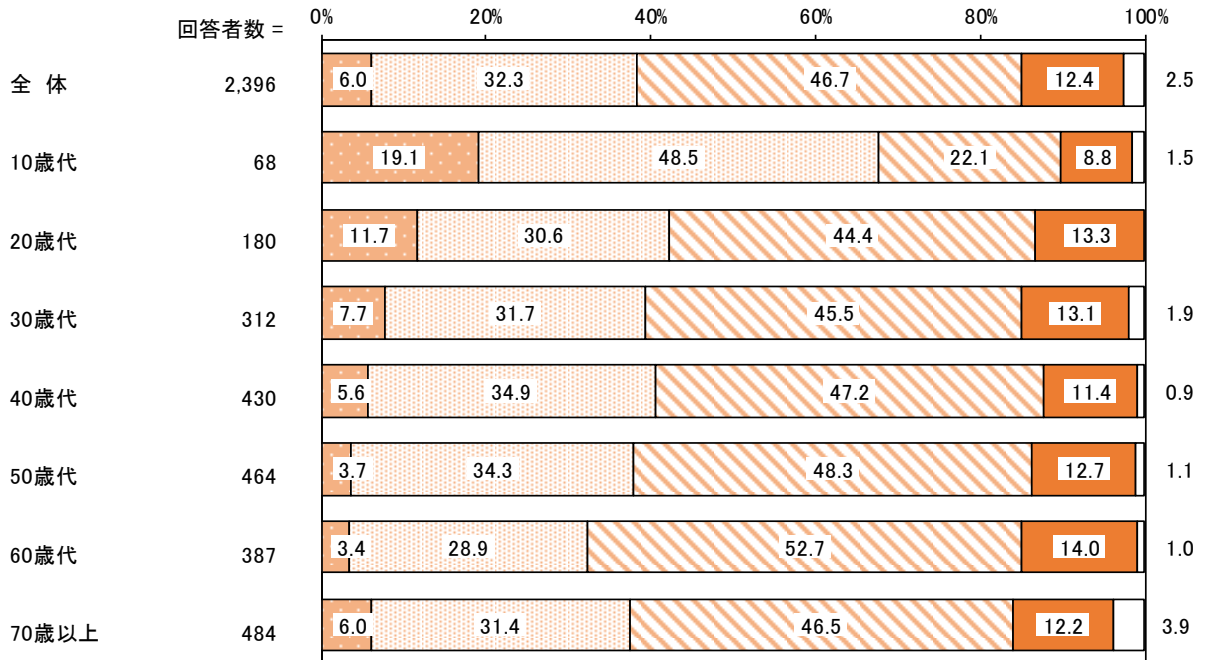
図表4-20 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代で【そう思う】（67.6%）が7割近くとなっている。（図表4-21）

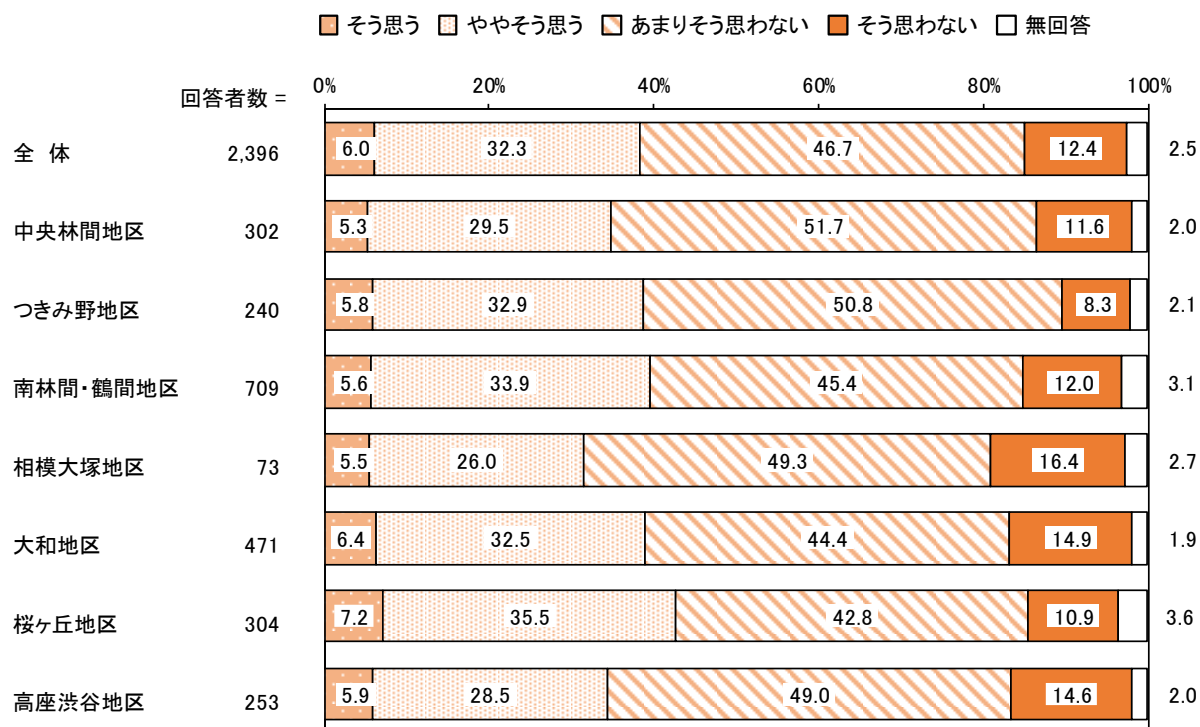
図表4-21 成果を計る指標—年齢別



【居住地地域別】

居住地地域別にみると、【**そう思う**】と回答した人が、桜ヶ丘地区（42.7%）で4割を超えている。
（図表4-22）

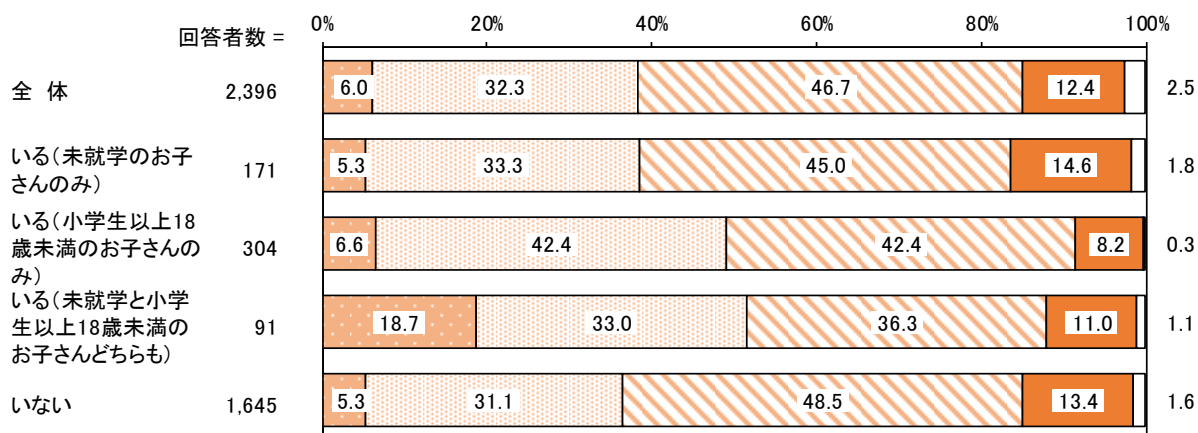
図表4-22 成果を計る指標－居住地地域別



【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、「いる（未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも）」と回答した人では、【**そう思う**】（51.7%）が5割を超えて多くなっている。（図表4-23）

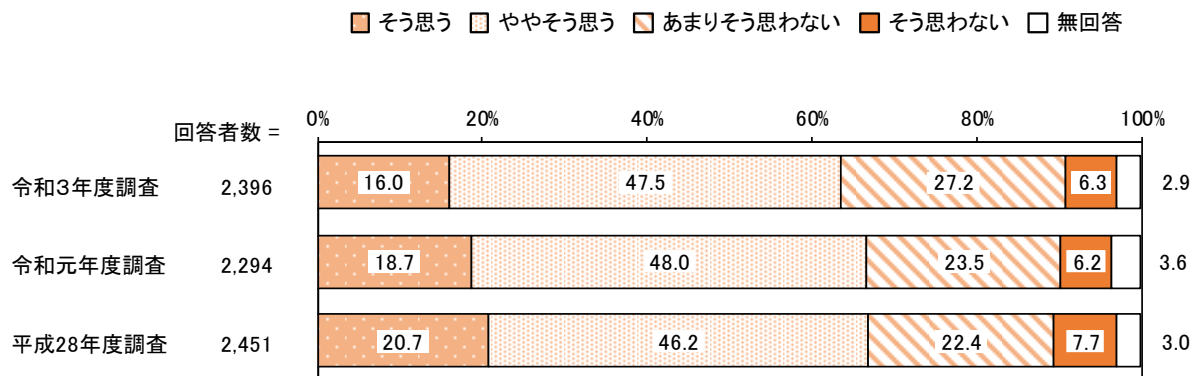
図表4-23 成果を計る指標－こどもの有無別



8. あなたの地域では、差別意識がないと思う

【そう思う】は63.5%で、前回結果（66.7%）と比較して3.2ポイント減少している。
 (図表4-24)

図表4-24 成果を計る指標—経年比較



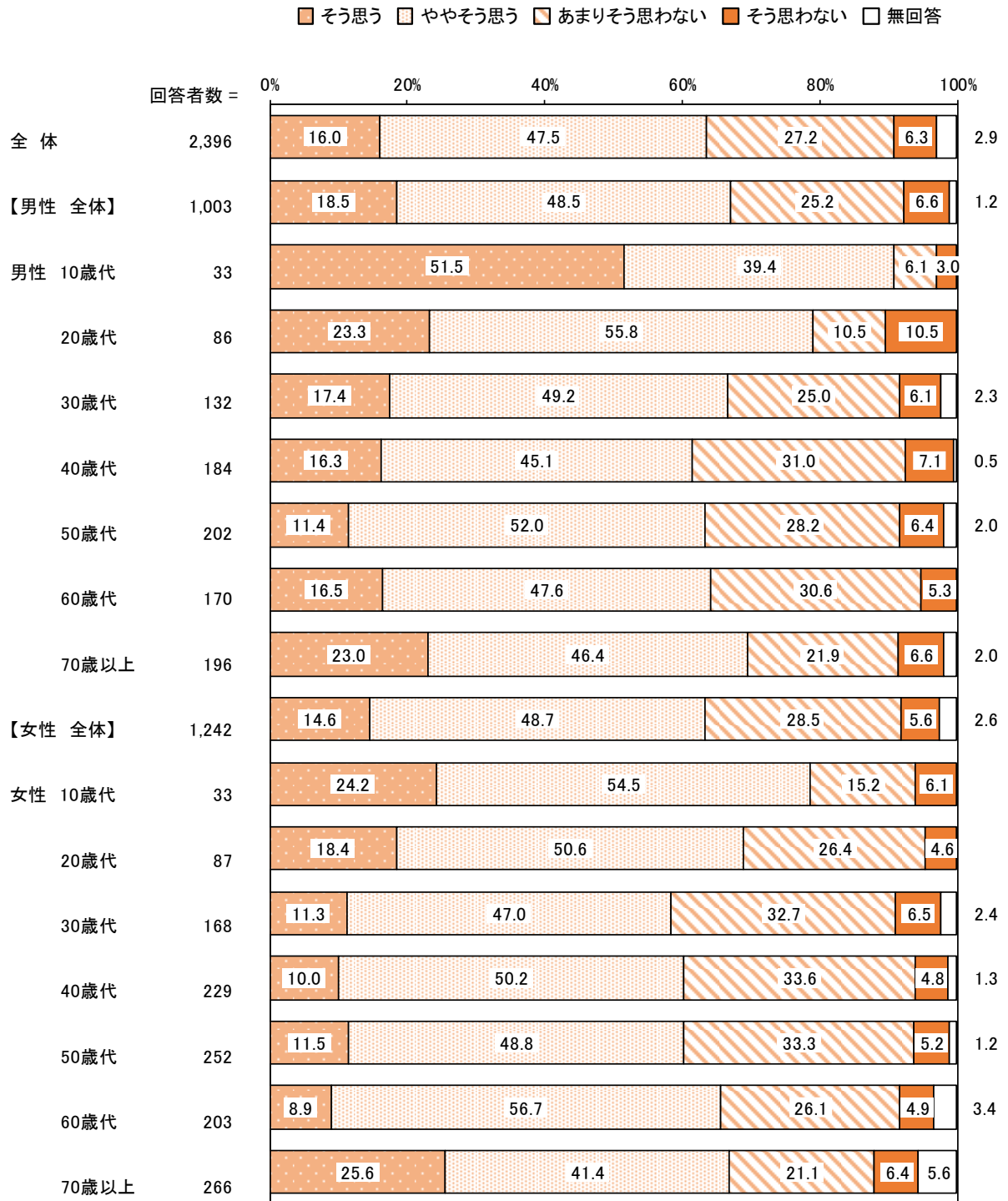
【性別・年齢別】

性別にみると、女性の【そう思う】(63.3%)は男性の【そう思う】(67.0%)よりも3.7ポイント低くなっている。

年齢別では、【そう思う】と回答した人が、男性の10歳代(90.9%)で約9割と多くなっている。

(図表4-25)

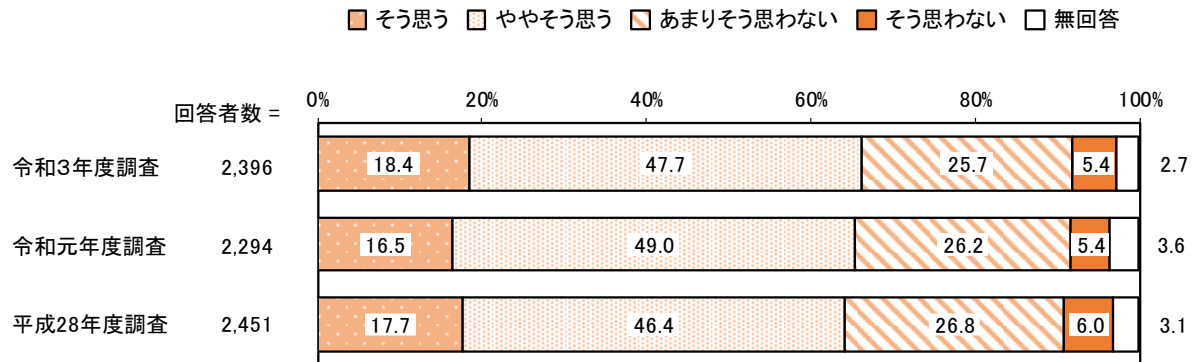
図表4-25 成果を計る指標—性別・年齢別



9. あなたのまわりでは、男女が平等であると感じる

【そう思う】は66.1%で前回結果（65.5%）と比較して0.6ポイント増加している。
 (図表4-26)

図表4-26 成果を計る指標—経年比較



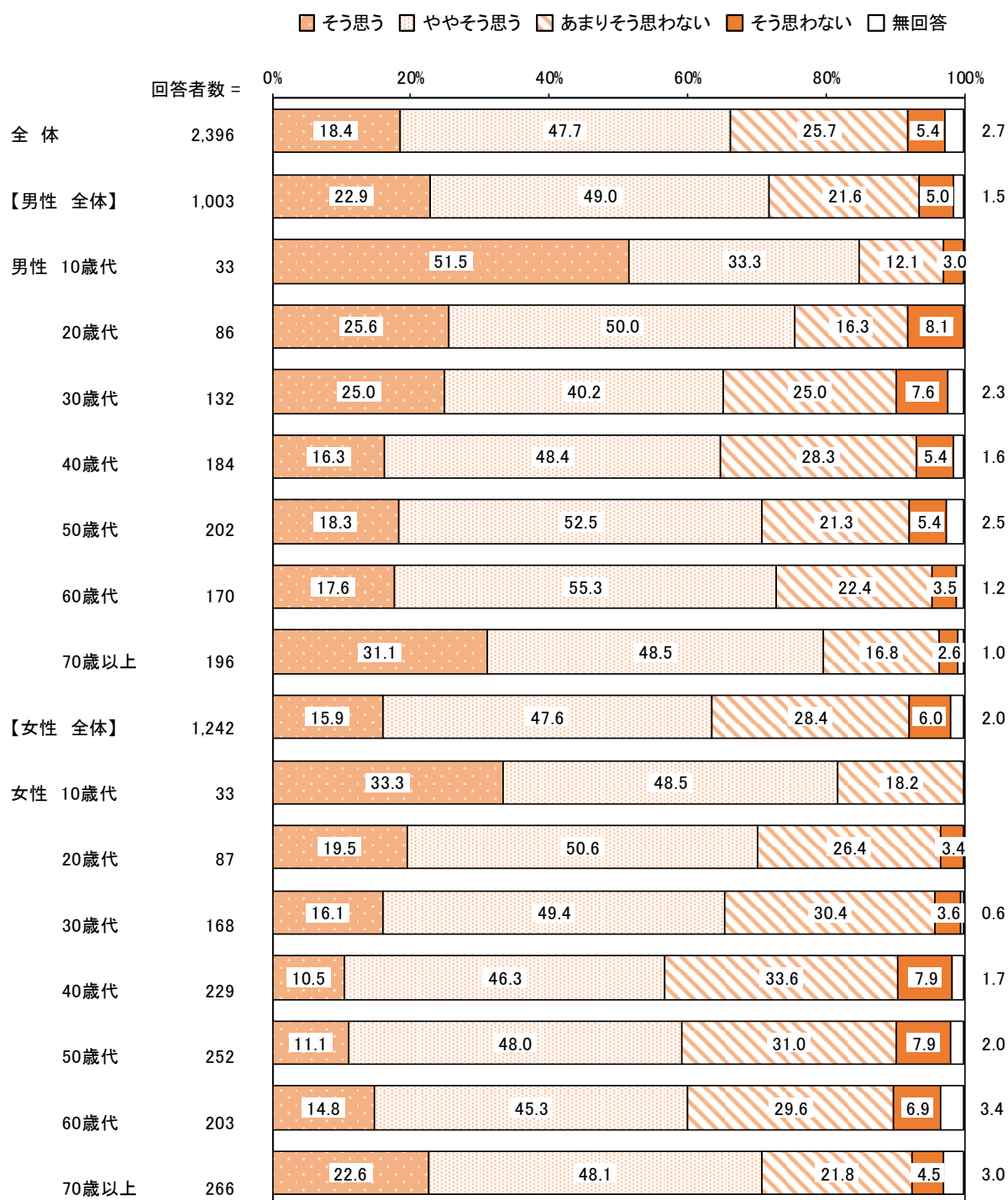
※平成28年度調査、令和元年度調査では「あなたのまわりでは、男女が対等な立場で活躍していると思う」という設問でした。

【性別・年齢別】

性別にみると、男性の【そう思う】(71.9%)は女性の【そう思う】(63.5%)よりも8.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、【そう思う】と回答した人が、男性10歳代(84.8%)、女性10歳代(81.8%)で8割を超えている。(図表4-27)

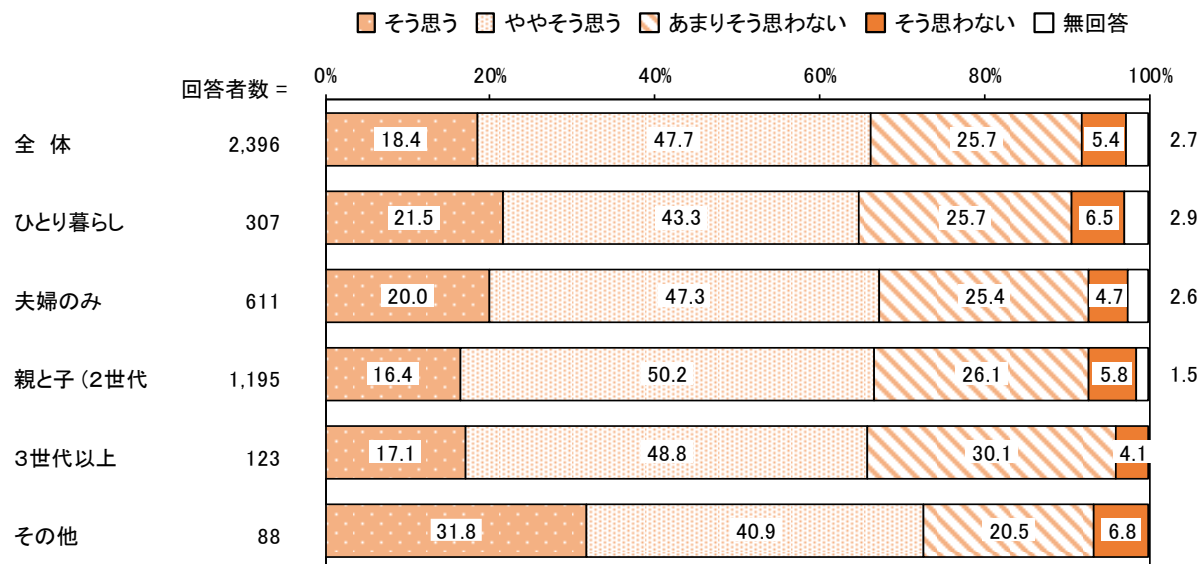
図表4-27 成果を計る指標—性別・年齢別



【家族構成別】

家族構成別では、大きな差異は見られない。(図表4-28)

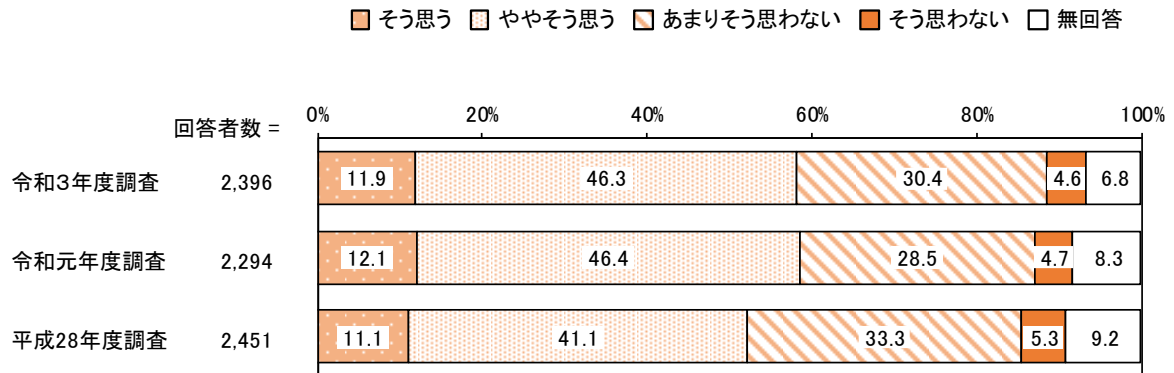
図表4-28 成果を計る指標—家族構成別



10. 大和市では、子育てに関する不安を相談できる場があると思う

【そう思う】は58.2%で、前回結果（58.5%）と比較して0.3ポイント減少している。
 (図表4-29)

図表4-29 成果を計る指標—経年比較



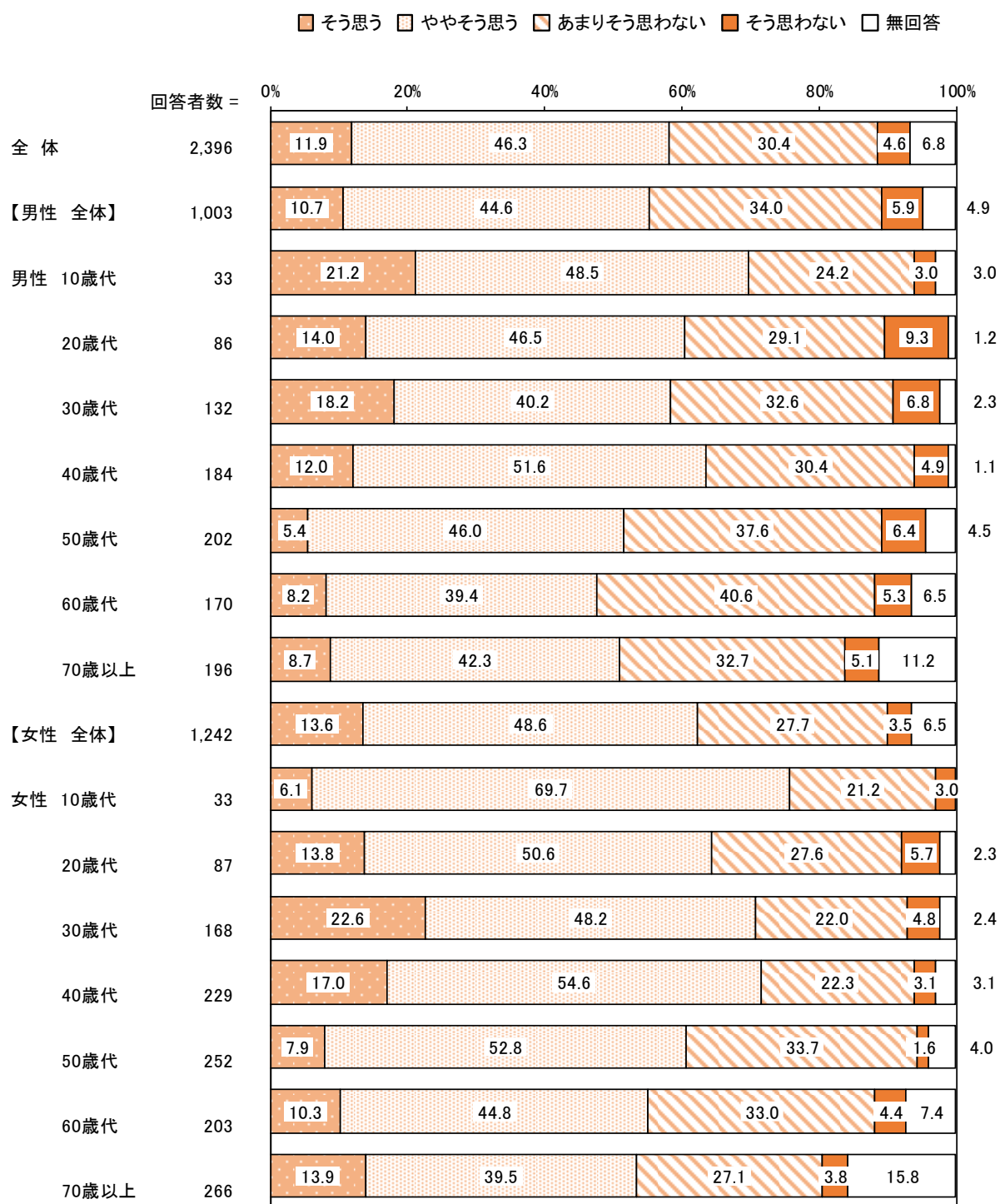
【性別・年齢別】

性別にみると、女性の【そう思う】(62.2%)は男性の【そう思う】(55.3%)よりも6.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性10歳代(75.8%)で【そう思う】が7割半ばとなっている。

(図表4-30)

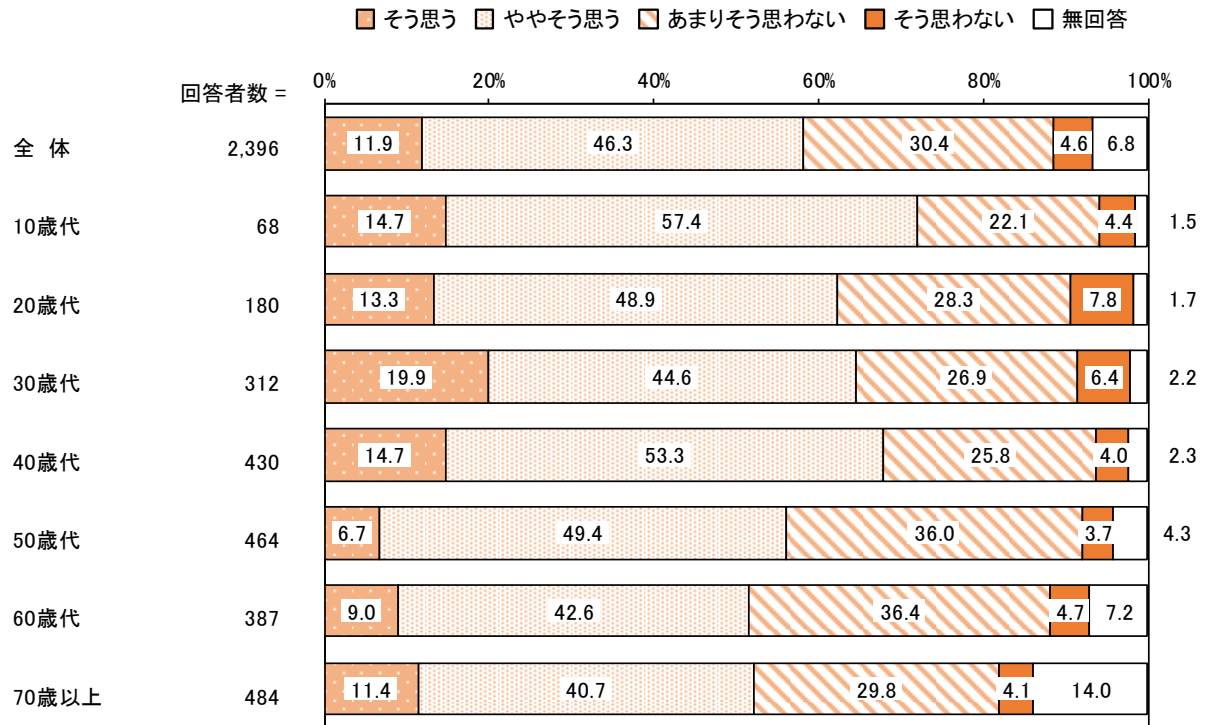
図表4-30 成果を計る指標—性別・年齢別



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代（72.1%）で【そう思う】が7割を超えている。（図表4-31）

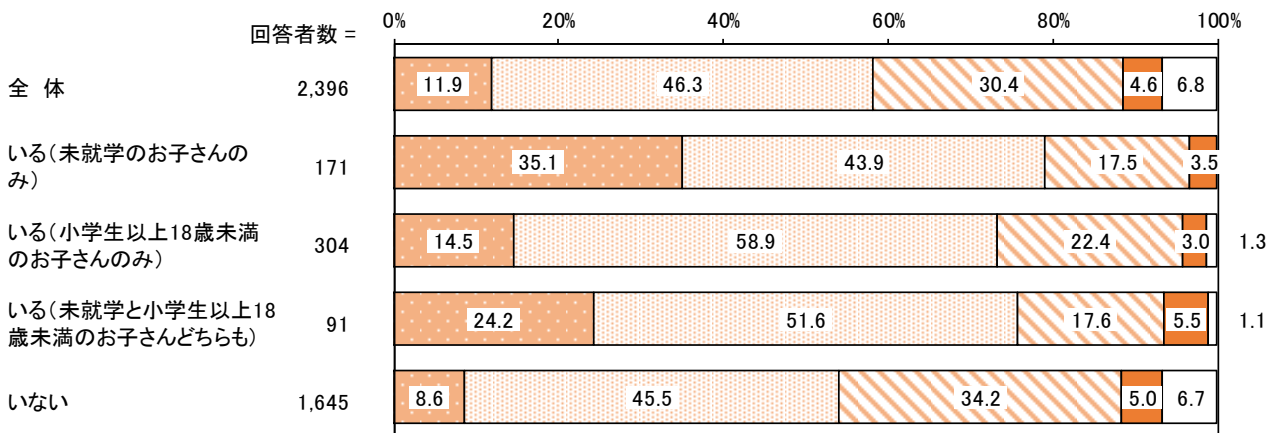
図表4-31 成果を計る指標—年齢別



【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、【そう思う】が「いる（未就学のお子さんのみ）」と回答した人（79.0%）で約8割となっている。（図表4-32）

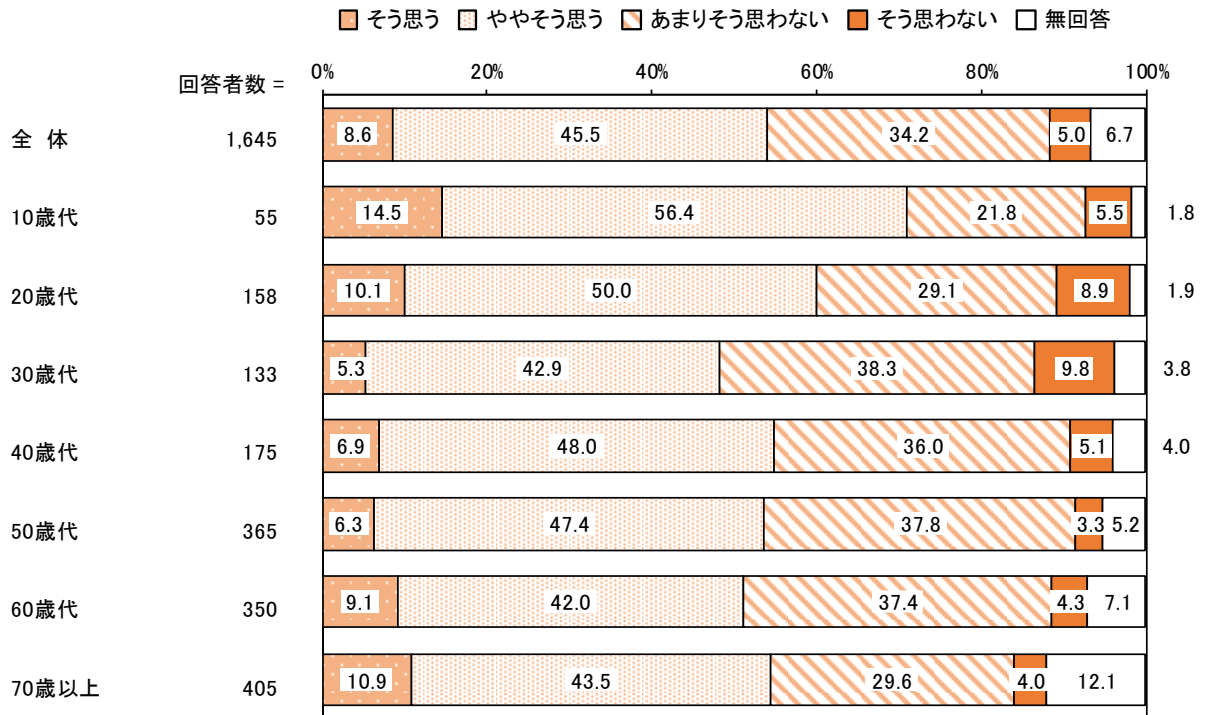
図表4-32 成果を計る指標—こどもの有無別



【年齢別（こどものいない人）】

こどものいない人の年齢別にみると、【そう思う】と回答した人が10歳代（70.9%）で多くなっている。一方、30歳代（48.2%）で少なくなっている。（図表4-33）

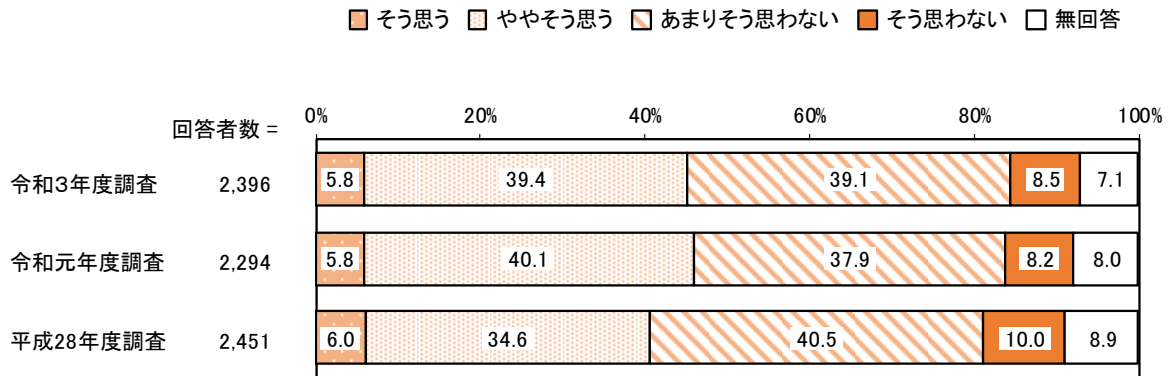
図表4-33 成果を計る指標一年齢別（こどものいない人）



11. 大和市では、経済的に不安なく子育てができていると思う

【そう思う】は45.2%で前回結果（45.9%）と比較して0.7ポイント減少している。
 (図表4-34)

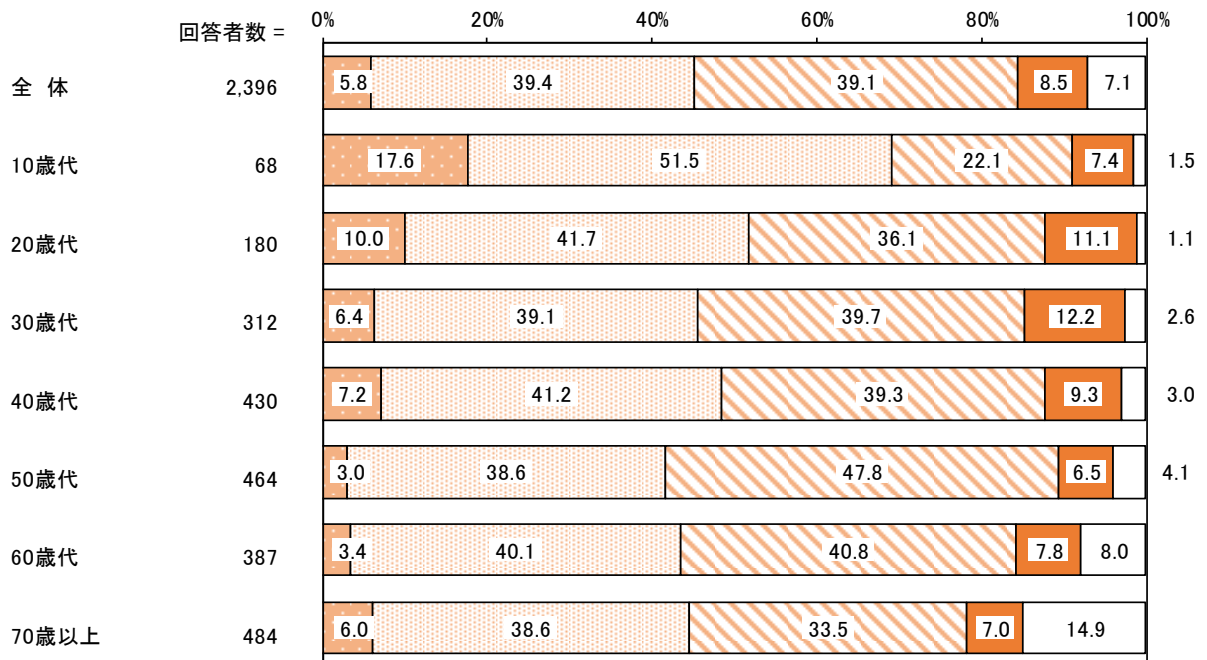
図表4-34 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代で【そう思う】（69.1%）が約7割と、他の年代と比較して高くなっている。（図表4-35）

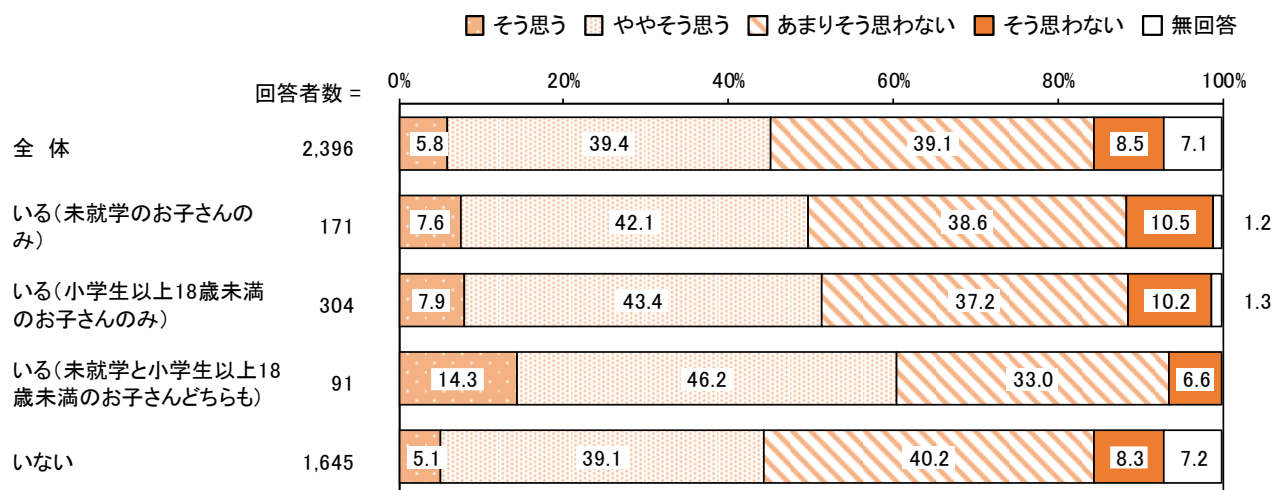
図表4-35 成果を計る指標—年齢別



【こどもの有無別】

こどもの有無別では、【そう思う】が「いる（未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも）」と回答した人（60.5%）で約6割と高くなっている。（図表4-36）

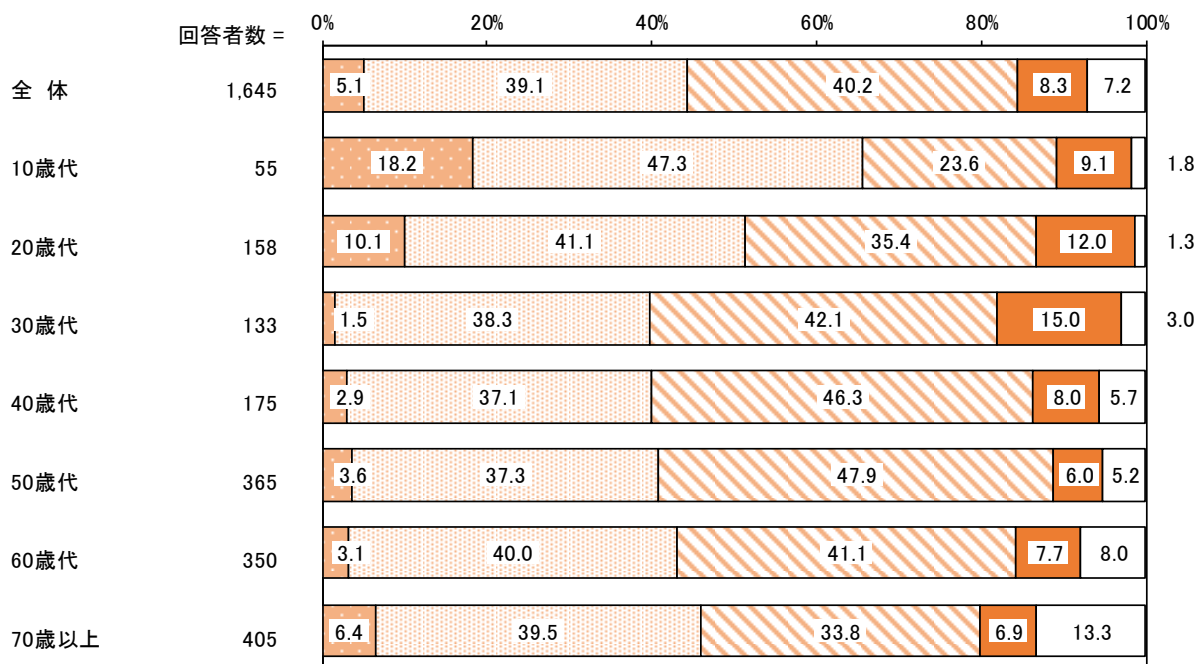
図表4-36 成果を計る指標—こどもの有無別



【年齢別（こどものいない人）】

こどものいない人の年齢別にみると、【そう思わない】と回答した人が、30歳代（57.1%）で約6割と他の年代と比べ多くなっている。（図表4-37）

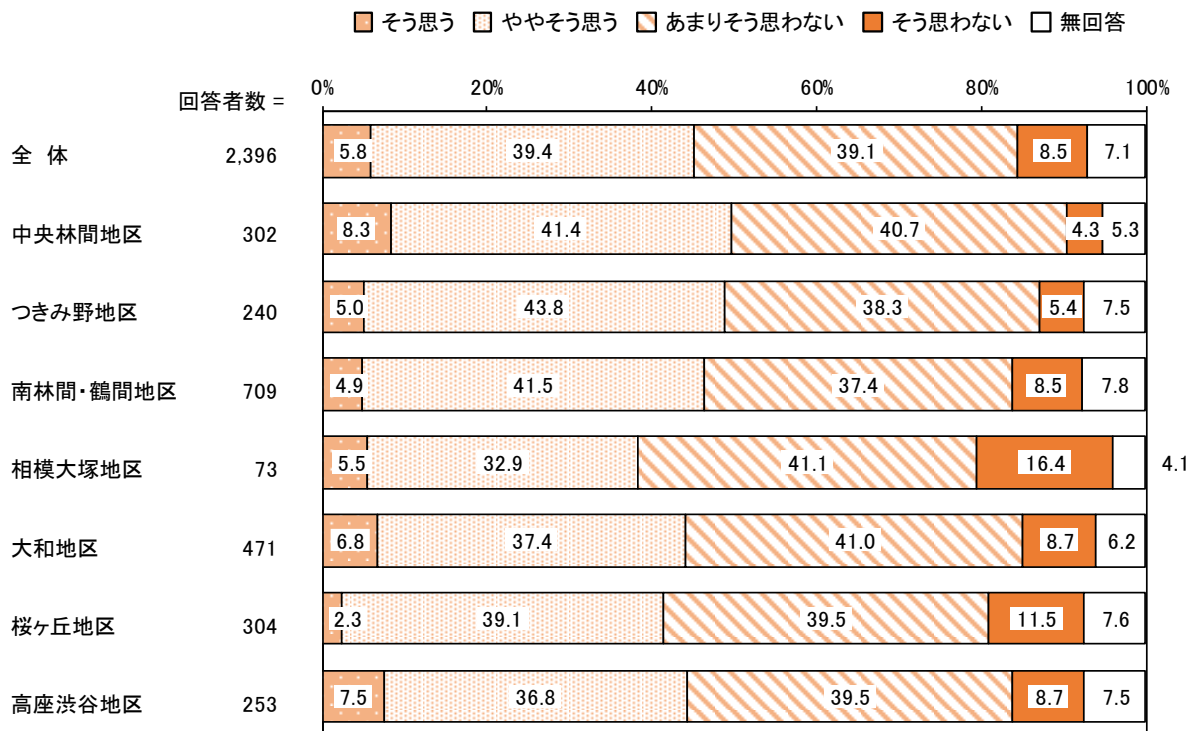
図表4-37 成果を計る指標—年齢別（こどものいない人）



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思わない】と回答した人が、相模大塚地区で 57.5%と多くなっている。(図表 4-38)

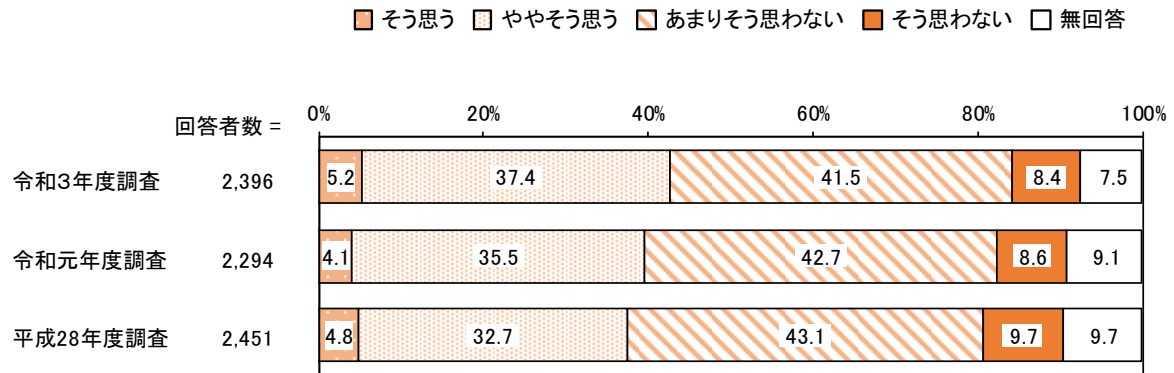
図表 4-38 成果を計る指標－居住地域別



12. 大和市では、こどもの個性や能力にあった教育が行われていると思う

【そう思う】は42.6%で、前回結果（39.6%）と比較して3.0ポイント増加している。
 (図表4-39)

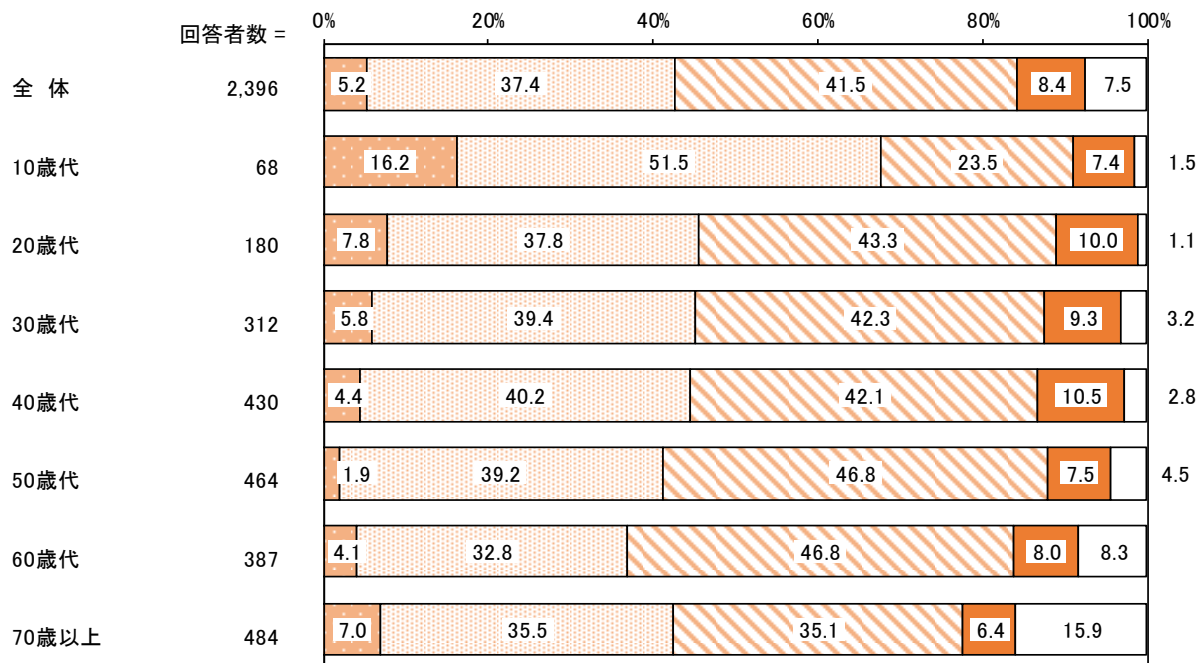
図表4-39 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代で【そう思う】（67.7%）が8割近くと他の年代と比較して多くなっている。(図表4-40)

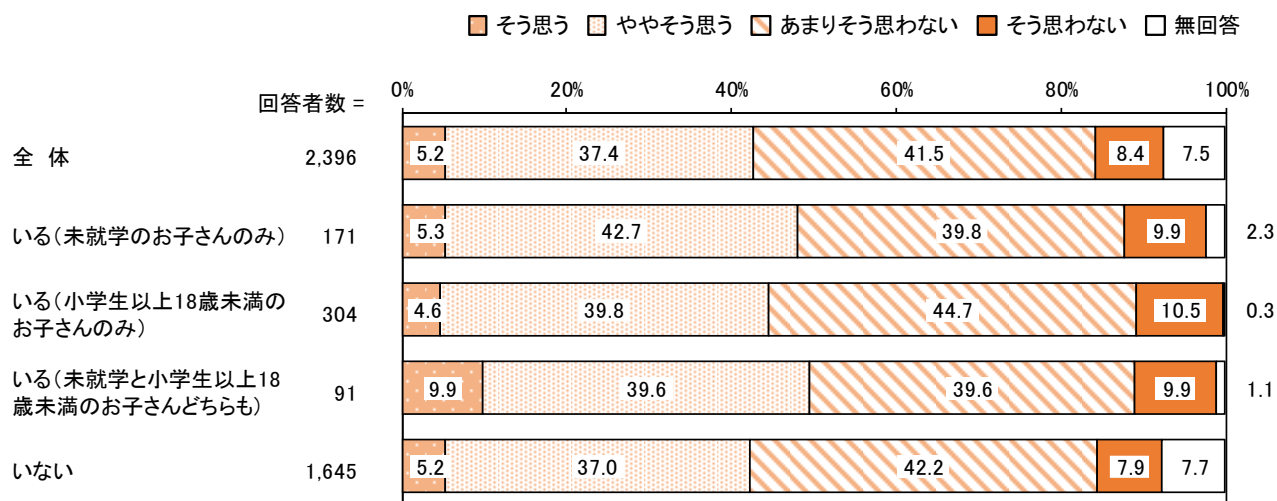
図表4-40 成果を計る指標—年齢別



【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、「いる（未就学と小学生以上 18 歳未満のお子さんどちらも）」と回答した人で【**そう思う**】(49.5%) が約 5 割と多くなっている。(図表 4-41)

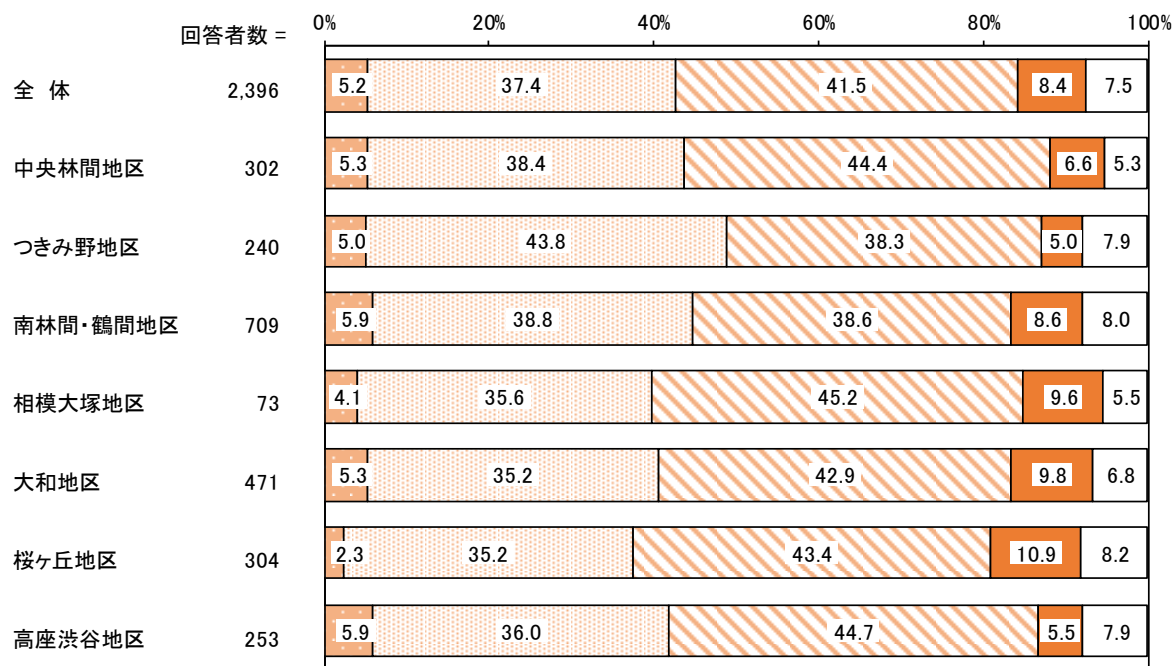
図表 4-41 成果を計る指標—こどもの有無別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【**そう思う**】と回答した人がつきみ野地区 (48.8%) で 5 割近くと多くなっている。(図表 4-42)

図表 4-42 成果を計る指標—居住地域別

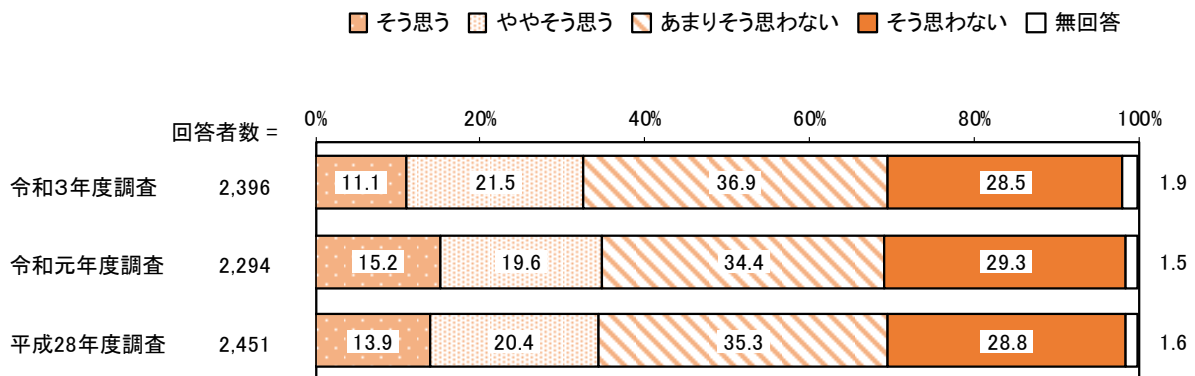


13. あなたは、日常的にスポーツを楽しんでいると思う

【そう思う】は32.6%で前回結果（34.8%）と比較して2.2ポイント減少している。

（図表4-43）

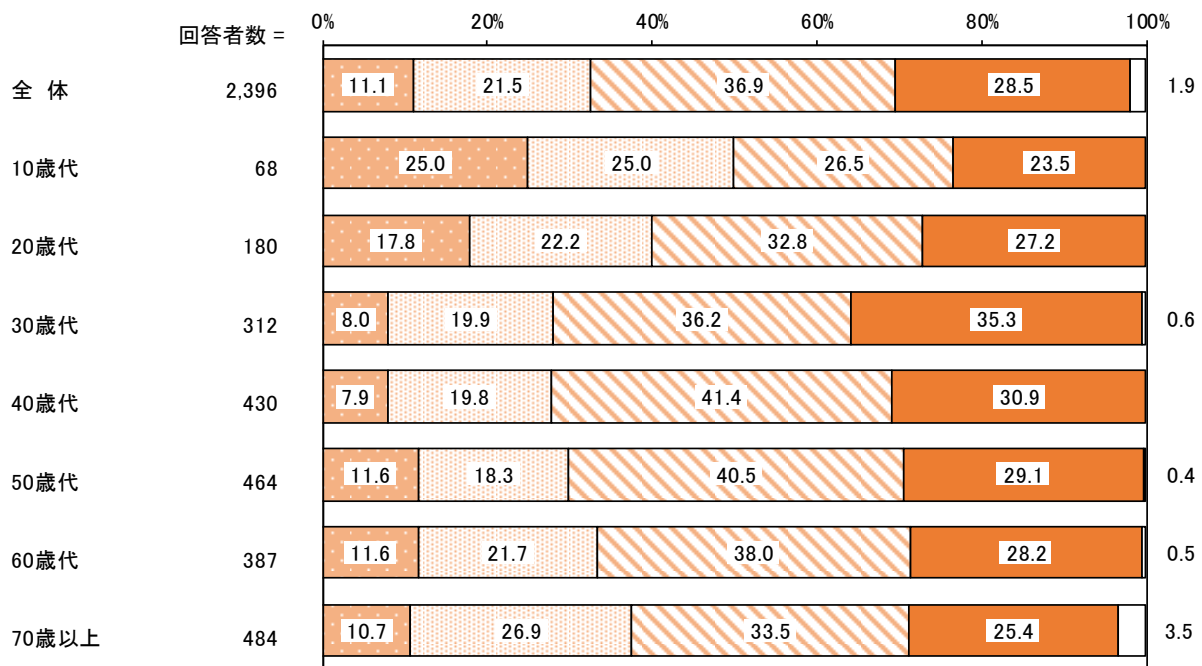
図表4-43 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代（50.0%）で【そう思う】が5割と他の年代と比較して多くなっている。（図表4-44）

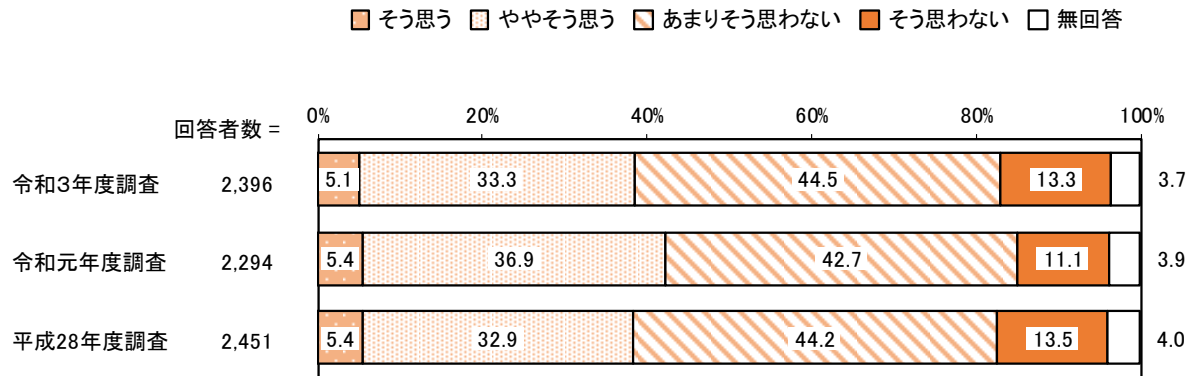
図表4-44 成果を計る指標—年齢別



14. 大和の歴史や文化は、しっかり継承されていると思う

【そう思う】は38.4%で、前回結果（42.3%）と比較して3.9ポイント減少している。
 (図表4-45)

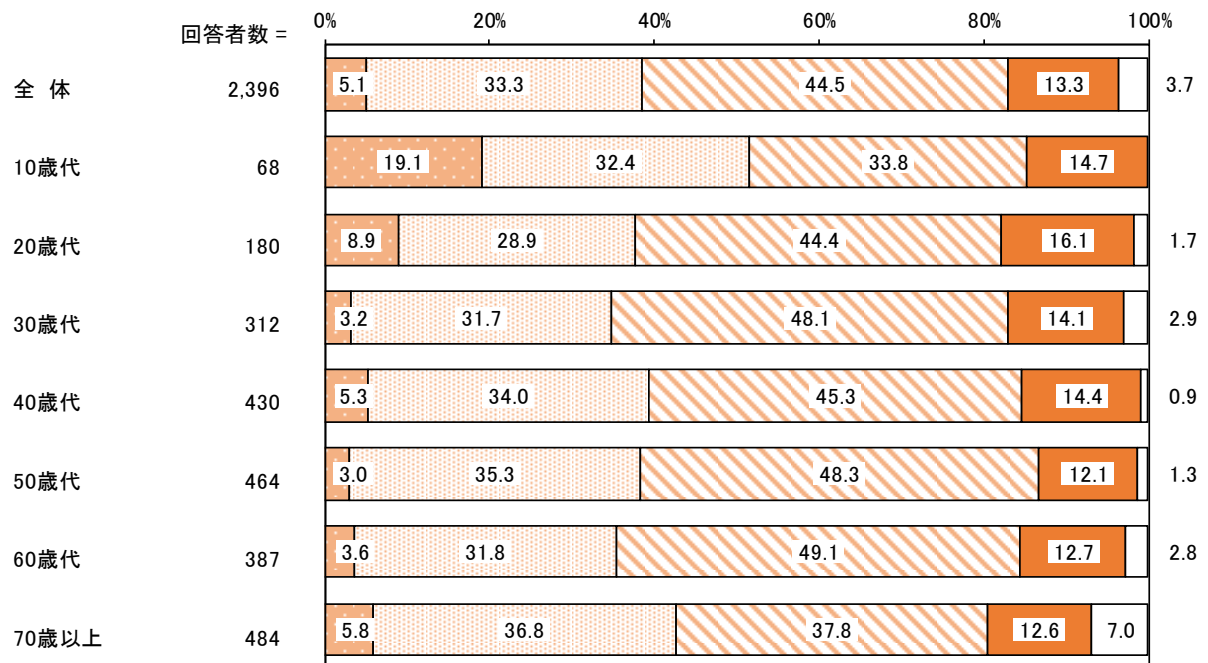
図表4-45 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代で【そう思う】（51.5%）が5割を超えている。（図表4-46）

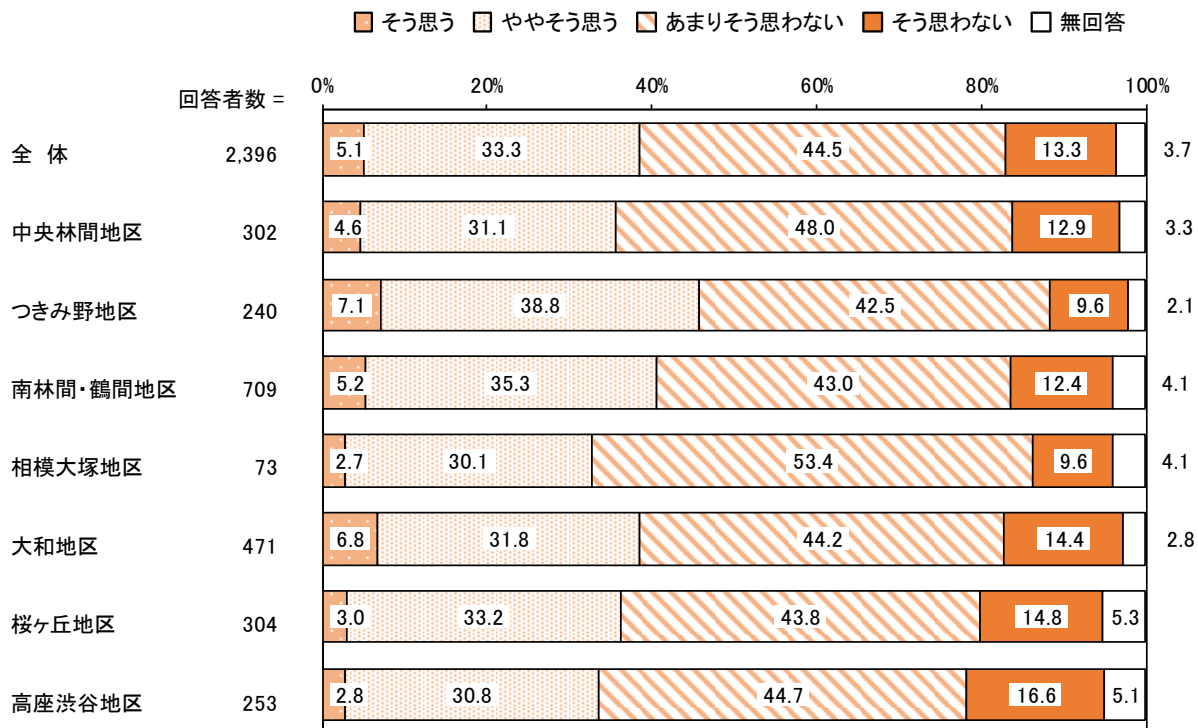
図表4-46 成果を計る指標—年齢別



【居住地域別】

居住地域別では、【そう思う】と回答した人がつきみ野地区（45.9%）で4割半ばと多くなっている。（図表4-47）

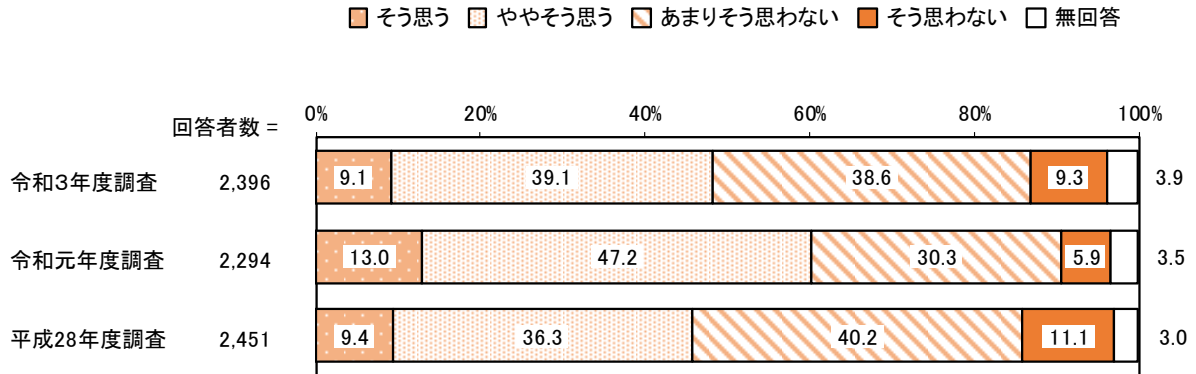
図表4-47 成果を計る指標－居住地域別



15. 大和市では、文化や芸術活動が盛んに行われていると思う

【そう思う】は48.2%で前回結果（60.2%）と比較して12.0ポイント減少している。
 (図表4-48)

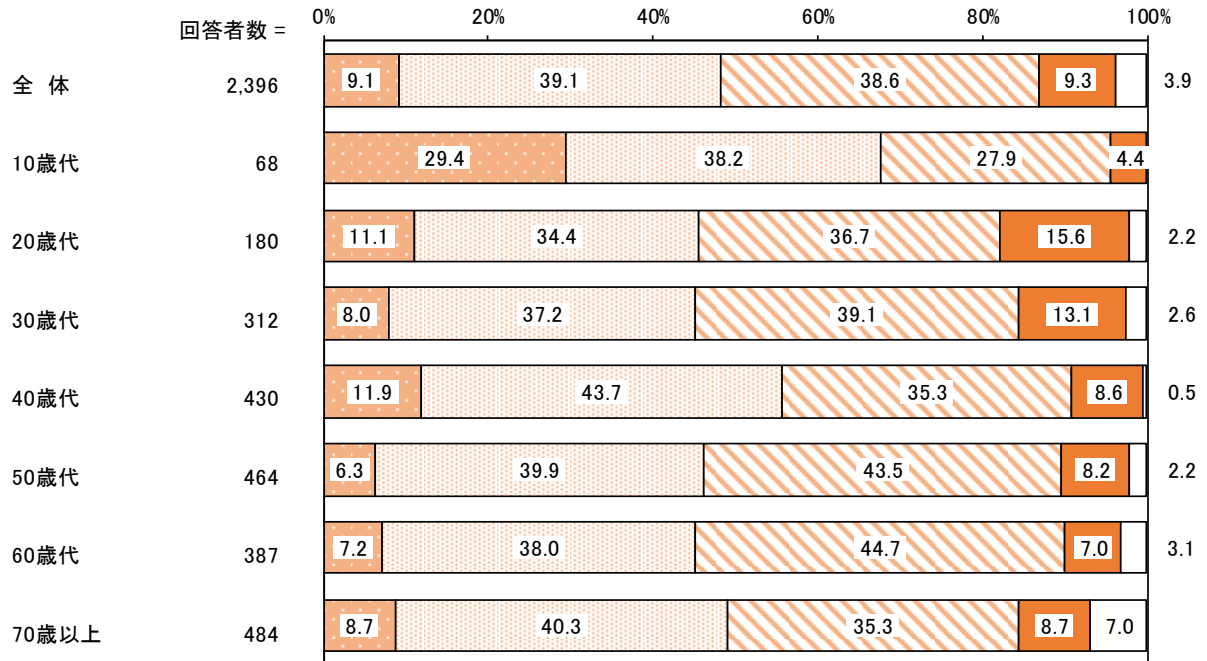
図表4-48 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別では、10歳代で【そう思う】(67.6%)が7割近くと高くなっている。(図表4-49)

図表4-49 成果を計る指標—年齢別

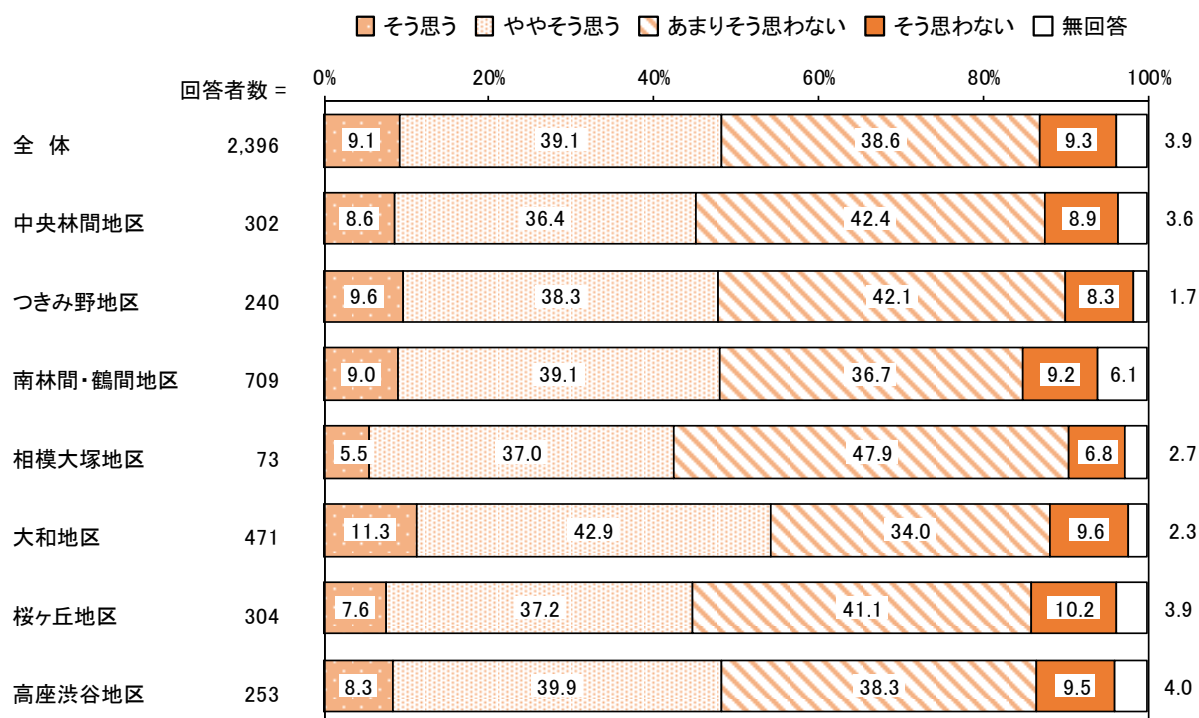


【居住地域別】

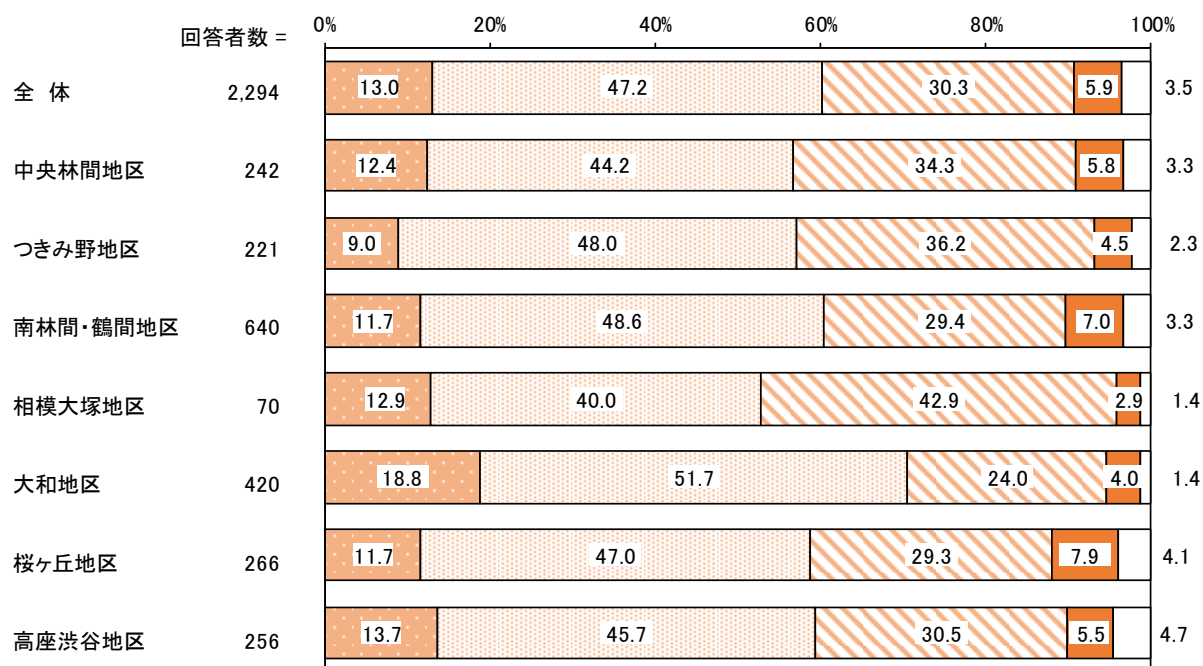
居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、大和地区（54.2%）で5割半ばとなっている。また、前回結果（70.5%）と比較して16.3ポイント減少している。

（図表4-50-1, 4-50-2）

図表4-50-1 成果を計る指標－居住地域別



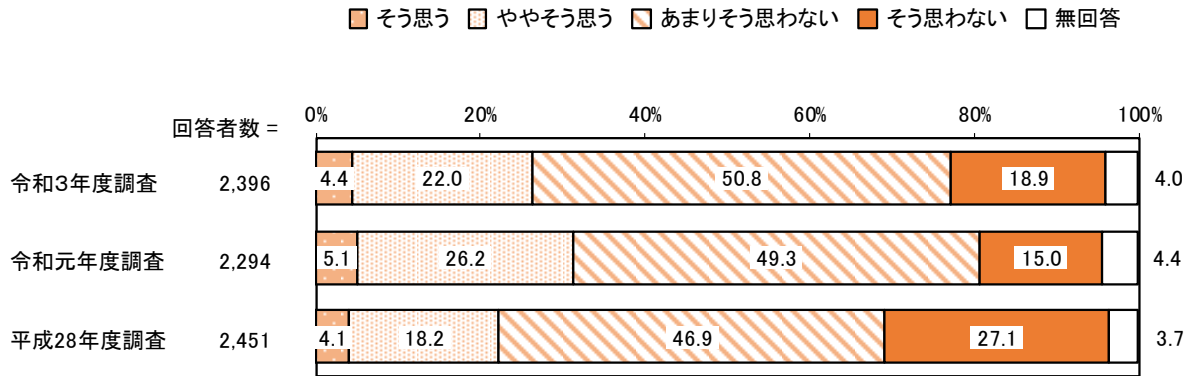
図表4-50-2 成果を計る指標－居住地域別（前回調査分）



16. あなたのまわりでは、多文化共生や国際交流が行われていると思う

【そう思う】は26.4%で、前回結果（31.3%）と比較して4.9ポイント減少している。
 (図表4-51)

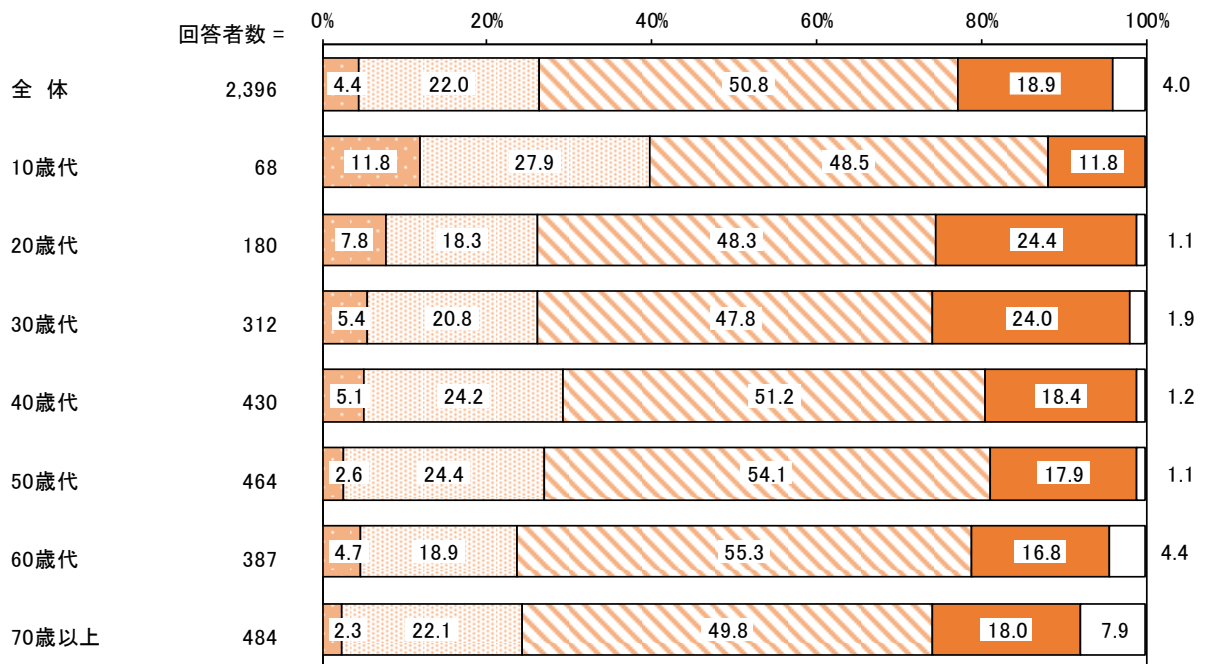
図表4-51 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代で【そう思う】（39.7%）が約4割と多くなっている。(図表4-52)

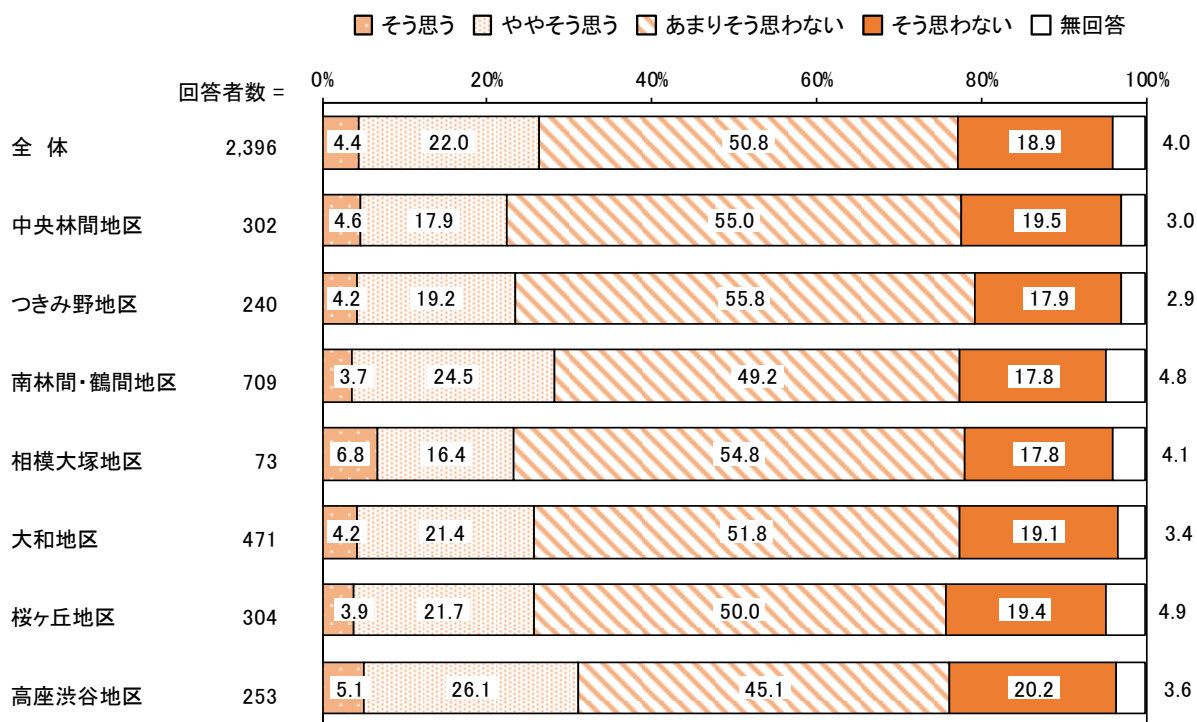
図表4-52 成果を計る指標—年齢別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が高座渋谷地区（31.2%）で3割強となっている。（図表4-53）

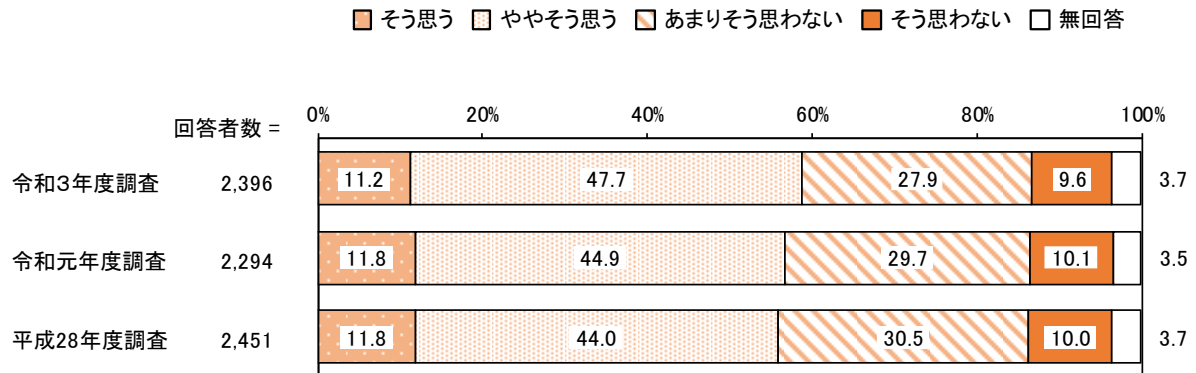
図表4-53 成果を計る指標－居住地域別



17. 以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う

【そう思う】は58.9%で前回結果（56.7%）と比較して2.2ポイント増加している。
 (図表4-54)

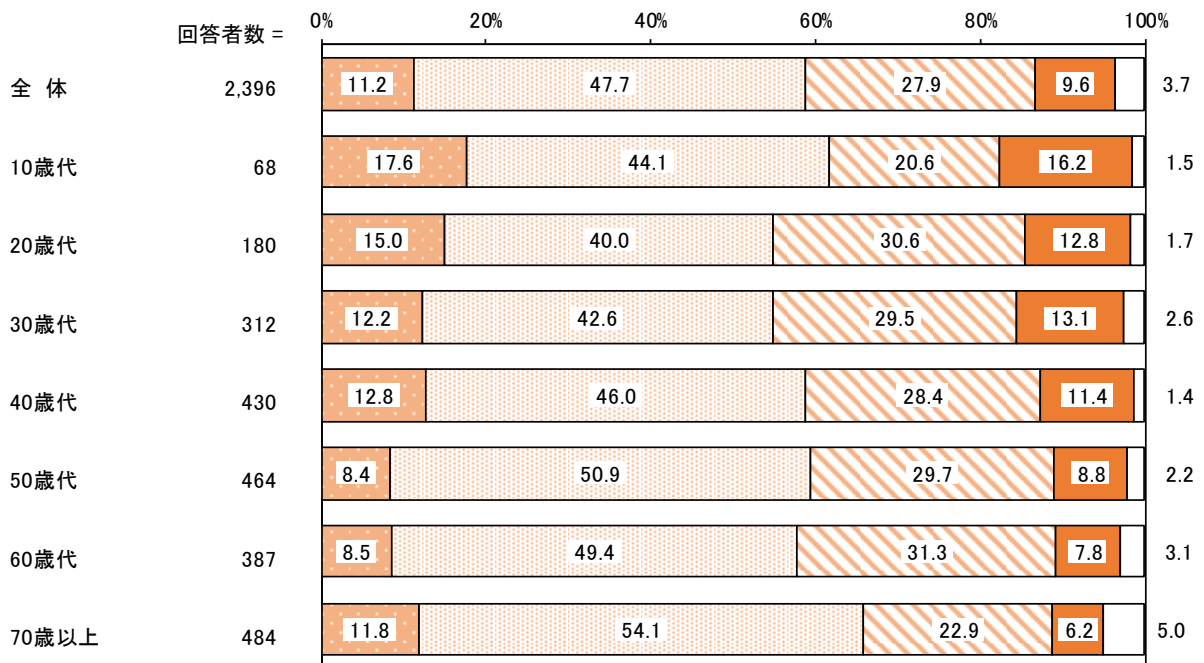
図表4-54 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、【そう思わない】と回答した人が、70歳以上（29.1%）で約3割と他の年代と比べ低くなっている。(図表4-55)

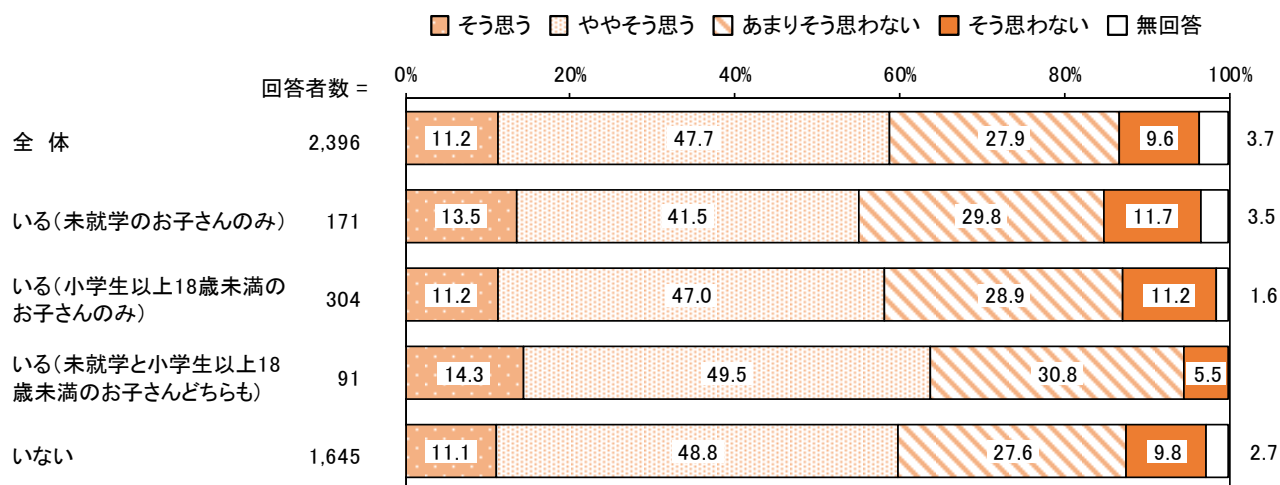
図表4-55 成果を計る指標—年齢別



【こどもの有無別】

こどもの有無別では、「いる（未就学と小学生以上 18 歳未満のお子さんどちらも）」と回答した人で【**そう思う**】（63.8%）が6割を超えて高くなっている。（図表 4－56）

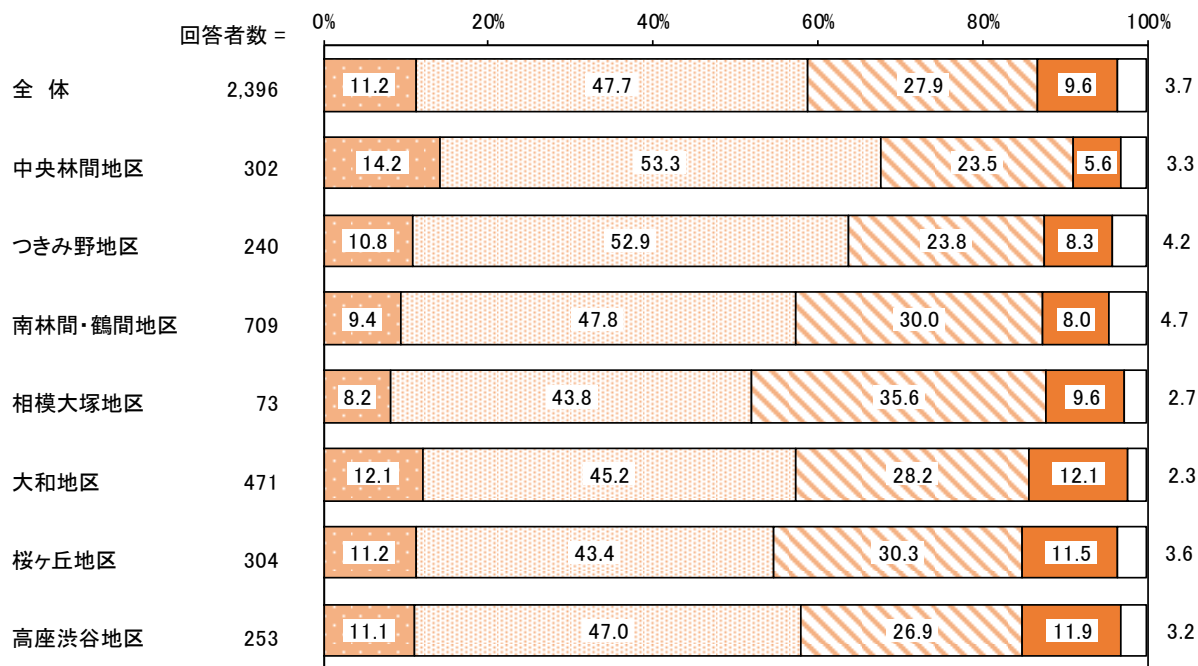
図表 4－56 成果を計る指標－こどもの有無別



【居住地域別】

居住地域別では、【**そう思う**】と回答した人が中央林間地区（67.5%）、つきみ野地区（63.7%）で6割を超えている。（図表 4－57）

図表 4－57 成果を計る指標－居住地域別

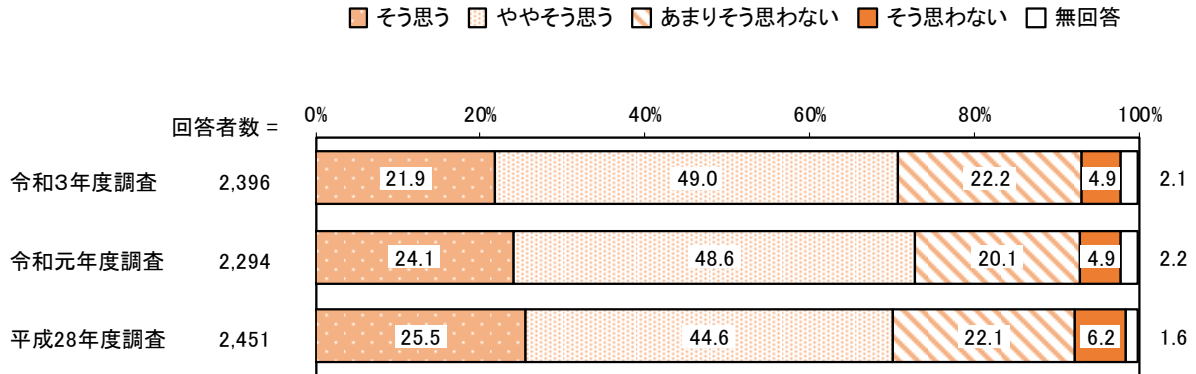


18. あなたの地域では、広域避難場所が知られていると思う

【そう思う】は70.9%で前回結果（72.7%）と比較して1.8ポイント減少している。

（図表4-58）

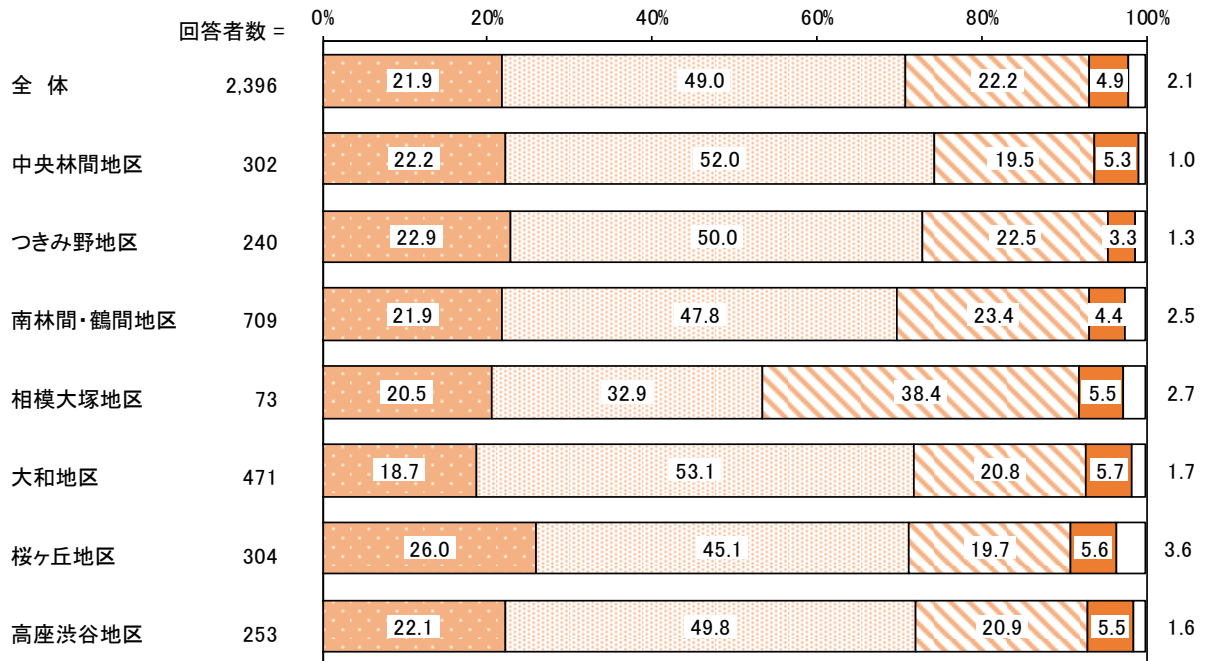
図表4-58 成果を計る指標—経年比較



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、中央林間地区（74.2%）で7割台半ばとなっている。一方で、相模大塚地区（53.4%）は他の地域と比べ低くなっている。（図表4-59）

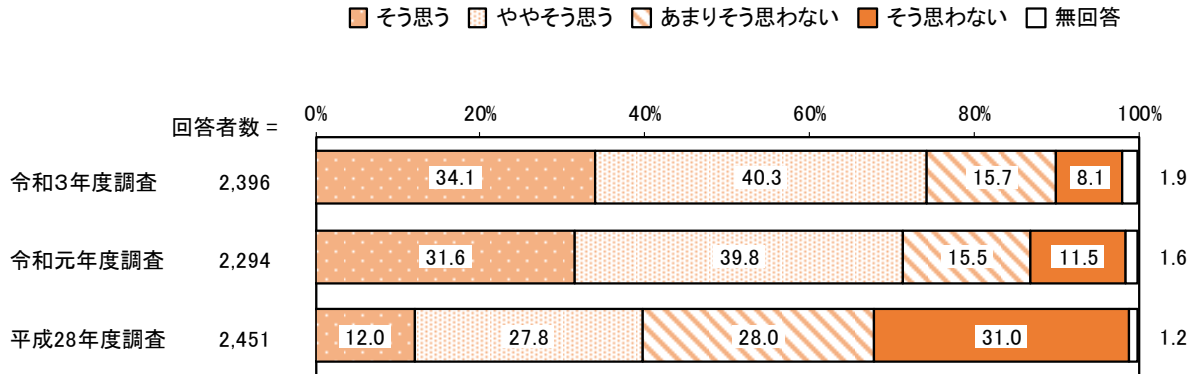
図表4-59 成果を計る指標—居住地域別



19. 以前に比べて、航空機による騒音の被害が減ったと思う

【そう思う】は74.4%で前回結果（71.4%）と比較して3.0ポイント増加している。
 (図表4-60)

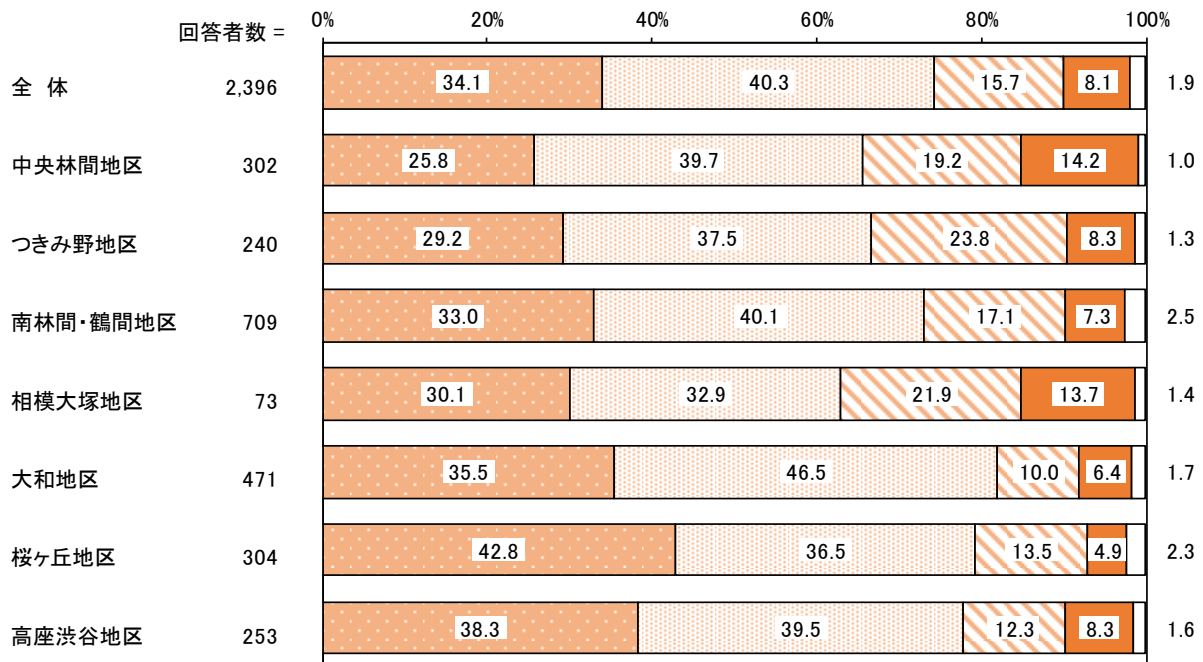
図表4-60 成果を計る指標—経年比較



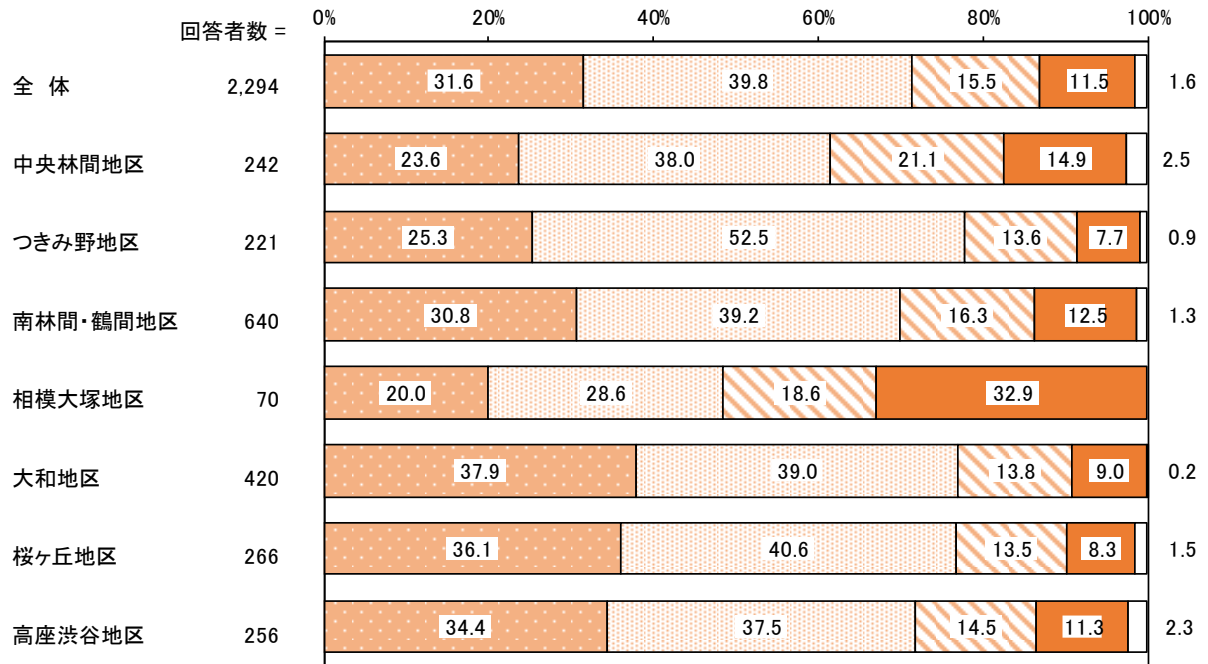
【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、大和地区（82.0%）で8割強と多く、次いで桜ヶ丘地区（79.3%）、高座渋谷地区（77.8%）となっている。一方で、相模大塚地区（63.0%）は他の地域と比べ低くなっているものの、前回結果（48.6%）と比較して14.4ポイント増加している。（図表4-61-1、図表4-61-2）

図表4-61-1 成果を計る指標—居住地域別



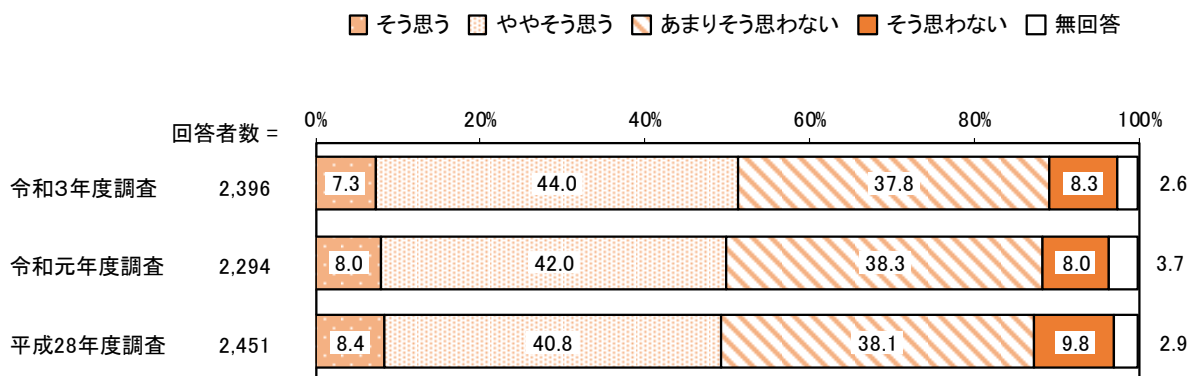
図表 4-61-2 成果を計る指標—居住地域別（前回調査分）



20. あなたのまわりでは、環境に配慮している人が多いと思う

【そう思う】は51.3%で前回結果（50.0%）と比較して1.3ポイント増加している。
 (図表4-62)

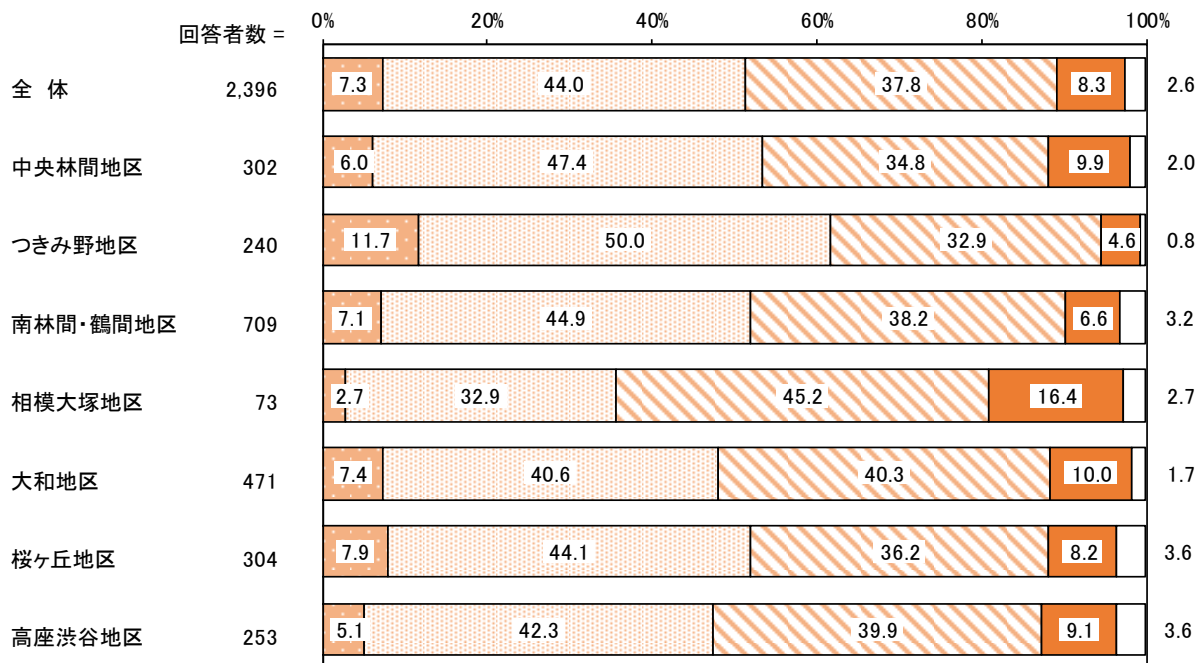
図表4-62 成果を計る指標—経年比較



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、つきみ野地区（61.7%）で6割を超えている。一方で、相模大塚地区（35.6%）は他の地域と比べ低くなっている。（図表4-63）

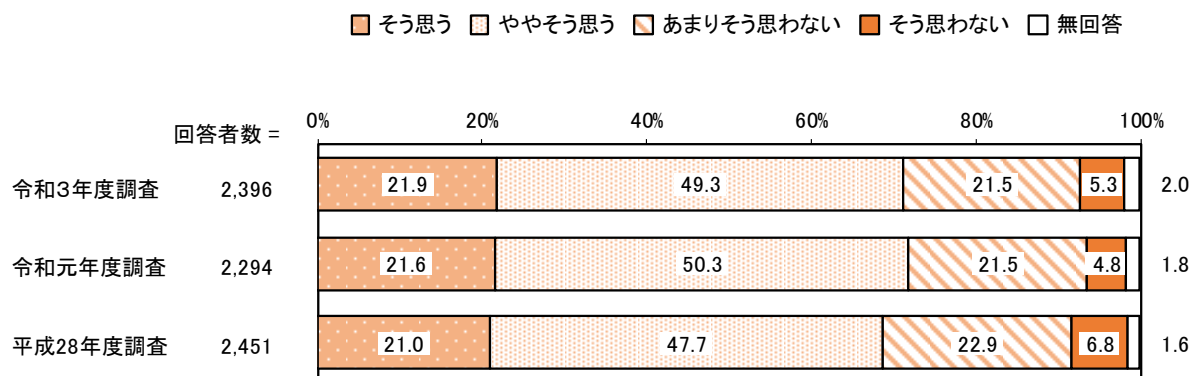
図表4-63 成果を計る指標—居住地域別



21. 大和市には、緑や公園が多いと思う

【そう思う】は71.2%で前回結果（71.9%）と比較して0.7ポイント減少している。
 (図表4-64)

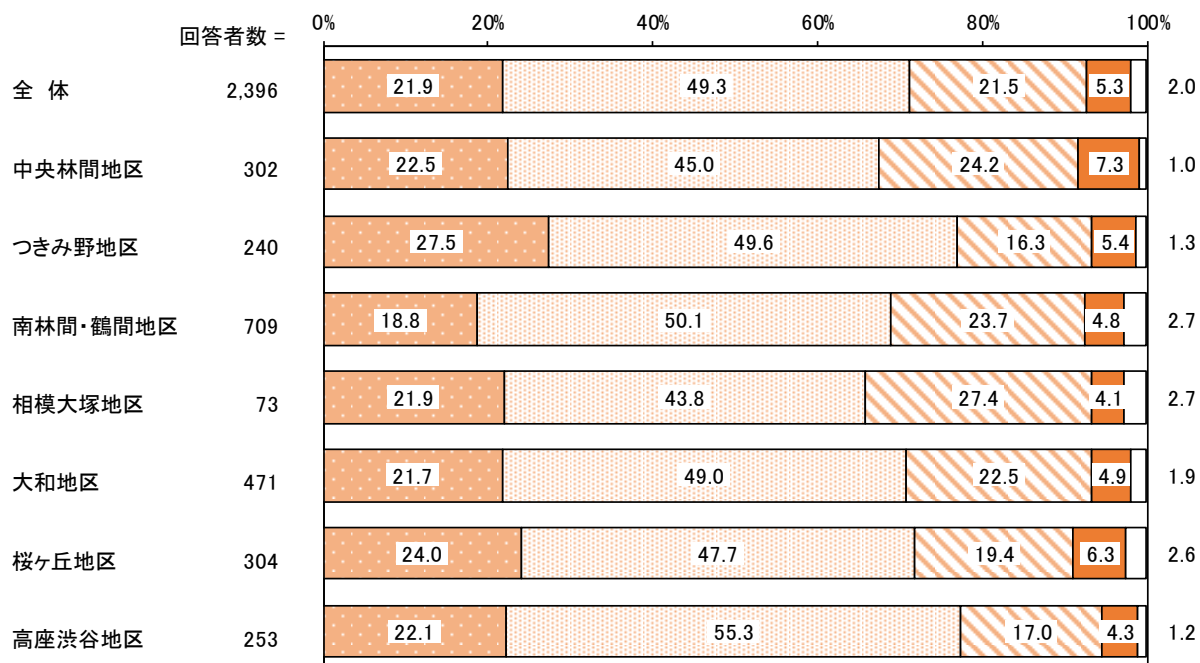
図表4-64 成果を計る指標－経年比較



【居住地域別】

居住地域別では、【そう思う】と回答した人が、高座渋谷地区(77.4%)、つきみ野地区(77.1%)で8割近くと多くなっている。(図表4-65)

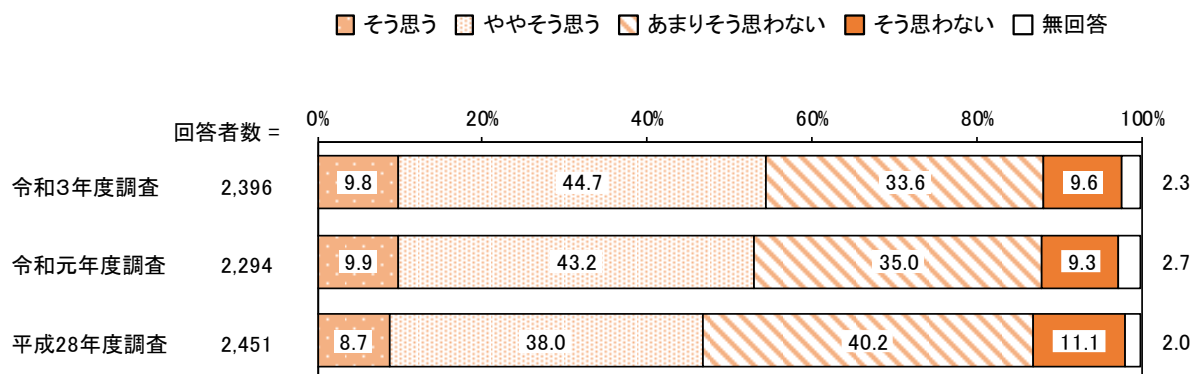
図表4-65 成果を計る指標－居住地域別



22. 大和市は、良好な街並みが形成されていると思う

【そう思う】は54.5%で前回結果（53.1%）と比較して1.4ポイント増加している。
（図表4-66）

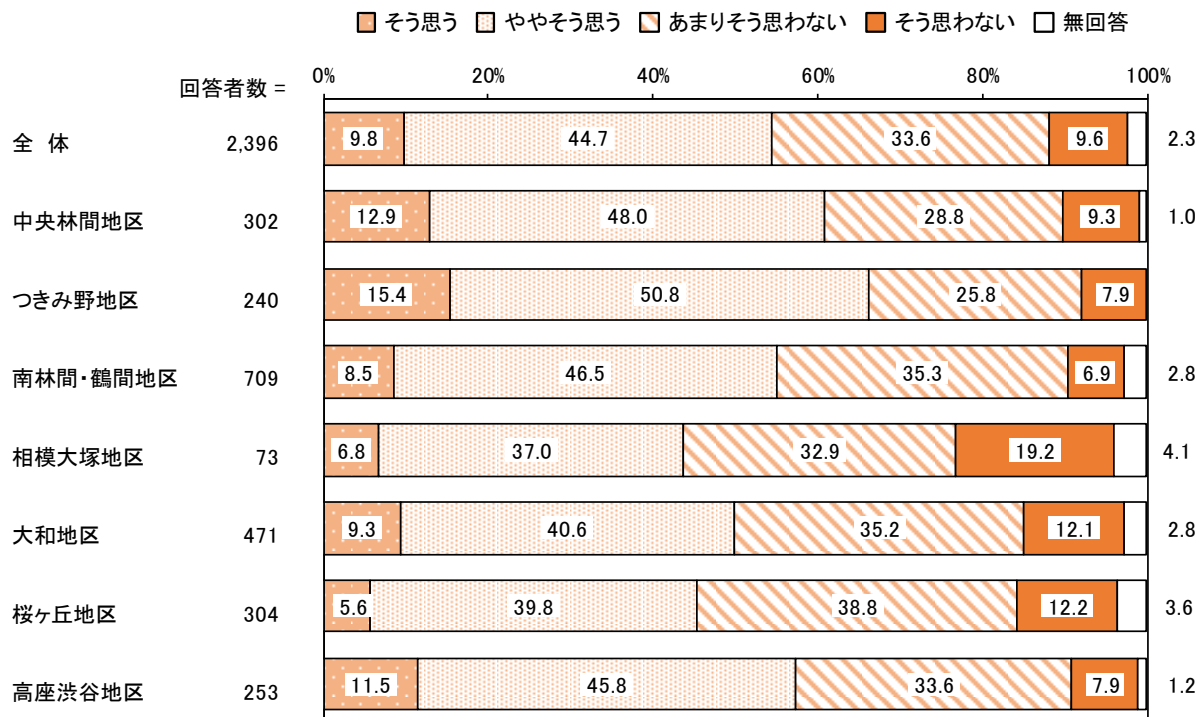
図表4-66 成果を計る指標—経年比較



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、つきみ野地区（66.2%）で6割半ばと多くなっている。（図表4-67）

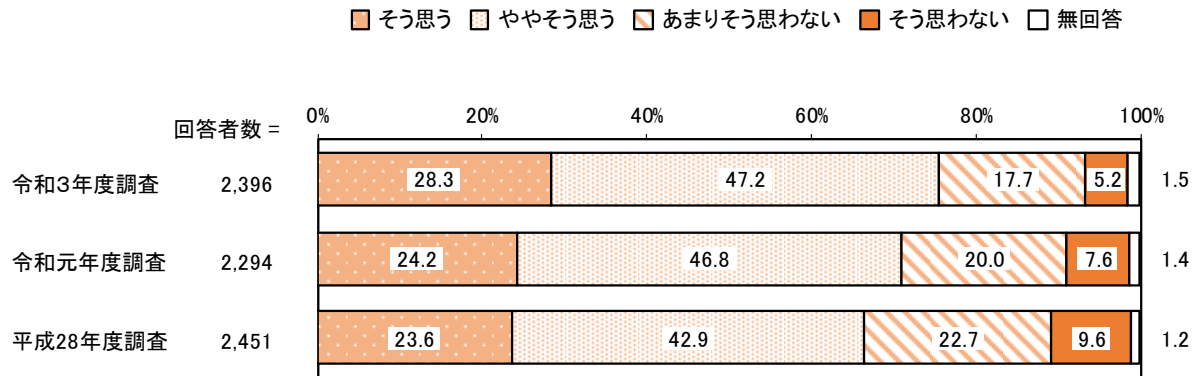
図表4-67 成果を計る指標—居住地域別



23. 大和市は、買い物がしやすいと思う

【そう思う】は75.5%で前回結果（71.0%）と比較して4.5ポイント増加している。
 (図表4-68)

図表4-68 成果を計る指標—経年比較

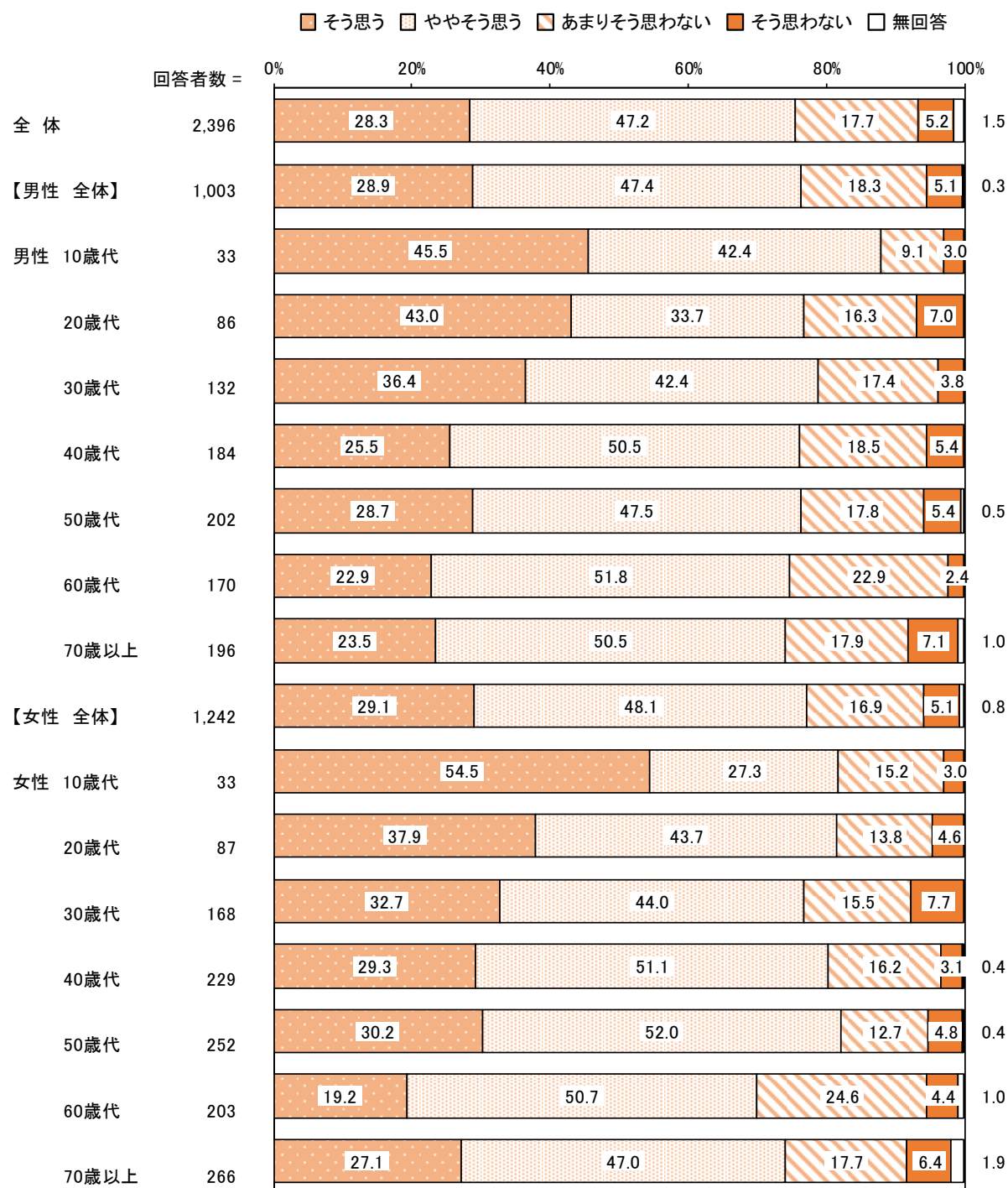


【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも【そう思う】と回答した人は7割半ば以上となっている。

年齢別にみると、男性10歳代、女性10歳代、女性20歳代、女性40歳代、女性50歳代で【そう思う】が8割以上となっている。(図表4-69)

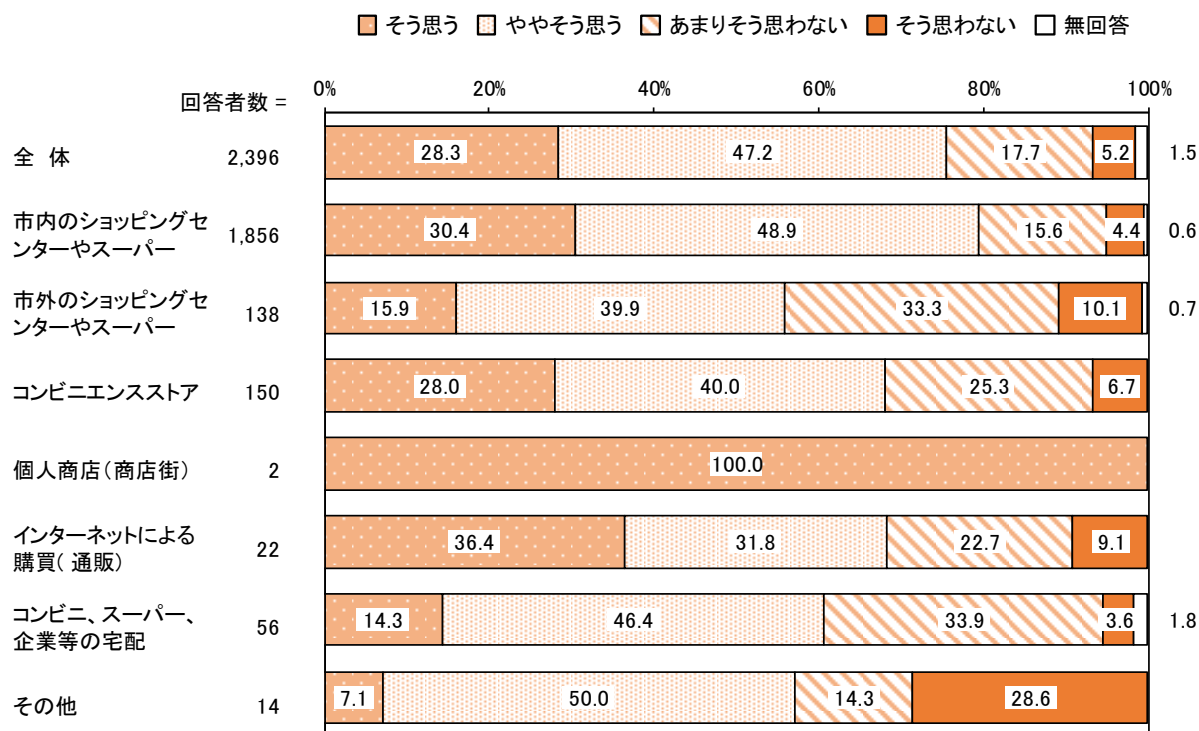
図表4-69 成果を計る指標—性別・年齢別



【買い物をする場所別】

買い物をする場所別にみると、「市内のショッピングセンターやスーパー」と回答した人で【**そう思う**】が約8割となっている。（図表4-70）

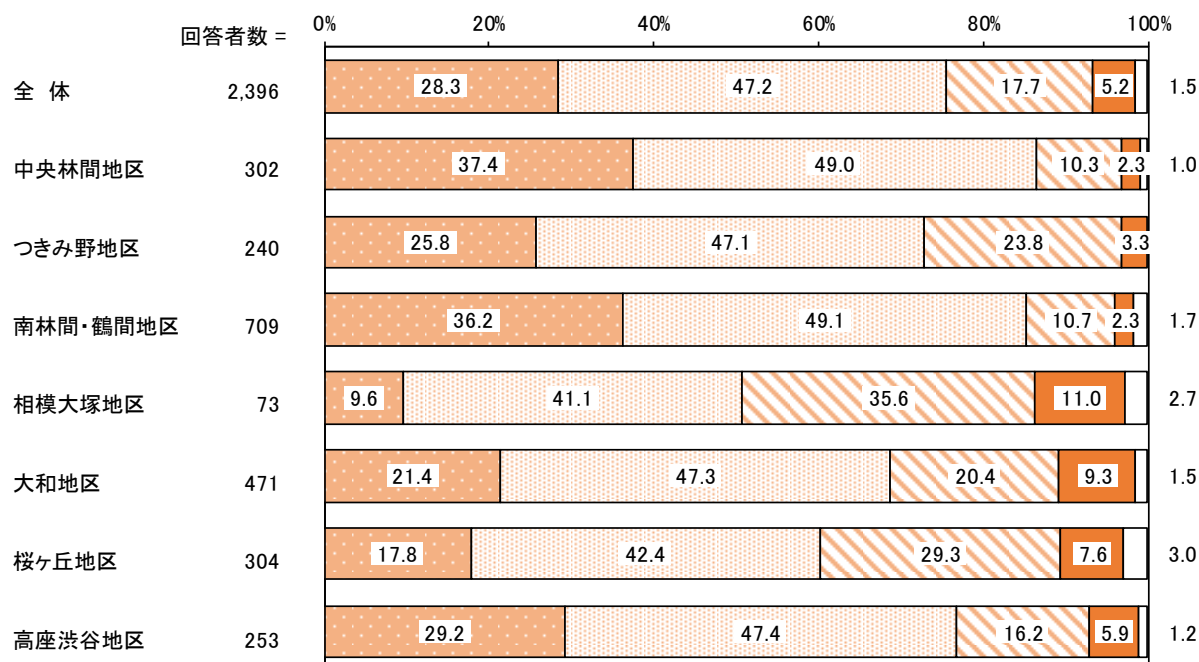
図表4-70 成果を計る指標－買い物をする場所別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【**そう思う**】と回答した人が、中央林間地区（86.4%）と南林間・鶴間地区（85.3%）で8割以上となっている。（図表4-71）

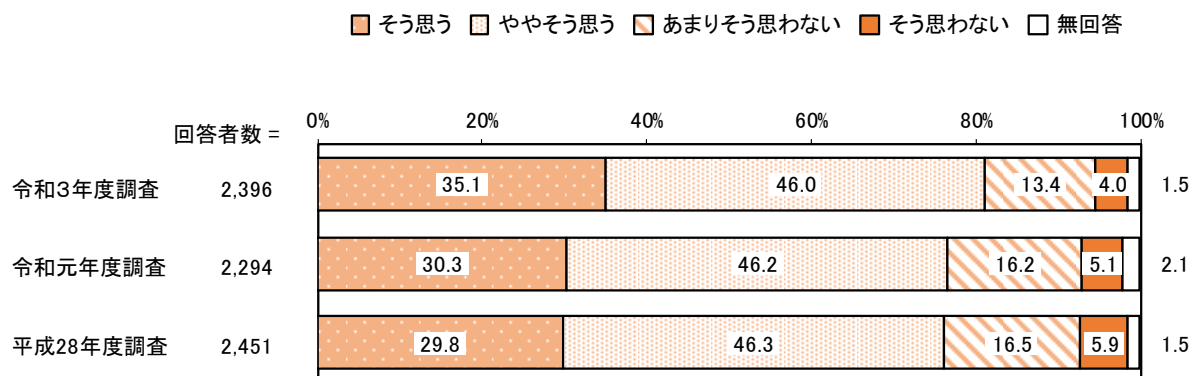
図表4-71 成果を計る指標－居住地域別



24. 大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う

【そう思う】は81.1%で前回結果（76.5%）と比較して4.6ポイント増加している。
（図表4-72）

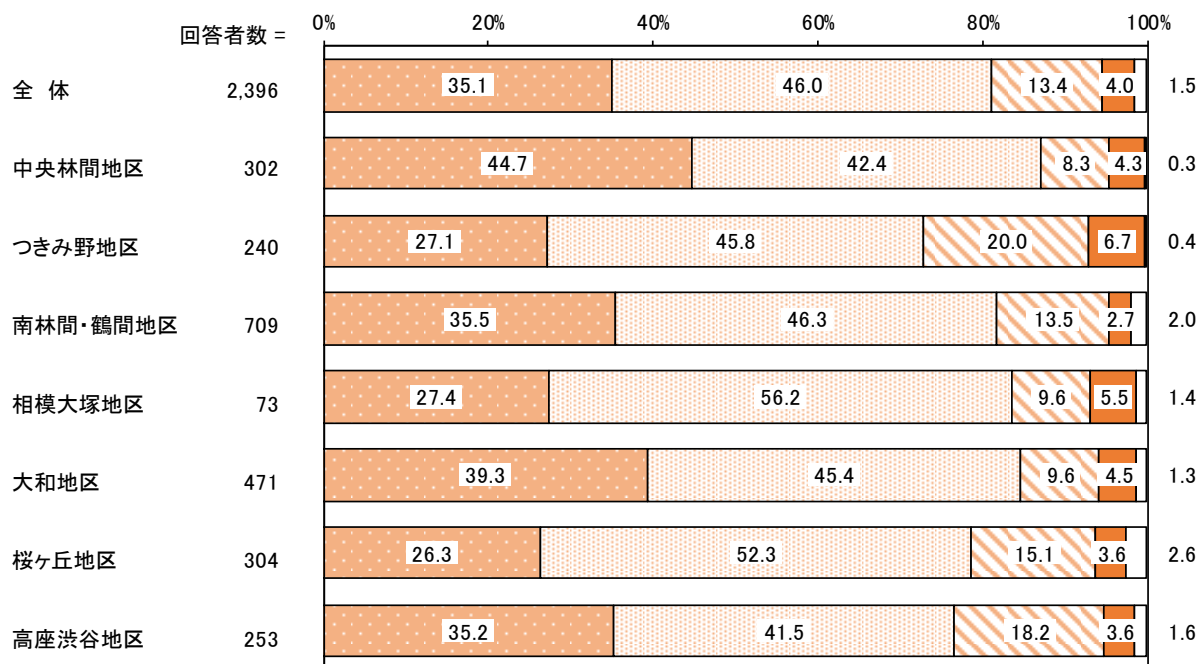
図表4-72 成果を計る指標—経年比較



【居住地域別】

居住地域別にみると、中央林間地区（87.1%）、大和地区（84.7%）、相模大塚地区（83.6%）、南林間・鶴間地区（81.8%）で8割以上と多くなっている。一方で、つきみ野地区（72.9%）では7割強と、他の地域と比べ低くなっている。（図表4-73）

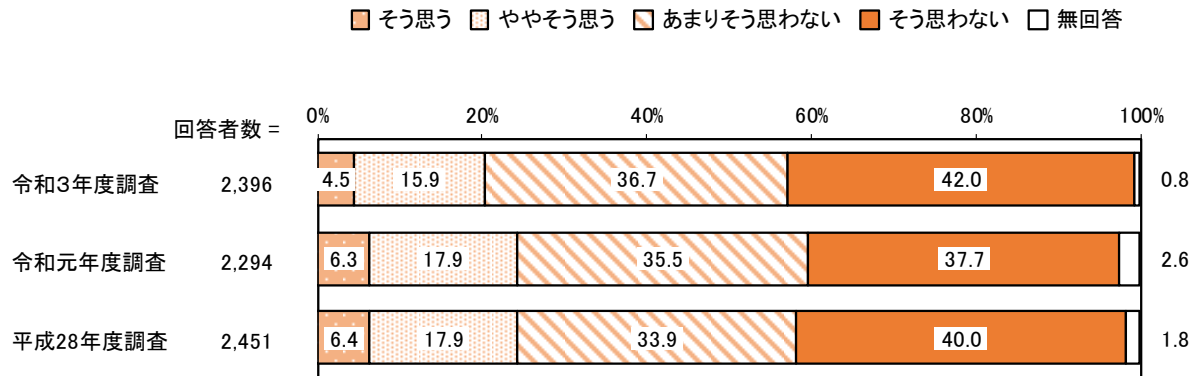
図表4-73 成果を計る指標—居住地域別



25. あなたは、地域活動に参加していると思う

【そう思う】は20.4%で前回結果（24.2%）と比較して3.8ポイント減少している。
 (図表4-74)

図表4-74 成果を計る指標—経年比較

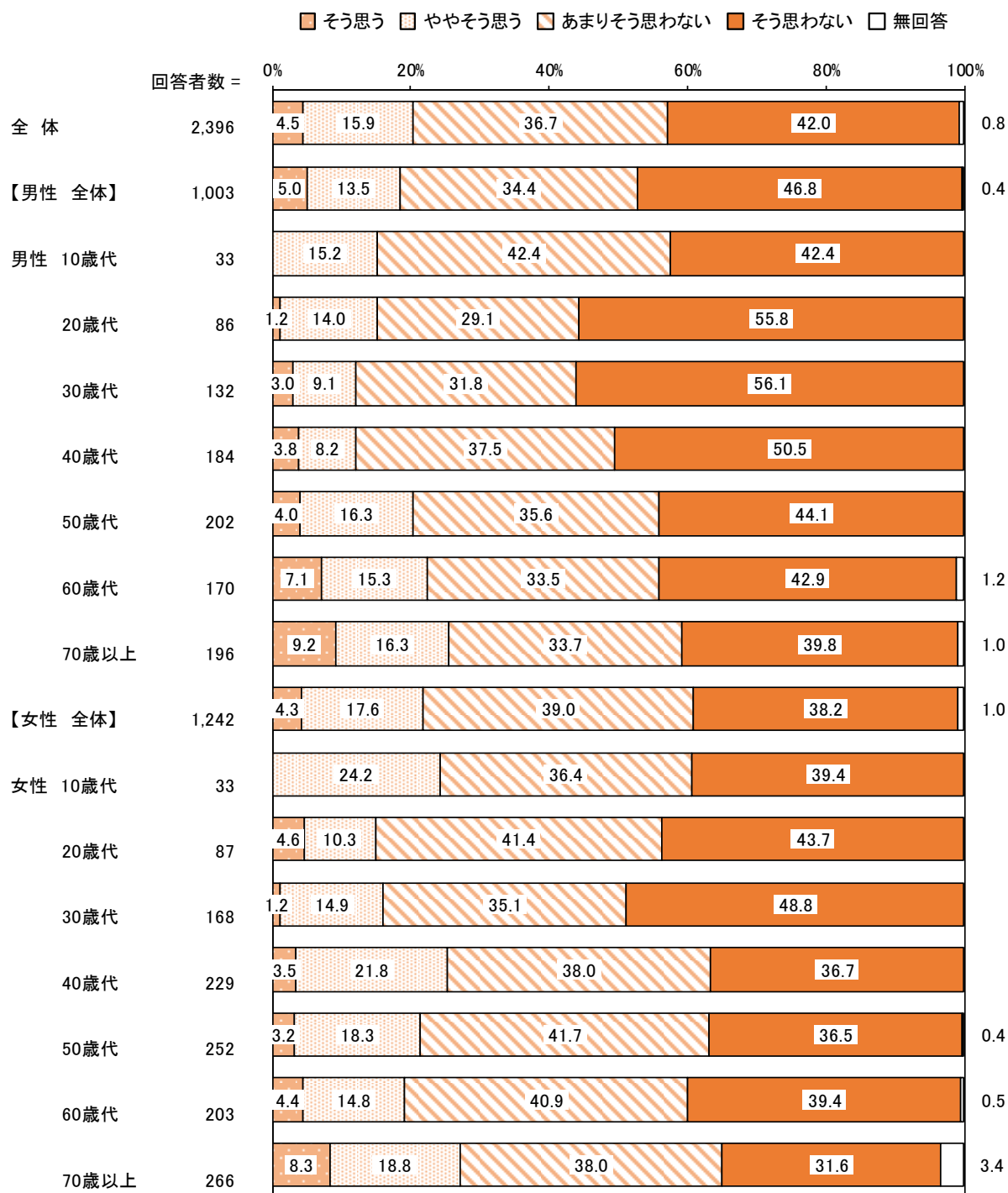


【性別・年齢別】

性別にみると、女性の【そう思う】(21.9%)は男性の【そう思う】(18.5%)よりも3.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、【そう思う】と回答した人が、女性70歳代(27.1%)で多くなっている。一方、男性30歳代(12.1%)、男性40歳代(12.0%)で1割強となっており他の年代と比べ少なくなっている。(図表4-75)

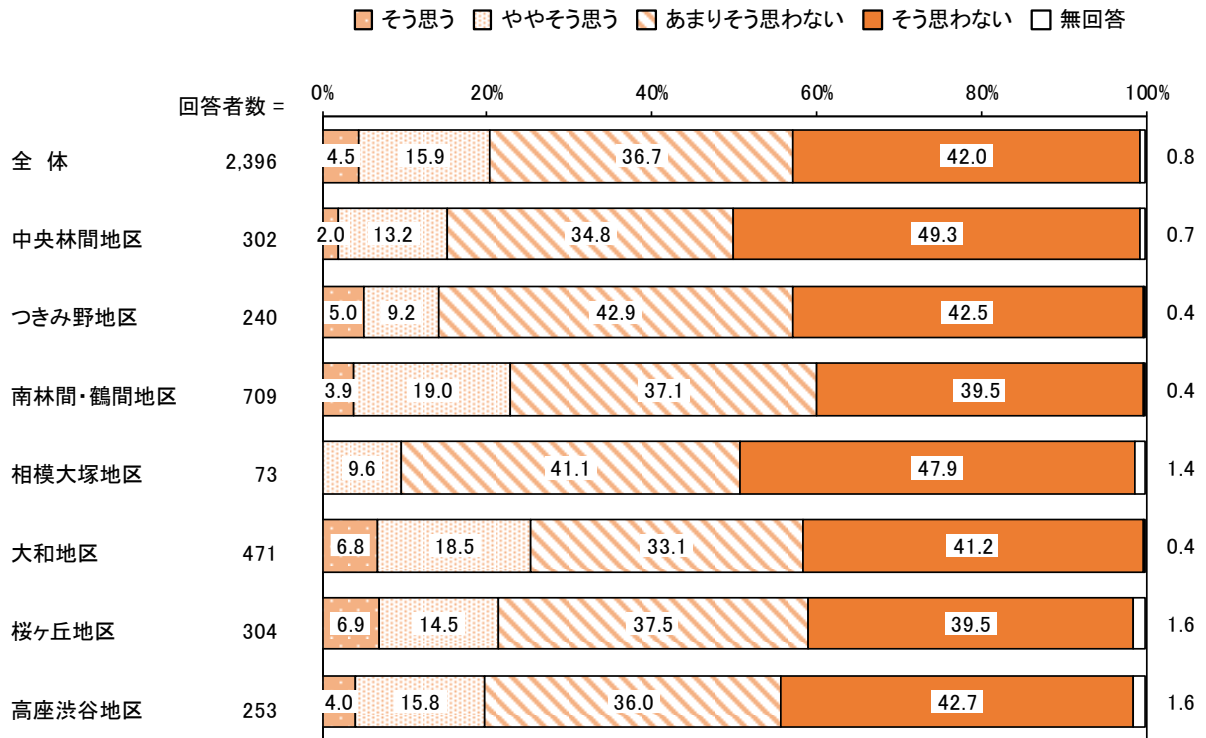
図表4-75 成果を計る指標—性別・年齢別



【居住地域別】

居住地域別では、【そう思う】と回答した人が、相模大塚地区（9.6%）で約1割と他の地域と比べ低くなっている。（図表4-76）

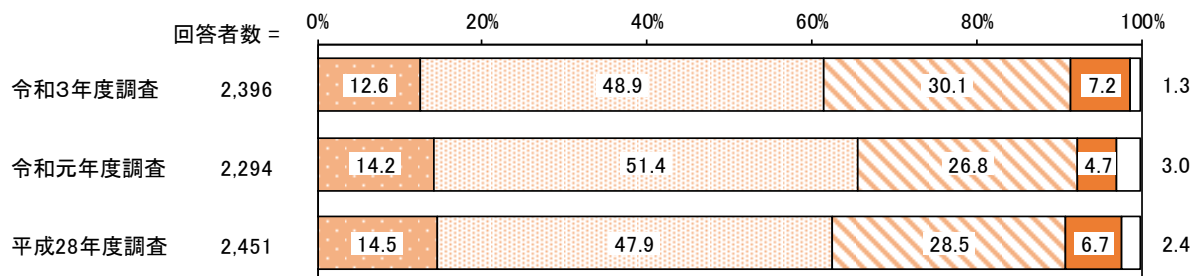
図表4-76 成果を計る指標－居住地域別



26. 大和市では、市政情報（市が提供すべき情報）を手軽に入手できると思う

【そう思う】は61.5%で前回結果（65.6%）と比較して4.1ポイント減少している。（図表4-77）

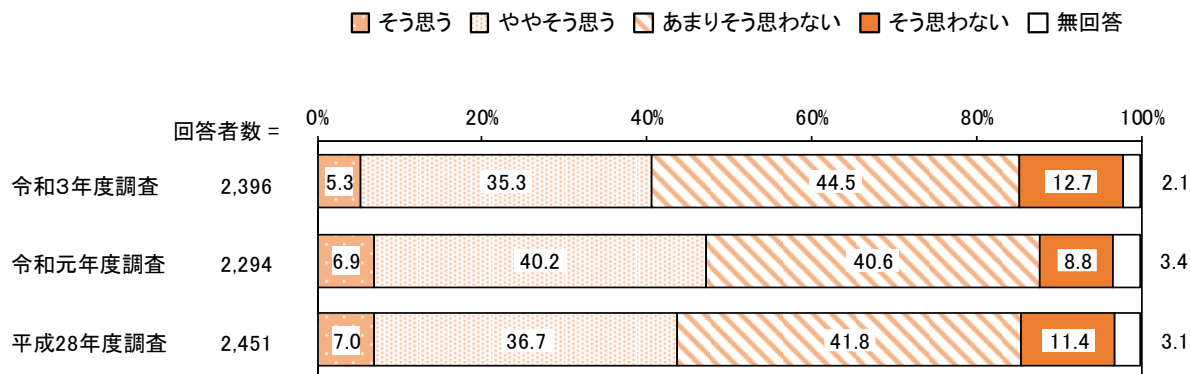
図表4-77 成果を計る指標－経年比較



27. 大和市役所は、市民の声が届く市役所であると思う

【そう思う】は40.6%で前回結果（47.1%）と比較して6.5ポイント減少している。
 (図表4-78)

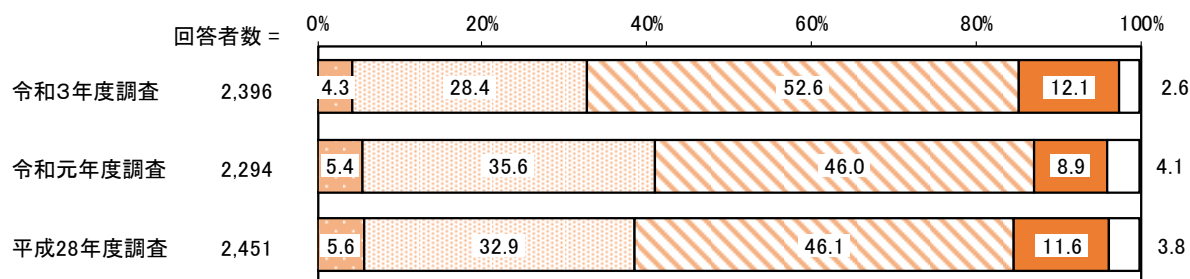
図表4-78 成果を計る指標—経年比較



28. 大和市では、市政への参加の機会が確保されていると思う

【そう思う】は32.7%で前回結果（41.0%）と比較して8.3ポイント減少している。
 (図表4-79)

図表4-79 成果を計る指標—経年比較



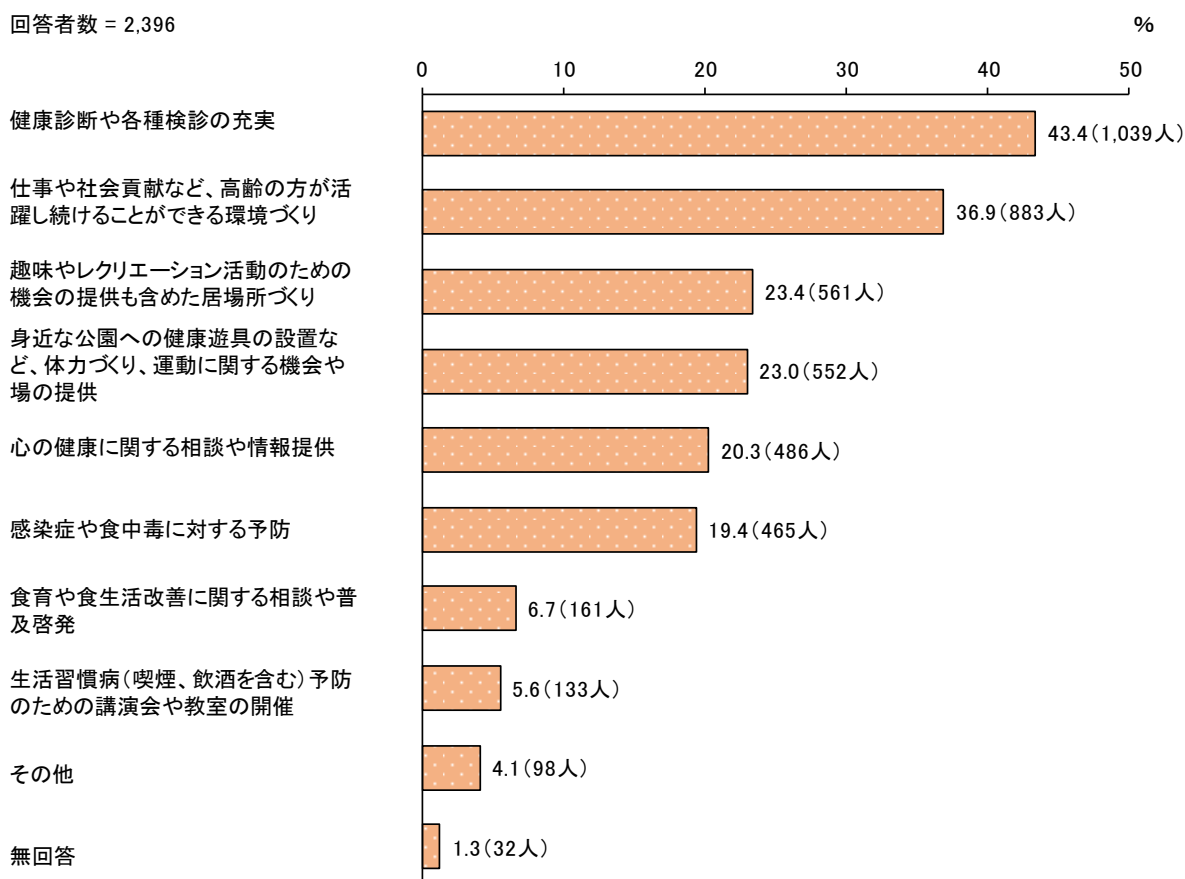
(6) 市が重視すべき取り組みについて

問5 心と身体の健康づくりに関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「健康診断や各種検診の充実」(43.4%)が最も多く4割を超えている。次いで、「仕事や社会貢献など、高齢の方が活躍し続けることができる環境づくり」(36.9%)、「趣味やレクリエーション活動のための機会の提供も含めた居場所づくり」(23.4%)、「身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供」(23.0%)の順となっている。

(図表5-1)

図表5-1 心と身体の健康づくりに関する取り組み—全体



【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「健康診断や各種検診の充実」(44.3%)、(42.7%)が最も多く4割を超えている。

年齢別にみると、男女とも年齢が上がるにつれて「仕事や社会貢献など、高齢の方が活躍し続けることができる環境づくり」が増加傾向となっている。(図表5-1-1)

図表5-1-1 心と身体の健康づくりに関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数(N)	健康診断や各種検診の充実	身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供	生活習慣病(喫煙、飲酒を含む)予防のための講演会や教室の開催	心の健康に関する相談や情報提供	食育や食生活改善に関する相談や普及啓発	感染症や食中毒に対する予防	趣味やレクリエーション活動のための機会の提供も含めた居場所づくり	仕事や社会貢献など、高齢の方が活躍し続けることができる環境づくり	その他	無回答
全体	2,396	43.4	23.0	5.6	20.3	6.7	19.4	23.4	36.9	4.1	1.3
【男性 全体】	1,003	44.3	24.8	5.7	18.1	7.1	21.0	24.9	34.9	4.1	0.8
男性 10歳代	33	33.3	36.4	18.2	9.1	12.1	27.3	21.2	12.1	3.0	—
20歳代	86	45.3	29.1	4.7	22.1	8.1	25.6	26.7	16.3	4.7	1.2
30歳代	132	44.7	38.6	3.8	14.4	9.8	17.4	28.0	22.0	6.1	1.5
40歳代	184	38.6	25.5	6.0	29.9	9.2	17.9	27.7	28.8	3.8	—
50歳代	202	43.6	19.8	4.5	14.4	6.9	24.8	21.3	39.1	6.4	—
60歳代	170	41.8	22.4	5.3	12.4	6.5	18.8	26.5	51.8	2.4	1.8
70歳以上	196	53.6	18.4	6.6	18.4	2.6	21.4	22.4	42.3	2.0	1.0
【女性 全体】	1,242	42.7	21.6	5.3	22.2	6.6	18.4	23.3	38.4	3.9	1.3
女性 10歳代	33	39.4	21.2	12.1	36.4	—	21.2	24.2	30.3	6.1	—
20歳代	87	46.0	37.9	4.6	25.3	2.3	17.2	16.1	29.9	1.1	1.1
30歳代	168	48.2	33.3	1.8	22.0	9.5	20.8	19.0	22.0	7.1	1.2
40歳代	229	46.7	18.8	3.9	23.6	3.5	17.0	23.6	39.3	6.6	—
50歳代	252	42.9	17.1	7.9	24.6	4.4	17.1	21.4	44.4	2.8	1.6
60歳代	203	35.0	16.7	3.9	23.6	8.4	15.8	26.1	48.8	3.0	1.5
70歳以上	266	41.0	18.8	6.8	14.3	10.5	21.4	27.8	38.3	1.9	2.3

【医療機関の利用頻度別】

医療機関の利用頻度別では、大きな差異は見られない。(図表5-1-2)

図表5-1-2 心と身体の健康づくりに関する取り組み—医療機関の利用頻度別

単位：%

区分	回答者数(N)	健康診断や各種検診の充実	身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供	生活習慣病(喫煙、飲酒を含む)予防のための講演会や教室の開催	心の健康に関する相談や情報提供	食育や食生活改善に関する相談や普及啓発	感染症や食中毒に対する予防	趣味やレクリエーション活動のための機会の提供も含めた居場所づくり	仕事や社会貢献など、高齢の方が活躍し続けることができる環境づくり	その他	無回答
全体	2,396	43.4	23.0	5.6	20.3	6.7	19.4	23.4	36.9	4.1	1.3
週に1回以上	82	41.5	22.0	3.7	19.5	3.7	20.7	26.8	36.6	7.3	1.2
月に2~3回程度	368	45.9	24.2	7.1	22.6	5.4	15.2	23.4	33.7	5.2	1.9
月に1回ほど	855	45.7	21.4	4.9	20.1	6.4	21.2	22.2	37.7	4.0	0.8
年に2~3回程度	883	41.7	23.4	5.9	19.8	7.8	19.6	24.6	36.4	3.7	1.0
年に1回も利用しない	133	31.6	27.1	5.3	21.8	8.3	16.5	29.3	39.8	3.8	2.3

【居住地域別】

居住地域別にみると、「健康診断や各種検診の充実」が相模大塚地区（54.8%）で5割半ばと他の地域と比べ高くなっている。（図表5－1－3）

図表5－1－3 心と身体の健康づくりに関する取り組み－居住地域別

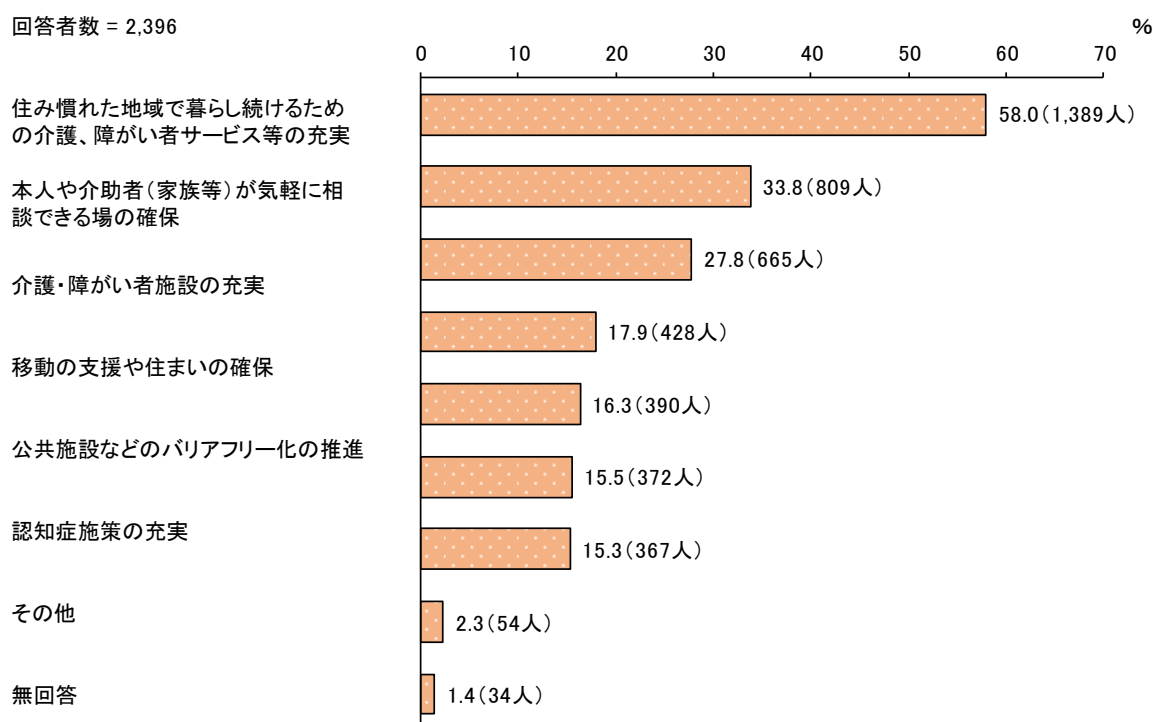
単位：%

区分	回答者数（N）	健康診断や各種検診の充実	身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供	生活習慣病（喫煙、飲酒を含む）予防のための講演会や教室の開催	心の健康に関する相談や情報提供	食育や食生活改善に関する相談や普及啓発	感染症や食中毒に対する予防	趣味やレクリエーション活動のための機会の提供も含めた居場所づくり	仕事や社会貢献など、高齢の方が活躍し続けることができる環境づくり	その他	無回答
全体	2,396	43.4	23.0	5.6	20.3	6.7	19.4	23.4	36.9	4.1	1.3
中央林間地区	302	43.7	27.5	5.3	19.5	5.0	15.6	24.8	36.8	5.0	2.0
つきみ野地区	240	43.3	27.9	4.6	15.8	3.8	19.6	28.3	38.3	2.9	0.8
南林間・鶴間地区	709	44.0	19.5	6.5	19.6	7.6	19.7	24.1	39.1	4.1	1.1
相模大塚地区	73	54.8	28.8	1.4	12.3	6.8	28.8	16.4	23.3	5.5	—
大和地区	471	41.4	22.7	6.6	24.4	8.1	18.5	23.6	36.5	3.2	0.4
桜ヶ丘地区	304	43.1	24.7	5.6	16.1	7.6	21.7	22.7	36.5	5.3	2.0
高座渋谷地区	253	41.1	21.7	3.6	24.1	5.9	20.6	20.2	35.6	3.6	2.4

問6 介護が必要な方や障がいのある方に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「住み慣れた地域で暮らし続けるための介護、障がい者サービス等の充実」(58.0%)が最も多く6割近くとなっている。次いで「本人や介助者(家族等)が気軽に相談できる場の確保」(33.8%)、「介護・障がい者施設の充実」(27.8%)、「移動の支援や住まいの確保」(17.9%)、「公共施設などのバリアフリー化の推進」(16.3%)の順となっている。(図表6-1)

図表6-1 介護が必要な方や障がいのある方に関する取り組み—全体



【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「住み慣れた地域で暮らし続けるための介護、障がい者サービス等の充実」が1位となっている。

年齢別にみると、男性 70 歳以上で「住み慣れた地域で暮らし続けるための介護、障がい者サービス等の充実」(70.4%) が約7割となっている。また、男女ともに年齢が下がるにつれて「公共施設などのバリアフリー化の推進」が増加傾向となっている。(図表6-1-1)

図表6-1-1 介護が必要な方や障がいのある方に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数(N)	住み慣れた地域で暮らし続けるための介護、障がい者サービス等の充実	介護・障がい者施設の充実	本人や介助者(家族等)が気軽に相談できる場の確保	認知症施策の充実	移動の支援や住まいの確保	公共施設などのバリアフリー化の推進	地域における支え合いの体制づくり	その他	無回答
全体	2,396	58.0	27.8	33.8	15.5	17.9	16.3	15.3	2.3	1.4
【男性 全体】	1,003	57.7	29.5	31.6	15.6	17.7	16.7	15.3	2.4	1.4
男性 10歳代	33	42.4	39.4	27.3	15.2	6.1	45.5	6.1	—	—
20歳代	86	46.5	26.7	22.1	12.8	23.3	33.7	16.3	2.3	2.3
30歳代	132	45.5	25.8	30.3	11.4	25.0	23.5	15.9	5.3	1.5
40歳代	184	54.9	24.5	39.7	13.6	23.9	19.6	13.0	1.6	—
50歳代	202	62.9	30.2	32.7	15.8	16.8	12.4	11.9	4.0	0.5
60歳代	170	58.2	34.1	30.0	21.8	10.6	11.2	18.2	0.6	3.5
70歳以上	196	70.4	31.6	30.1	15.8	13.8	6.6	18.9	1.5	1.5
【女性 全体】	1,242	58.5	27.2	35.7	15.1	18.5	16.2	15.0	2.1	1.0
女性 10歳代	33	54.5	9.1	30.3	18.2	9.1	57.6	12.1	3.0	—
20歳代	87	49.4	19.5	40.2	17.2	13.8	26.4	21.8	—	—
30歳代	168	50.6	26.2	33.3	14.3	16.7	29.8	16.1	2.4	0.6
40歳代	229	58.1	27.9	39.7	12.2	16.2	16.2	14.0	3.9	1.7
50歳代	252	56.7	29.0	40.5	13.9	27.4	10.3	9.9	2.0	0.4
60歳代	203	63.1	27.6	34.5	17.7	20.2	13.3	14.3	1.0	1.0
70歳以上	266	66.2	30.1	29.7	16.2	14.7	6.8	18.8	1.9	1.5

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域において「住み慣れた地域で暮らし続けるための介護、障がい者サービス等の充実」が1位となっている。また、中央林間地区と相模大塚地区を除くすべての地域において「本人や介助者（家族等）が気軽に相談できる場の確保」が2位となっている。

（図表6-1-2）

図表6-1-2 介護が必要な方や障がいのある方に関する取り組み—居住地域別

単位：%

区分	回答者数（N）	住み慣れた地域で暮らし続けるための介護、障がい者サービス等の充実	介護・障がい者施設の充実	本人や介助者（家族等）が気軽に相談できる場の確保	認知症施策の充実	移動の支援や住まいの確保	公共施設などのバリアフリー化の推進	地域における支え合いの体制づくり	その他	無回答
全体	2,396	58.0	27.8	33.8	15.5	17.9	16.3	15.3	2.3	1.4
中央林間地区	302	59.9	30.5	28.8	14.2	18.9	18.5	14.2	1.7	1.7
つきみ野地区	240	60.0	28.3	34.2	12.5	18.8	18.3	13.3	2.5	0.4
南林間・鶴間地区	709	57.1	28.6	33.6	16.8	19.0	15.0	16.8	2.3	1.6
相模大塚地区	73	49.3	32.9	26.0	6.8	21.9	20.5	11.0	6.8	2.7
大和地区	471	57.1	26.3	36.5	16.3	15.9	17.2	18.0	1.1	0.8
桜ヶ丘地区	304	57.6	28.3	34.5	16.8	15.5	13.5	15.8	3.0	2.0
高座渋谷地区	253	60.9	22.9	36.4	15.0	17.8	17.0	11.1	2.4	1.6

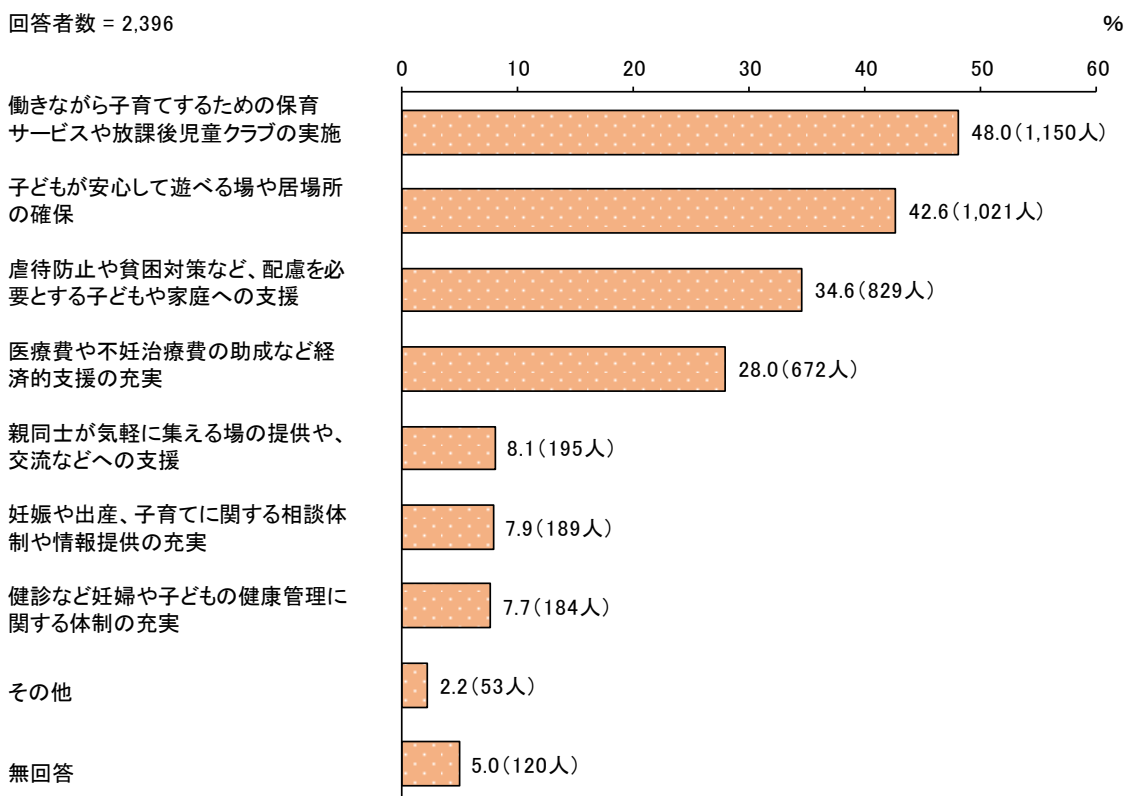
問7 子育てに関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施」(48.0%)が最も多く5割近くとなっている。次いで、「子どもが安心して遊べる場所や居場所の確保」(42.6%)、「虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援」(34.6%)、「医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実」(28.0%)の順となっている。(図表7-1)

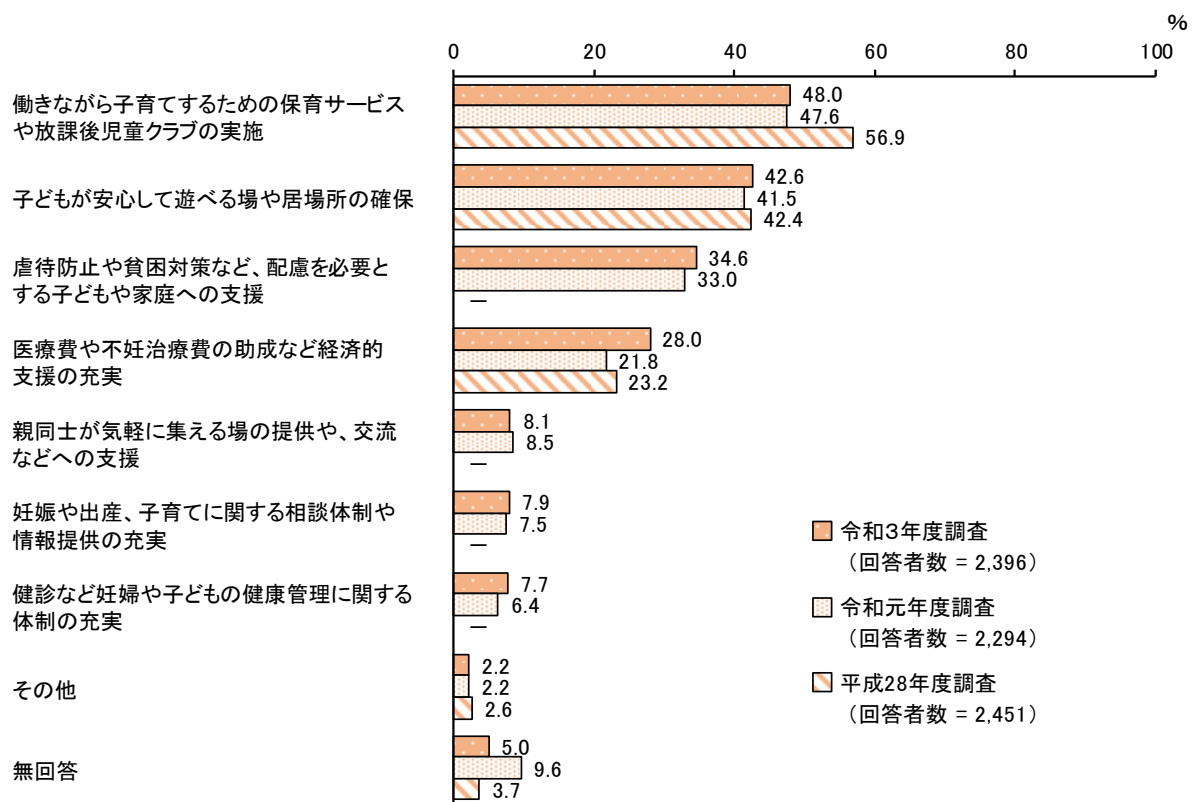
前回結果と比較すると、「働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施」が1位、「子どもが安心して遊べる場所や居場所の確保」が2位となり、前回同様の順位となった。(図表7-1-1)

図表7-1 子育てに関する取り組み—全体

回答者数 = 2,396



図表 7-1-1 子育てに関する取り組み一経年比較



※平成 28 年度調査には「妊娠や出産、子育てに関する相談体制や情報提供の充実」「親同士が気軽に集える場の提供や、交流などへの支援」「健診など妊婦や子どもの健康管理に関する体制の充実」「虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援」の選択肢はありません。

単位：%

区分	回答者数 (N)	働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施	子どもが安心して遊べる場や居場所の確保	虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	親同士が気軽に集える場の提供や、交流などへの支援	妊娠や出産、子育てに関する相談体制や情報提供の充実	健診など妊婦や子どもの健康管理に関する体制の充実	その他	無回答
令和3年度調査	2,396	48.0	42.6	34.6	28.0	8.1	7.9	7.7	2.2	5.0
令和元年度調査	2,294	47.6	41.5	33.0	21.8	8.5	7.5	6.4	2.2	9.6
平成28年度調査	2,451	56.9	42.4	-	23.2	-	-	-	2.6	3.7

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施」が1位、「子どもが安心して遊べる場所や居場所の確保」が2位となっている。

年齢別にみると、「医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実」が女性20歳代(47.1%)で1位となっている。「子どもが安心して遊べる場所や居場所の確保」が男性10歳代(57.6%)、女性40歳代(45.0%)で1位となっている。「虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援」が女性10歳代(42.4%)、40歳代(48.4%)で1位となっている。

(図表7-1-2)

図表7-1-2 子育てに関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数(N)	働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	妊娠や出産、子育てに関する相談体制や情報提供の充実	親同士が気軽に集える場の提供や、交流などへの支援	子どもが安心して遊べる場や居場所の確保	健診など妊婦や子どもの健康管理に関する体制の充実	虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援	その他	無回答
全体	2,396	48.0	28.0	7.9	8.1	42.6	7.7	34.6	2.2	5.0
【男性 全体】	1,003	52.2	31.0	9.5	7.2	42.7	8.3	30.9	2.0	3.3
男性 10歳代	33	39.4	27.3	12.1	9.1	57.6	9.1	24.2	3.0	—
20歳代	86	45.3	40.7	18.6	7.0	41.9	10.5	23.3	—	2.3
30歳代	132	54.5	37.9	11.4	4.5	43.2	11.4	18.9	2.3	2.3
40歳代	184	53.3	42.4	6.5	6.5	47.8	4.3	28.8	2.2	1.1
50歳代	202	46.0	27.7	9.4	6.4	38.6	7.4	41.1	3.5	3.5
60歳代	170	60.6	21.8	8.2	10.0	38.2	8.2	33.5	1.8	5.9
70歳以上	196	54.1	23.5	7.7	7.7	43.4	9.7	32.7	1.0	4.6
【女性 全体】	1,242	46.8	26.7	7.0	8.8	43.4	7.4	38.2	2.3	3.9
女性 10歳代	33	30.3	27.3	15.2	27.3	36.4	15.2	42.4	3.0	—
20歳代	87	46.0	47.1	13.8	8.0	32.2	12.6	24.1	—	4.6
30歳代	168	58.3	39.3	9.5	4.2	47.6	11.3	22.6	1.8	1.2
40歳代	229	40.2	35.4	7.9	5.7	45.0	8.7	35.4	4.8	2.6
50歳代	252	40.9	25.4	7.9	7.9	42.5	6.0	48.4	2.4	0.8
60歳代	203	53.7	17.2	4.4	9.9	48.8	3.0	49.3	0.5	2.5
70歳以上	266	48.1	13.2	2.6	12.4	41.4	6.0	36.5	2.3	10.2

【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、いる（未就学のお子さんのみ）、いないでは「働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施」が1位となっている。また、いる（小学生以上18歳未満のお子さんのみ）、いる（未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも）では「子どもが安心して遊べる場や居場所の確保」が1位となっている。（図表7-1-3）

図表7-1-3 子育てに関する取り組み—こどもの有無別

単位：％

区分	回答者数（N）	働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	妊娠や出産、子育てに関する相談体制や情報提供の充実	親同士が気軽に集える場の提供や、交流などへの支援	子どもが安心して遊べる場や居場所の確保	健診など妊婦や子どもの健康管理に関する体制の充実	虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援	その他	無回答
全体	2,396	48.0	28.0	7.9	8.1	42.6	7.7	34.6	2.2	5.0
いる（未就学のお子さんのみ）	171	56.7	38.6	8.2	7.0	56.1	9.9	15.2	4.1	1.2
いる（小学生以上18歳未満のお子さんのみ）	304	37.2	38.2	6.3	7.2	54.3	8.2	29.6	3.9	1.6
いる（未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも）	91	50.5	26.4	3.3	6.6	65.9	4.4	24.2	2.2	3.3
いない	1,645	50.3	26.9	8.9	8.3	38.2	8.0	38.8	1.5	3.9

【年齢別（こどものいない人）】

こどものいない人の年齢別にみると、30歳代、40歳代、60歳代、70歳以上で「働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施」が1位となっている。また20歳代で「医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実」が、10歳代で「子どもが安心して遊べる場や居場所の確保」が、50歳代で「虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援」が1位となっている。（図表7-1-4）

図表7-1-4 子育てに関する取り組み一年齢別（こどものいない人）

単位：%

区分	回答者数（N）	働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	妊娠や出産、子育てに関する相談体制や情報提供の充実	親同士が気軽に集える場の提供や、交流などへの支援	子どもが安心して遊べる場や居場所の確保	健診など妊婦や子どもの健康管理に関する体制の充実	虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援	その他	無回答
全体	1,645	50.3	26.9	8.9	8.3	38.2	8.0	38.8	1.5	3.9
10歳代	55	36.4	27.3	10.9	14.5	47.3	14.5	34.5	3.6	—
20歳代	158	42.4	45.6	15.8	8.2	34.8	10.8	27.2	—	3.8
30歳代	133	57.1	42.9	14.3	3.0	30.8	13.5	29.3	0.8	1.5
40歳代	175	54.3	36.0	10.9	6.9	29.1	7.4	42.3	1.7	1.7
50歳代	365	43.6	24.7	9.3	7.1	38.1	6.0	47.1	2.7	2.2
60歳代	350	56.9	20.9	6.6	8.9	43.4	5.4	42.0	0.9	4.0
70歳以上	405	51.9	18.0	4.9	10.4	40.5	8.4	35.3	1.5	6.9

【居住地域別】

居住地域別では、相模大塚地区を除く他の地域で「働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施」が1位となっている。相模大塚地域では、「子どもが安心して遊べる場や居場所の確保」が1位となっている。また大和地区で「虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援」(40.3%)が他の地域と比べて多くなっている。

(図表7-1-5)

図表7-1-5 子育てに関する取り組み—居住地域別

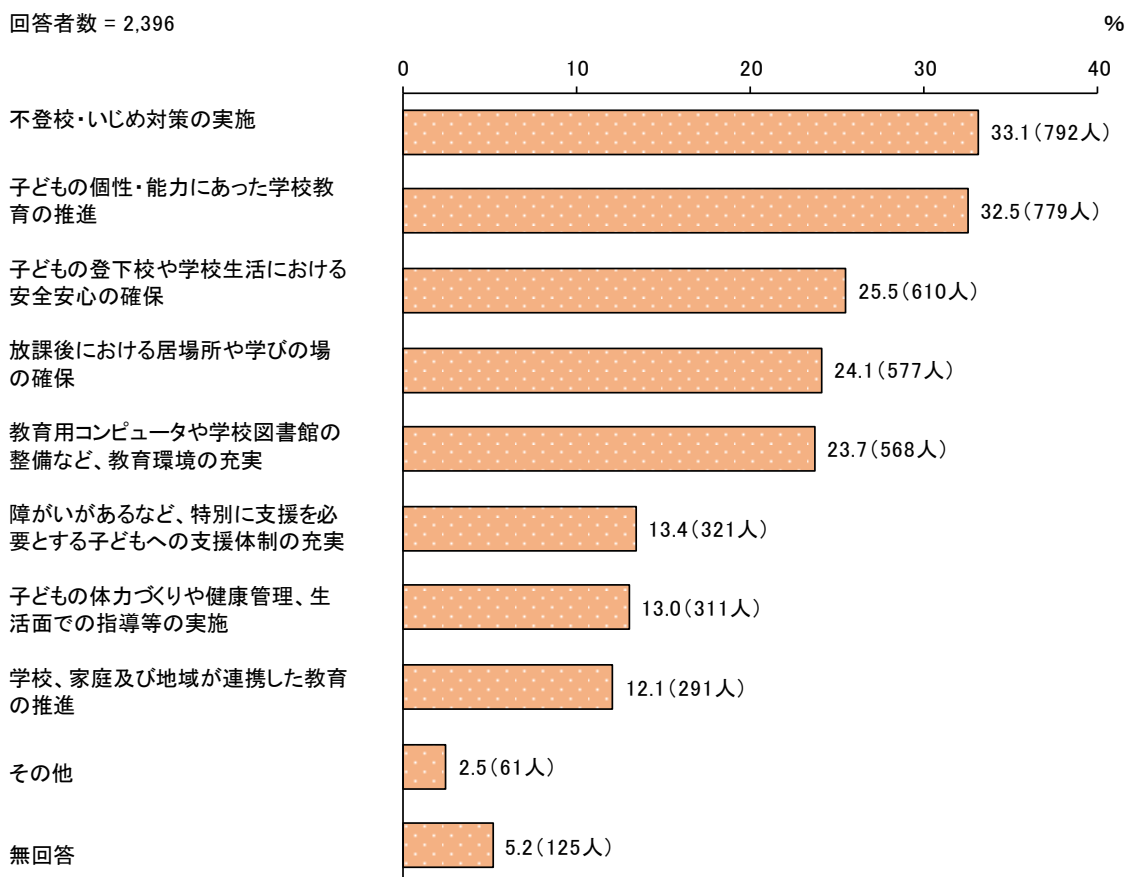
単位：%

区分	回答者数(N)	働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	妊娠や出産、子育てに関する相談体制や情報提供の充実	親同士が気軽に集える場の提供や、交流などへの支援	子どもが安心して遊べる場や居場所の確保	健診など妊婦や子どもの健康管理に関する体制の充実	虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援	その他	無回答
全体	2,396	48.0	28.0	7.9	8.1	42.6	7.7	34.6	2.2	5.0
中央林間地区	302	53.6	25.8	6.3	9.9	49.0	8.9	27.8	1.3	4.3
つきみ野地区	240	55.8	29.6	8.8	8.3	42.5	6.3	29.6	1.7	4.2
南林間・鶴間地区	709	48.4	27.6	7.3	7.5	45.4	5.8	36.7	2.3	4.8
相模大塚地区	73	42.5	28.8	4.1	8.2	46.6	11.0	32.9	2.7	4.1
大和地区	471	46.3	27.2	9.8	7.9	37.2	9.1	40.3	2.1	4.5
桜ヶ丘地区	304	46.1	28.3	7.2	7.2	44.1	6.9	36.2	3.0	5.3
高座渋谷地区	253	41.9	32.8	9.1	8.7	36.0	10.7	31.2	2.0	5.9

問8 こどもの学びに関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「不登校・いじめ対策の実施」(33.1%)が最も多く3割を超えている。次いで、「子どもの個性・能力にあった学校教育の推進」(32.5%)、「子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保」(25.5%)、「放課後における居場所や学びの場の確保」(24.1%)、「教育用コンピュータや学校図書館の整備など、教育環境の充実」(23.7%)の順となっている。(図表8-1)

図表8-1 こどもの学びに関する取り組み—全体・経年比較



【性別・年齢別】

性別にみると、男性は「子どもの個性・能力にあった学校教育の推進」が1位、女性は「不登校・いじめ対策の実施」が1位となっている。

年齢別にみると、「子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保」が女性20歳代（33.3）と女性30歳代（39.3%）で1位となっている。（図表8-1-1）

図表8-1-1 こどもの学びに関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数(N)	子どもの個性・能力にあった学校教育の推進	教育用コンピュータや学校図書館の整備など、教育環境の充実	学校、家庭及び地域が連携した教育の推進	子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保	放課後における居場所や学びの場の確保	子どもの体力づくりや健康管理、生活面での指導等の実施	障がいがあるなど、特別に支援を必要とする子どもへの支援体制の充実	不登校・いじめ対策の実施	その他	無回答
全体	2,396	32.5	23.7	12.1	25.5	24.1	13.0	13.4	33.1	2.5	5.2
【男性 全体】	1,003	34.9	27.2	13.0	22.5	23.1	16.0	12.0	34.6	2.3	3.4
男性 10歳代	33	42.4	24.2	6.1	9.1	24.2	21.2	12.1	45.5	3.0	—
20歳代	86	47.7	34.9	10.5	19.8	25.6	16.3	9.3	20.9	2.3	2.3
30歳代	132	35.6	33.3	8.3	29.5	25.8	17.4	6.8	30.3	2.3	2.3
40歳代	184	37.0	26.6	9.2	26.6	26.6	19.0	10.9	34.2	2.7	1.1
50歳代	202	29.2	27.2	16.3	22.3	20.8	11.4	11.4	40.6	2.0	3.5
60歳代	170	34.1	26.5	14.1	15.9	22.4	15.3	14.7	36.5	1.8	5.9
70歳以上	196	32.1	21.4	17.3	23.5	19.9	16.3	15.8	34.2	2.6	5.1
【女性 全体】	1,242	31.3	21.8	12.1	28.1	25.7	11.4	14.8	32.4	2.5	4.2
女性 10歳代	33	27.3	36.4	12.1	15.2	18.2	12.1	21.2	39.4	6.1	—
20歳代	87	29.9	26.4	18.4	33.3	19.5	12.6	8.0	33.3	2.3	4.6
30歳代	168	26.8	28.6	7.7	39.3	34.5	11.9	13.1	25.6	4.2	1.8
40歳代	229	40.2	28.4	8.7	25.8	22.7	12.2	19.2	23.1	4.4	3.1
50歳代	252	28.2	17.5	13.5	23.8	28.6	11.5	13.5	41.3	1.6	1.6
60歳代	203	37.4	20.7	13.8	24.6	26.6	9.9	12.8	38.9	0.5	2.5
70歳以上	266	25.9	13.9	13.2	30.1	22.6	11.3	16.5	30.5	1.5	10.5

【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、未就学のこどもがいる人では「子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保」が4割を超えて高く、こどものいない人では「不登校・いじめ対策の実施」が1位となっている。(図表8-1-2)

図表8-1-2 こどもの学びに関する取り組み—こどもの有無別

単位：%

区分	回答者数(N)	子どもの個性・能力にあった学校教育の推進	教育用コンピュータや学校図書館の整備など、教育環境の充実	学校、家庭及び地域が連携した教育の推進	子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保	放課後における居場所や学びの場の確保	子どもの体力づくりや健康管理、生活面での指導等の実施	障がいがあるなど、特別に支援を必要とする子どもへの支援体制の充実	不登校・いじめ対策の実施	その他	無回答
全体	2,396	32.5	23.7	12.1	25.5	24.1	13.0	13.4	33.1	2.5	5.2
いる(未就学のお子さんのみ)	171	33.9	29.8	7.6	43.9	33.9	9.4	9.9	24.6	2.9	1.2
いる(小学生以上18歳未満のお子さんのみ)	304	36.8	30.6	8.9	27.6	24.7	15.1	12.5	27.3	5.6	1.3
いる(未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも)	91	28.6	24.2	6.6	39.6	29.7	19.8	9.9	20.9	5.5	4.4
いない	1,645	32.8	22.8	14.0	23.1	24.0	12.9	14.2	35.9	1.7	4.0

【年齢別（こどものいない人）】

こどものいない人の年齢別にみると、「子どもの個性・能力にあった学校教育の推進」が40歳代で4割半ばと最も多くなっている。（図表8-1-3）

図表8-1-3 こどもの学びに関する取り組み一年齢別（こどものいない人）

単位：%

区分	回答者数（N）	子どもの個性・能力にあった学校教育の推進	教育用コンピュータや学校図書館の整備など、教育環境の充実	学校、家庭及び地域が連携した教育の推進	子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保	放課後における居場所や学びの場の確保	子どもの体力づくりや健康管理、生活面での指導等の実施	障がいがあるなど、特別に支援を必要とする子どもへの支援体制の充実	不登校・いじめ対策の実施	その他	無回答
全体	2,396	32.5	23.7	12.1	25.5	24.1	13.0	13.4	33.1	2.5	5.2
10歳代	55	30.9	29.1	10.9	14.5	20.0	16.4	16.4	43.6	5.5	—
20歳代	158	39.9	31.6	17.7	20.3	22.8	15.2	10.1	24.7	2.5	3.8
30歳代	133	30.8	31.6	9.8	25.6	25.6	17.3	9.8	37.6	1.5	1.5
40歳代	175	44.6	24.0	10.3	18.9	22.3	12.0	18.3	37.7	1.7	1.7
50歳代	365	26.0	21.1	14.2	22.7	26.3	11.8	12.9	41.6	1.1	2.7
60歳代	350	36.3	23.1	14.0	22.3	24.6	10.9	14.3	38.3	0.9	4.0
70歳以上	405	28.9	16.5	15.8	27.7	22.7	13.6	16.5	30.6	2.2	7.2

【居住地域別】

居住地域別にみると、「子どもの個性・能力にあった学校教育の推進」が中央林間地区(37.1%)、桜ヶ丘地区(37.8%)で4割近くと他の地域と比べ高くなっている。(図表8-1-4)

図表8-1-4 こどもの学びに関する取り組み—居住地域別

単位：%

区分	回答者数(N)	子どもの個性・能力にあった学校教育の推進	教育用コンピュータや学校図書館の整備など、教育環境の充実	学校、家庭及び地域が連携した教育の推進	子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保	放課後における居場所や学びの場の確保	子どもの体力づくりや健康管理、生活面での指導等の実施	障がいがあるなど、特別に支援を必要とする子どもへの支援体制の充実	不登校・いじめ対策の実施	その他	無回答
全体	2,396	32.5	23.7	12.1	25.5	24.1	13.0	13.4	33.1	2.5	5.2
中央林間地区	302	37.1	24.8	11.6	26.5	28.5	11.6	10.9	29.1	3.6	4.0
つきみ野地区	240	29.6	33.3	13.3	25.8	27.1	10.0	11.3	31.3	2.1	4.2
南林間・鶴間地区	709	32.3	23.7	11.1	26.7	23.7	12.7	13.7	33.9	2.8	5.4
相模大塚地区	73	23.3	20.5	12.3	24.7	35.6	16.4	16.4	26.0	1.4	4.1
大和地区	471	31.2	20.8	16.3	24.8	21.7	15.5	14.4	35.5	1.5	4.5
桜ヶ丘地区	304	37.8	21.7	11.2	23.7	21.4	13.5	13.5	36.5	2.3	5.3
高座渋谷地区	253	31.2	23.7	7.9	26.1	21.3	12.6	14.2	30.8	3.2	6.7

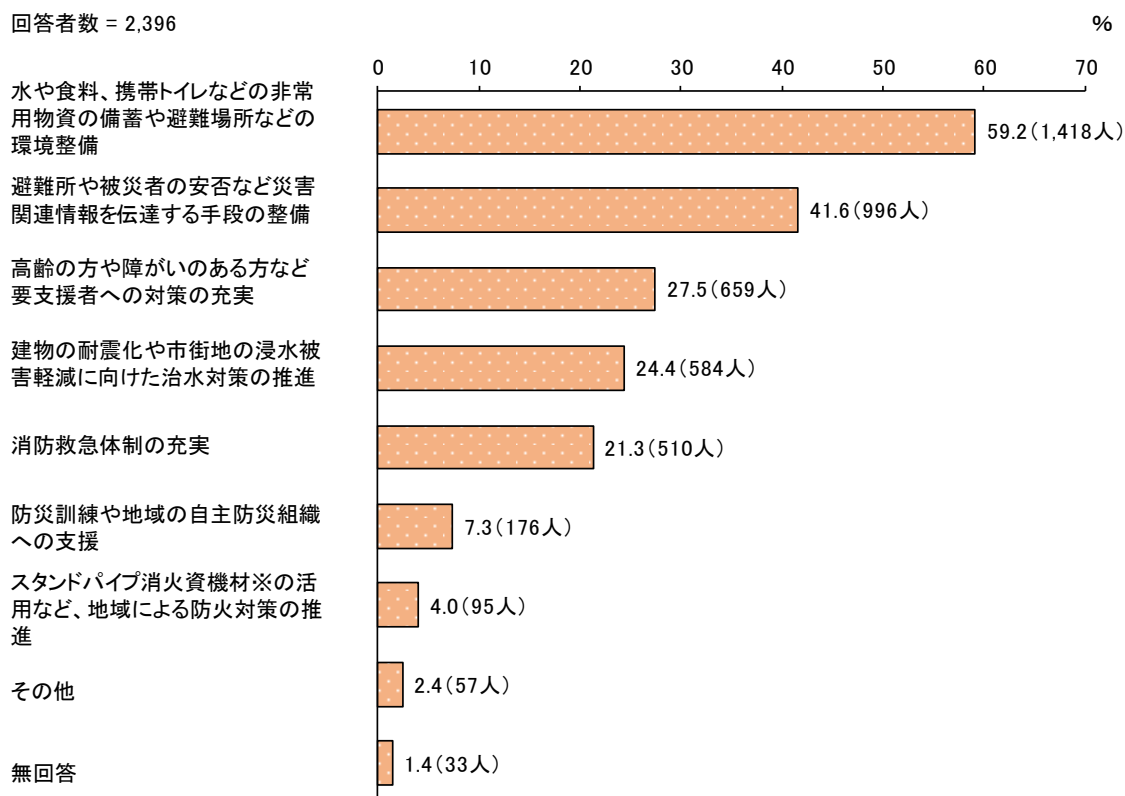
問9 災害への対応力を高めるための取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備」(59.2%) が最も多く約6割となっている。次いで、「避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備」(41.6%)、「高齢の方や障がいのある方など要支援者への対策の充実」(27.5%)、「建物の耐震化や市街地の浸水被害軽減に向けた治水対策の推進」(24.4%)の順となっている。

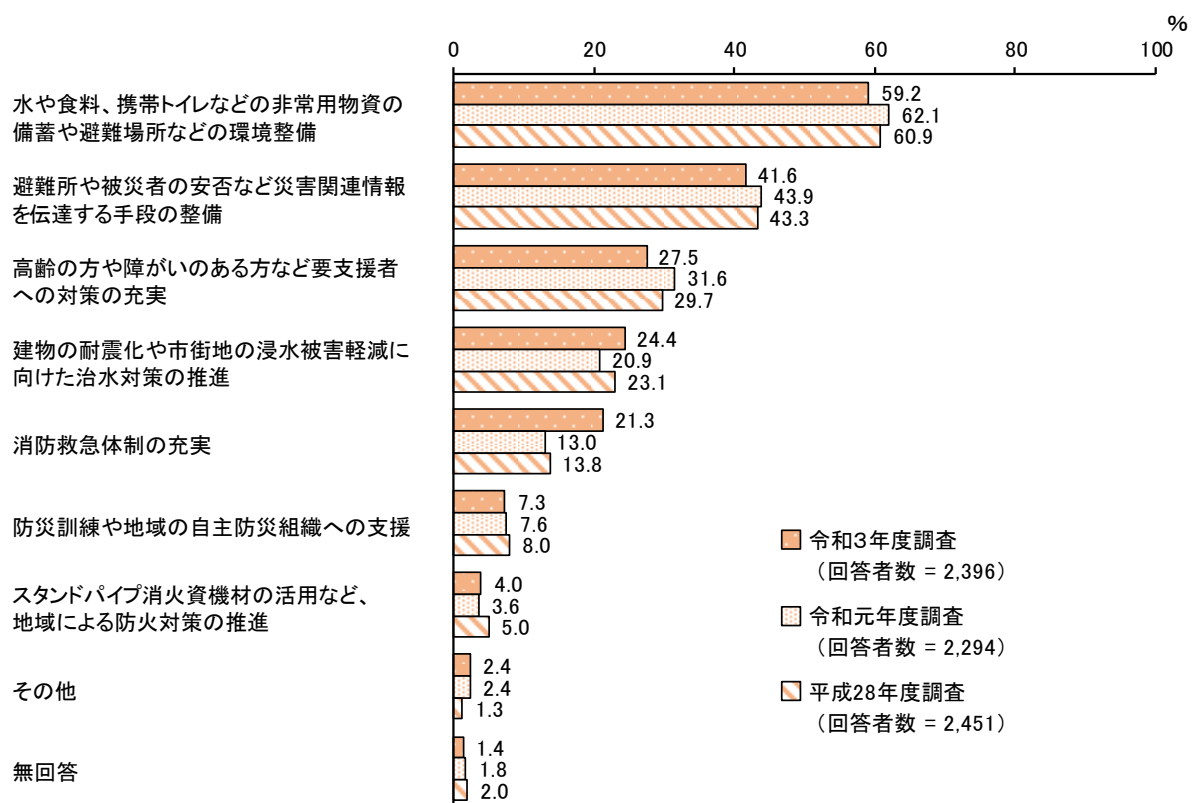
(図表9-1)

前回結果と比較すると、「水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備」が1位、「避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備」が2位となり、前回同様の順位となった。(図表9-1-1)

図表9-1 災害に関する取り組み—全体



図表 9-1-1 災害に関する取り組み一経年比較



単位：%

区分	回答者数 (N)	水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備	避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備	高齢の方や障がいのある方など要支援者への対策の充実	建物の耐震化や市街地の浸水被害軽減に向けた治水対策の推進	消防救急体制の充実	防災訓練や地域の自主防災組織への支援	スタンドパイプ消火資機材の活用など、地域による防火対策の推進	その他	無回答
令和3年度調査	2,396	59.2	41.6	27.5	24.4	21.3	7.3	4.0	2.4	1.4
令和元年度調査	2,294	62.1	43.9	31.6	20.9	13.0	7.6	3.6	2.4	1.8
平成28年度調査	2,451	60.9	43.3	29.7	23.1	13.8	8.0	5.0	1.3	2.0

【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも「水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備」が1位、「避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備」が2位となっている。

年齢別にみると、女性 60 歳以上で「避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備」が1位となっている。(図表9-1-2)

図表9-1-2 災害に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数 (N)	避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備	水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備	防災訓練や地域の自主防災組織への支援	高齢の方や障がいのある方など要支援者への対策の充実	スタンバイパイプ消火資機材※の活用など、地域による防火対策の推進	建物の耐震化や市街地の浸水被害軽減に向けた治水対策の推進	消防救急体制の充実	その他	無回答
全体	2,396	41.6	59.2	7.3	27.5	4.0	24.4	21.3	2.4	1.4
【男性 全体】	1,003	40.9	60.6	8.0	24.3	3.9	25.3	23.4	2.4	1.2
男性 10歳代	33	39.4	42.4	15.2	18.2	12.1	42.4	21.2	—	—
20歳代	86	33.7	66.3	9.3	18.6	2.3	39.5	16.3	1.2	1.2
30歳代	132	39.4	65.2	9.8	12.9	3.8	35.6	18.9	3.0	—
40歳代	184	37.5	67.9	7.1	15.8	3.8	30.4	25.5	3.3	0.5
50歳代	202	44.6	56.4	5.9	24.8	4.5	20.8	28.7	3.0	0.5
60歳代	170	42.9	60.6	7.1	28.8	1.2	20.6	24.7	2.4	2.4
70歳以上	196	42.9	55.6	8.7	39.3	5.1	13.3	21.4	1.5	2.6
【女性 全体】	1,242	42.4	58.2	7.2	29.8	4.1	24.6	19.6	2.0	1.1
女性 10歳代	33	24.2	63.6	12.1	42.4	6.1	36.4	12.1	—	—
20歳代	87	46.0	65.5	12.6	14.9	4.6	32.2	14.9	—	1.1
30歳代	168	44.6	69.0	7.7	16.7	4.8	33.9	13.1	1.8	—
40歳代	229	35.4	61.6	8.7	24.0	4.8	27.1	23.1	4.8	0.9
50歳代	252	35.7	61.1	6.0	30.2	4.4	27.8	21.4	2.0	0.4
60歳代	203	54.2	48.3	6.4	33.0	4.4	18.7	23.6	1.0	1.0
70歳以上	266	46.2	50.8	4.9	44.0	2.3	14.3	18.8	1.5	2.3

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域において「水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備」が1位、「避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備」が2位となっている。(図表9-1-3)

図表9-1-3 災害に関する取り組み—居住地域別

単位：％

区分	回答者数(N)	避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備	水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備	防災訓練や地域の自主防災組織への支援	高齢の方や障がいのある方など要支援者への対策の充実	スタンバイ消防資機材※の活用など、地域による防火対策の推進	建物の耐震化や市街地の浸水被害軽減に向けた治水対策の推進	消防救急体制の充実	その他	無回答
全体	2,396	41.6	59.2	7.3	27.5	4.0	24.4	21.3	2.4	1.4
中央林間地区	302	39.4	66.9	7.6	23.2	2.6	26.2	21.2	2.3	1.0
つきみ野地区	240	46.3	63.8	7.1	22.1	5.4	22.9	22.1	1.3	1.3
南林間・鶴間地区	709	42.2	56.7	8.5	29.9	5.6	23.7	21.7	1.7	1.0
相模大塚地区	73	39.7	74.0	5.5	13.7	1.4	20.5	23.3	6.8	—
大和地区	471	41.8	57.3	7.0	29.7	3.6	25.7	20.0	2.5	0.6
桜ヶ丘地区	304	43.4	60.2	5.9	26.6	1.6	25.7	21.4	3.0	2.0
高座渋谷地区	253	37.2	54.5	7.1	30.8	4.0	24.1	22.9	2.0	2.0

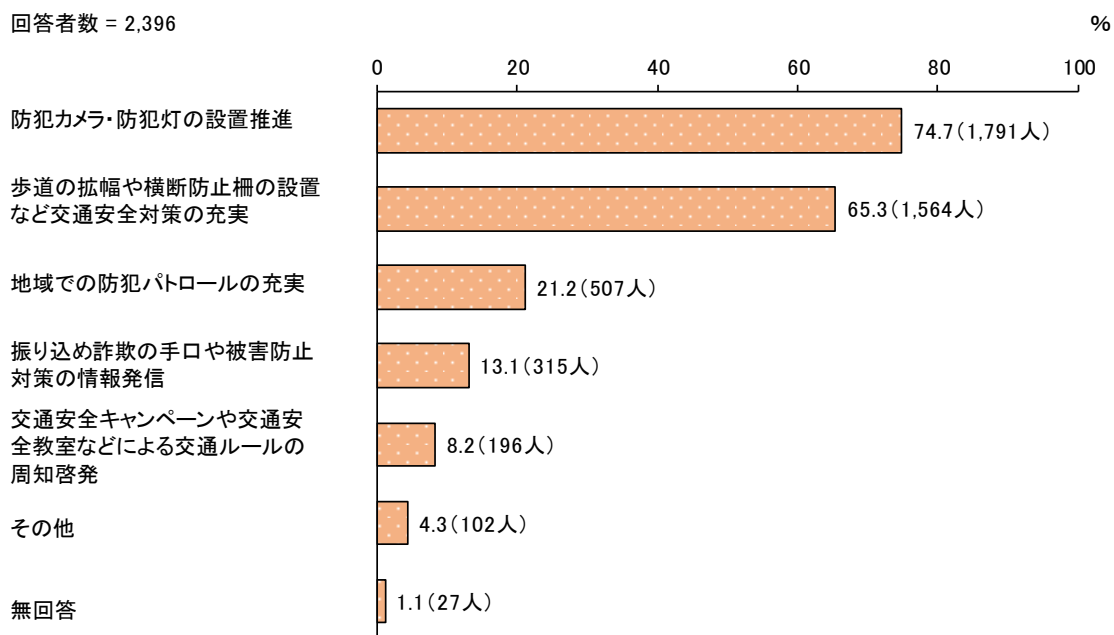
問 10 生活の安全性を高めるための取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「防犯カメラ・防犯灯の設置推進」(74.7%)が最も多く7割半ばとなっている。次いで、「歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実」(65.3%)、「地域での防犯パトロールの充実」(21.2%)、「振り込め詐欺の手口や被害防止対策の情報発信」(13.1%)の順となっている。

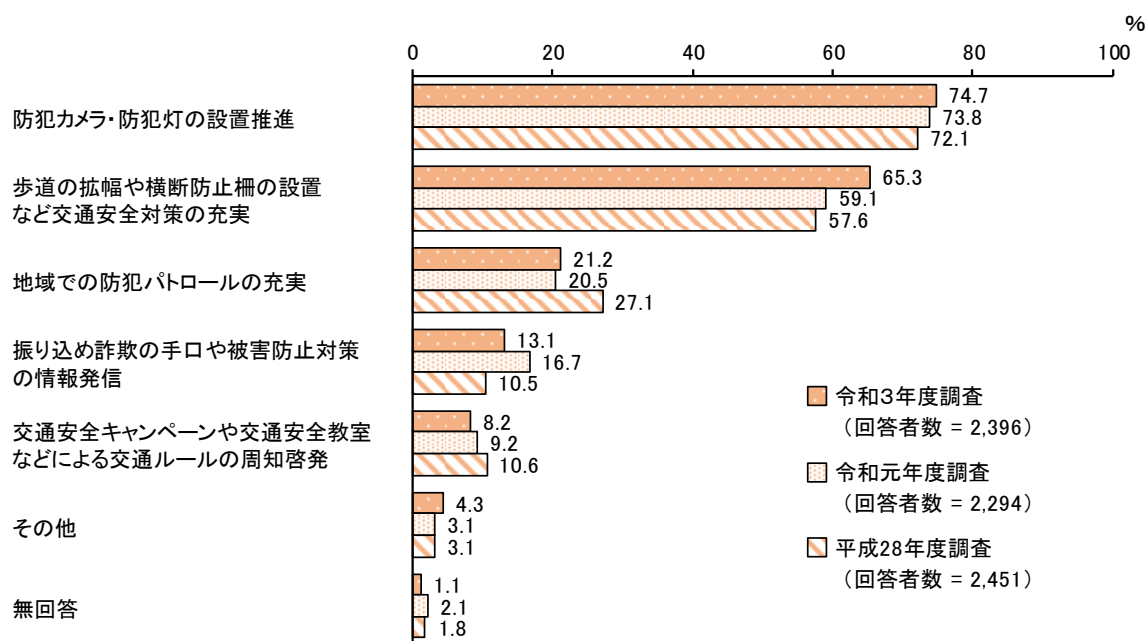
(図表 10-1)

前回結果と比較すると、「防犯カメラ・防犯灯の設置推進」が1位、「歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実」が2位となり、前回同様の順位となった。(図表 10-1-1)

図表 10-1 生活の安全性に関する取り組み—全体



図表 10-1-1 生活の安全性に関する取り組み—経年比較



単位：%

区分	回答者数 (N)	防犯カメラ・防犯灯の設置推進	歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実	地域での防犯パトロールの充実	振り込め詐欺の手口や被害防止対策の情報発信	交通安全キャンペーンや交通安全教室などによる交通ルールの周知啓発	その他	無回答
令和3年度調査	2,396	74.7	65.3	21.2	13.1	8.2	4.3	1.1
令和元年度調査	2,294	73.8	59.1	20.5	16.7	9.2	3.1	2.1
平成28年度調査	2,451	72.1	57.6	27.1	10.5	10.6	3.1	1.8

【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも「防犯カメラ・防犯灯の設置推進」が1位、「歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実」が2位となっている。

年齢別にみると、男性では、「振り込め詐欺の手口や被害防止対策の情報発信」は年齢が上がるにつれて増加傾向となっている。(図表 10-1-2)

図表 10-1-2 生活の安全性に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数 (N)	防犯カメラ・防犯灯の設置推進	地域での防犯パトロールの充実	交通安全キャンペーンや交通安全教室などによる交通ルールの周知啓発	歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実	振り込め詐欺の手口や被害防止対策の情報発信	その他	無回答
全体	2,396	74.7	21.2	8.2	65.3	13.1	4.3	1.1
【男性 全体】	1,003	75.3	21.0	10.3	65.5	11.9	4.0	0.7
男性 10歳代	33	60.6	21.2	15.2	66.7	21.2	3.0	—
20歳代	86	75.6	26.7	8.1	62.8	7.0	4.7	1.2
30歳代	132	72.7	21.2	11.4	66.7	8.3	6.1	—
40歳代	184	75.0	22.3	12.0	68.5	10.9	4.3	0.5
50歳代	202	77.7	23.3	9.4	62.9	11.9	5.0	—
60歳代	170	71.2	23.5	7.6	67.1	13.5	3.5	0.6
70歳以上	196	80.6	12.8	11.2	64.3	14.3	1.5	2.0
【女性 全体】	1,242	75.5	21.2	6.4	66.2	13.5	4.1	1.1
女性 10歳代	33	66.7	33.3	6.1	60.6	21.2	9.1	—
20歳代	87	77.0	31.0	4.6	58.6	12.6	3.4	1.1
30歳代	168	73.8	26.2	7.1	69.6	7.1	3.6	1.8
40歳代	229	77.3	16.6	5.2	70.7	13.1	7.0	—
50歳代	252	79.0	17.1	6.0	71.0	9.9	3.6	0.8
60歳代	203	76.4	20.2	9.9	68.5	12.8	3.0	—
70歳以上	266	72.2	22.2	5.3	57.9	20.7	2.6	2.6

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域において「防犯カメラ・防犯灯の設置推進」が1位、「歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実」が2位となっている。（図表10-1-3）

図表10-1-3 生活の安全性に関する取り組み－居住地域別

単位：％

区分	回答者数（N）	防犯カメラ・防犯灯の設置推進	地域での防犯パトロールの充実	交通安全キャンペーンや交通安全教室などによる交通ルールの周知啓発	歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実	振り込め詐欺の手口や被害防止対策の情報発信	その他	無回答
全体	2,396	74.7	21.2	8.2	65.3	13.1	4.3	1.1
中央林間地区	302	74.8	21.2	6.3	70.9	9.6	5.6	1.3
つきみ野地区	240	77.1	21.7	3.8	65.0	15.4	6.7	0.8
南林間・鶴間地区	709	73.5	20.7	10.4	66.9	12.3	4.5	1.1
相模大塚地区	73	75.3	21.9	9.6	67.1	5.5	2.7	—
大和地区	471	74.3	23.4	7.2	62.2	15.3	3.8	0.4
桜ヶ丘地区	304	77.3	20.1	6.3	67.1	13.5	3.3	1.0
高座渋谷地区	253	74.7	20.6	11.1	58.9	14.6	1.2	2.4

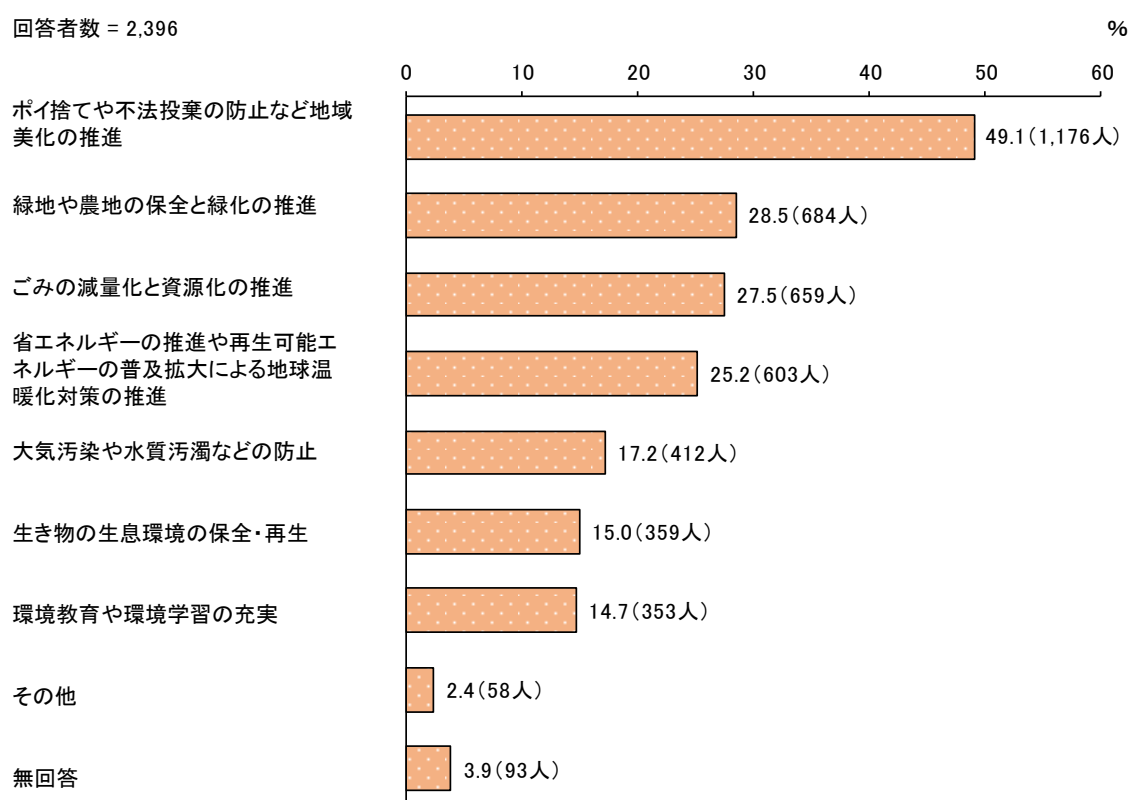
問 1 1 環境に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」(49.1%)が最も多く約5割となっている。次いで、「緑地や農地の保全と緑化の推進」(28.5%)、「ごみの減量化と資源化の推進」(27.5%)、「省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及拡大による地球温暖化の推進」(25.2%)、「大気汚染や水質汚濁などの防止」(17.2%)の順となっている。(図表 11-1)

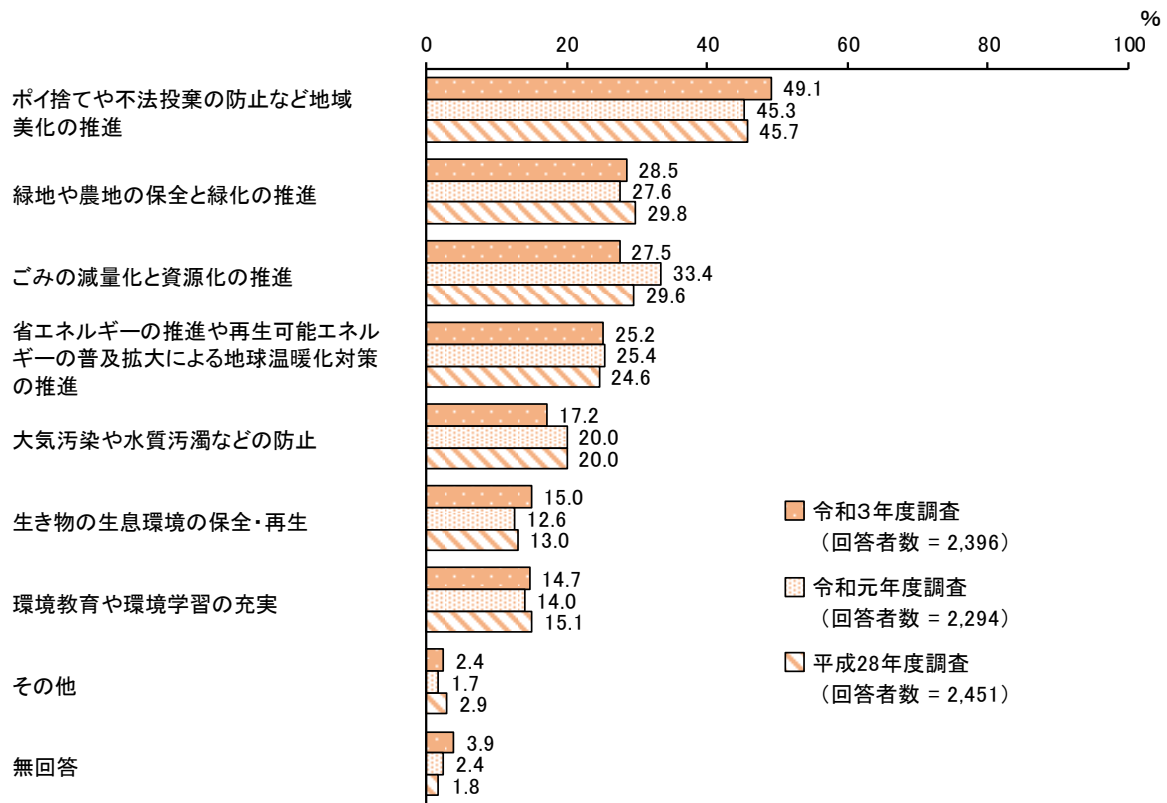
前回結果と比較すると、「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」は前回と変わらず1位となっており、「ごみの減量化と資源化の推進」が前回2位から今回3位となっている。

(図表 11-1-1)

図表 11-1 環境に関する取り組み—全体



図表 11-1-1 環境に関する取り組み—経年比較



単位：%

区分	回答者数 (N)	ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進	緑地や農地の保全と緑化の推進	ごみの減量化と資源化の推進	省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及拡大による地球温暖化対策の推進	大気汚染や水質汚濁などの防止	生き物の生息環境の保全・再生	環境教育や環境学習の充実	その他	無回答
令和3年度調査	2,396	49.1	28.5	27.5	25.2	17.2	15.0	14.7	2.4	3.9
令和元年度調査	2,294	45.3	27.6	33.4	25.4	20.0	12.6	14.0	1.7	2.4
平成28年度調査	2,451	45.7	29.8	29.6	24.6	20.0	13.0	15.1	2.9	1.8

【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」が1位、男性では「緑地や農地の保全と緑化の推進」が2位、女性では「ごみの減量化と資源化の推進」が2位となっている。

年齢別にみると、男性10歳代で「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」（66.7%）が6割台半ばと他の年代と比べ高くなっている。（図表11-1-2）

図表11-1-2 環境に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数（N）	ごみの減量化と資源化の推進	ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進	省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及拡大による地球温暖化対策の推進	緑地や農地の保全と緑化の推進	生き物の生息環境の保全・再生	環境教育や環境学習の充実	大気汚染や水質汚濁などの防止	その他	無回答
全体	2,396	27.5	49.1	25.2	28.5	15.0	14.7	17.2	2.4	3.9
【男性 全体】	1,003	28.9	50.4	23.8	30.5	19.6	14.7	14.3	2.8	2.3
男性 10歳代	33	12.1	66.7	21.2	18.2	33.3	15.2	15.2	—	—
20歳代	86	26.7	46.5	17.4	30.2	17.4	18.6	24.4	4.7	1.2
30歳代	132	28.8	54.5	16.7	34.8	18.9	14.4	12.1	4.5	1.5
40歳代	184	26.1	48.9	27.7	29.3	20.1	17.9	17.4	3.3	0.5
50歳代	202	30.7	47.0	23.8	32.7	23.8	10.4	12.9	3.0	2.0
60歳代	170	27.6	52.4	28.2	31.8	17.1	15.3	8.2	2.4	4.1
70歳以上	196	34.7	50.0	24.5	27.6	16.3	13.8	14.8	1.0	4.1
【女性 全体】	1,242	27.5	49.8	27.1	27.3	12.1	15.4	20.2	2.0	2.3
女性 10歳代	33	21.2	51.5	15.2	24.2	24.2	21.2	18.2	3.0	6.1
20歳代	87	25.3	54.0	16.1	31.0	10.3	10.3	23.0	2.3	5.7
30歳代	168	23.8	54.2	18.5	31.5	14.3	18.5	20.8	3.0	1.8
40歳代	229	32.8	44.1	28.8	23.1	12.2	17.5	18.8	2.6	2.2
50歳代	252	22.2	48.0	34.5	27.4	16.3	11.9	20.6	2.0	2.0
60歳代	203	33.0	50.7	29.1	28.1	10.3	18.7	15.8	2.5	—
70歳以上	266	27.4	51.5	27.8	27.1	7.1	13.5	23.3	—	3.0

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域において「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」が1位となっている。また「緑地や農地の保全と緑化の推進」が中央林間地区（36.8%）、つきみ野地区（35.0%）で高くなっている。（図表 11-1-3）

図表 11-1-3 環境に関する取り組み—居住地域別

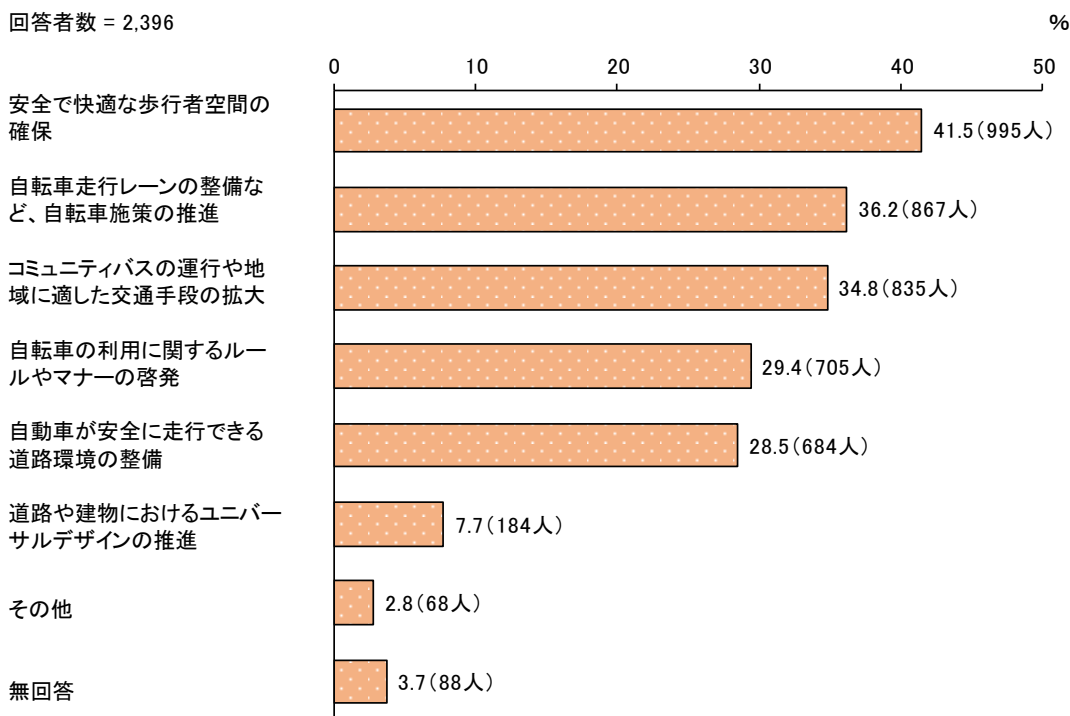
単位：%

区分	回答者数（N）	ごみの減量化と資源化の推進	ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進	省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及拡大による地球温暖化対策の推進	緑地や農地の保全と緑化の推進	生き物の生息環境の保全・再生	環境教育や環境学習の充実	大気汚染や水質汚濁などの防止	その他	無回答
全体	2,396	27.5	49.1	25.2	28.5	15.0	14.7	17.2	2.4	3.9
中央林間地区	302	28.1	44.7	24.2	36.8	19.2	11.9	16.2	1.7	3.0
つきみ野地区	240	28.3	47.1	22.9	35.0	14.6	17.9	15.0	0.4	2.5
南林間・鶴間地区	709	25.0	48.4	28.1	29.3	13.0	15.4	17.5	2.7	4.5
相模大塚地区	73	28.8	56.2	20.5	23.3	13.7	9.6	16.4	6.8	2.7
大和地区	471	26.5	52.7	22.3	26.5	14.9	14.6	18.3	3.6	4.0
桜ヶ丘地区	304	28.9	50.3	28.6	23.0	17.8	14.5	18.4	0.7	3.9
高座渋谷地区	253	33.2	49.0	23.3	24.5	13.4	16.2	17.4	2.4	3.2

問 1 2 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「安全で快適な歩行者空間の確保」(41.5%)が最も多く4割を超えている。次いで、「自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進」(36.2%)、「コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大」(34.8%)、「自転車の利用に関するルールやマナーの啓発」(29.4%)の順となっている。(図表 12-1)

図表 12-1 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—全体



【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「安全で快適な歩行者空間の確保」が1位、「自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進」が2位となっている。

年齢別にみると、「自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進」が男性10歳代(63.6%)で6割強、女性10歳代(51.5%)で5割強となっている。また、「安全で快適な歩行者空間の確保」が女性70歳以上(51.9%)、「自動車が安全に走行できる道路環境の整備」が男性20歳代(51.2%)で5割強となり他の年代と比べ多くなっている。(図表12-1-1)

図表12-1-1 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数(N)	コミュニティバス の運行や地域の拡大	啓発 するルールやマナーの 啓発	自転車の利用に 関する	自転車の走行レーン の整備など、自転車 施策の推進	安全で快適な歩行者 空間の確保	備 自動車 が安全に走行 できる道路環境の整備	道路や建物における ユニバーサルデザイン の推進	その他	無回答
全体	2,396	34.8	29.4	36.2	41.5	28.5	7.7	2.8	3.7	
【男性 全体】	1,003	34.0	32.7	34.4	40.7	32.5	8.5	3.1	1.9	
男性 10歳代	33	9.1	18.2	63.6	45.5	27.3	18.2	3.0	—	
20歳代	86	22.1	19.8	39.5	32.6	51.2	11.6	5.8	1.2	
30歳代	132	25.8	29.5	37.1	37.9	40.9	12.9	3.8	1.5	
40歳代	184	38.6	30.4	33.2	40.2	38.0	9.8	2.7	0.5	
50歳代	202	35.6	35.6	30.2	36.6	34.7	8.9	2.5	2.0	
60歳代	170	35.3	38.2	30.0	43.5	28.8	6.5	2.9	2.9	
70歳以上	196	41.8	37.2	34.7	47.4	15.3	2.6	2.6	3.1	
【女性 全体】	1,242	37.4	26.9	38.9	43.6	25.8	7.2	2.6	2.4	
女性 10歳代	33	24.2	27.3	51.5	39.4	21.2	18.2	3.0	6.1	
20歳代	87	35.6	13.8	42.5	42.5	35.6	9.2	3.4	3.4	
30歳代	168	33.3	21.4	42.9	41.7	32.1	10.1	2.4	1.8	
40歳代	229	33.6	23.6	43.7	36.2	32.3	7.0	5.2	3.1	
50歳代	252	37.7	28.2	40.9	39.7	25.8	7.9	3.6	2.0	
60歳代	203	35.5	37.9	34.0	48.8	22.2	7.9	1.0	—	
70歳以上	266	47.0	27.8	31.6	51.9	16.5	2.3	0.4	3.4	

【居住地域別】

居住地域別にみると、「コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大」がつきみ野地区で5割と他の地域と比べ多くなっている。また、「自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進」が中央林間地区（42.4%）で1位となっている。（図表 12-1-2）

図表 12-1-2 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—居住地域別

単位：%

区分	回答者数（N）	コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大	自転車の利用に関するルールやマナーの啓発	自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進	安全で快適な歩行者空間の確保	自動車が安全に走行できる道路環境の整備	道路や建物におけるユニバーサルデザインの推進	その他	無回答
全体	2,396	34.8	29.4	36.2	41.5	28.5	7.7	2.8	3.7
中央林間地区	302	34.4	27.2	42.4	40.1	29.8	8.3	3.3	1.7
つきみ野地区	240	50.0	20.0	35.8	37.9	29.6	5.4	2.1	2.5
南林間・鶴間地区	709	31.0	29.2	39.9	42.7	27.8	6.8	2.4	4.7
相模大塚地区	73	34.2	21.9	34.2	42.5	34.2	5.5	5.5	2.7
大和地区	471	29.3	32.3	37.6	41.6	26.3	10.4	3.0	3.6
桜ヶ丘地区	304	38.8	32.6	27.0	45.4	30.3	7.2	3.0	3.6
高座渋谷地区	253	38.7	33.6	29.2	39.9	28.9	7.5	2.8	3.6

【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、いる（未就学のお子さんのみ）、いないでは「安全で快適な歩行者空間の確保」が1位となっており、いる（小学生以上18歳未満のお子さんのみ）、いる（未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも）では、「自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進」が1位となっている。（図表12-1-3）

図表12-1-3 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—こどもの有無別

単位：%

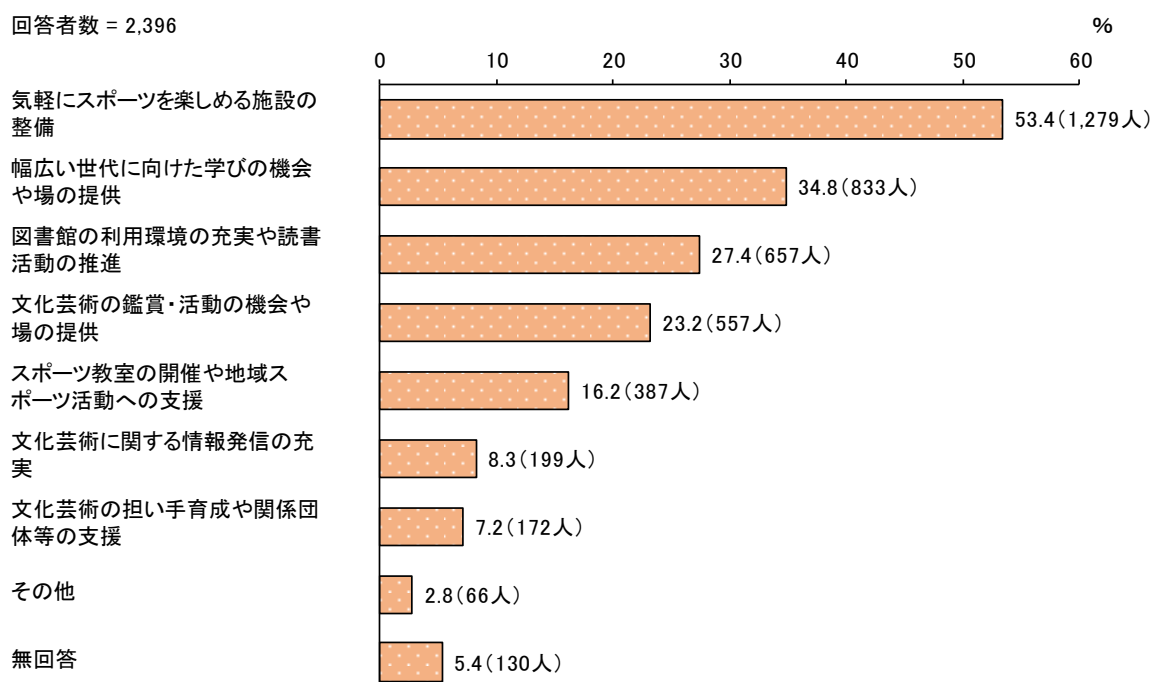
区分	回答者数（N）	コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大	自転車の利用に関するルールやマナーの啓発	自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進	安全で快適な歩行者空間の確保	環境の整備 自動車が安全に走行できる道路	道路や建物におけるユニバーサルデザインの推進	その他	無回答
全体	2,396	34.8	29.4	36.2	41.5	28.5	7.7	2.8	3.7
いる（未就学のお子さんのみ）	171	29.8	19.3	40.4	52.6	36.3	5.3	3.5	2.3
いる（小学生以上18歳未満のお子さんのみ）	304	28.9	27.0	43.8	37.8	36.8	6.9	3.9	2.0
いる（未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも）	91	31.9	22.0	39.6	38.5	35.2	14.3	2.2	3.3
いない	1,645	37.0	31.4	35.6	42.5	27.1	7.6	2.6	1.9

問 13 文化芸術、読書や学び、スポーツに関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○印は2つまで)

「気軽にスポーツを楽しめる施設の整備」(53.4%)が最も多く5割を超えている。次いで、「幅広い世代に向けた学びの機会や場の提供」(34.8%)、「図書館の利用環境の充実や読書活動の推進」(27.4%)、「文化芸術の鑑賞・活動の機会や場の提供」(23.2%)の順となっている。

前回結果と比較すると、「気軽にスポーツを楽しめる施設の整備」は前回同様1位であり、5.5ポイント増えている。(図表13-1)

図表 13-1 文化芸術、読書や学び、スポーツに関する取り組み—全体



単位：%

区分	回答者数 (N)	気軽にスポーツを楽しめる施設の整備	幅広い世代に向けた学びの機会や場の提供	図書館の利用環境の充実や読書活動の推進	文化芸術の鑑賞・活動の機会や場の提供	スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援	文化芸術に関する情報発信の充実	文化芸術の担い手育成や関係団体等の支援	その他	無回答
令和3年度調査	2,396	53.4	34.8	27.4	23.2	16.2	8.3	7.2	2.8	5.4
令和元年度調査	2,294	47.9	34.0	25.2	21.8	14.6	8.3	7.7	2.2	10.0
平成28年度調査	2,451	-	-	36.1	-	32.0	-	7.3	2.2	12.4

【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも「気軽にスポーツを楽しめる施設の整備」が1位、「幅広い世代に向けた学びの機会や場の提供」が2位となっている。

年齢別にみると、女性60歳代で「幅広い世代に向けた学びの機会や場の提供」(46.8%)が1位となっている。「スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援」は男性30歳代(29.5%)で約3割と多くなっている。「文化芸術に関する情報発信の充実」は女性10歳代(24.2%)で約2割台半ばと多くなっている。(図表13-1-1)

図表13-1-1 文化芸術、読書や学び、スポーツに関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数(N)	図書館の利用環境の充実 や読書活動の推進	スポーツ教室の開催や地 域スポーツ活動への支援	気軽にスポーツを楽しめ る施設の整備	幅広い世代に向けた学び の機会や場の提供	文化芸術の鑑賞・活動の 機会や場の提供	文化芸術の担い手育成や 関係団体等の支援	文化芸術に関する情報発 信の充実	その他	無回答
全体	2,396	27.4	16.2	53.4	34.8	23.2	7.2	8.3	2.8	5.4
【男性 全体】	1,003	30.9	19.5	55.6	31.6	24.0	6.6	7.9	3.2	2.7
男性 10歳代	33	27.3	21.2	69.7	21.2	18.2	3.0	9.1	3.0	—
20歳代	86	34.9	11.6	61.6	33.7	15.1	8.1	10.5	2.3	1.2
30歳代	132	35.6	29.5	57.6	24.2	23.5	5.3	5.3	2.3	1.5
40歳代	184	34.2	21.7	62.0	31.0	18.5	3.8	5.4	4.9	1.6
50歳代	202	31.2	18.3	53.5	30.7	25.2	7.4	8.4	4.5	3.0
60歳代	170	24.7	15.3	50.0	39.4	30.0	7.1	11.2	2.4	4.1
70歳以上	196	28.6	18.9	50.5	32.1	28.1	8.7	7.1	2.0	4.1
【女性 全体】	1,242	25.4	14.2	52.3	38.9	24.0	7.6	8.5	2.4	4.8
女性 10歳代	33	36.4	6.1	63.6	24.2	24.2	12.1	24.2	—	3.0
20歳代	87	29.9	18.4	60.9	32.2	21.8	5.7	3.4	5.7	3.4
30歳代	168	32.1	17.3	58.3	29.2	26.2	8.9	6.0	2.4	3.6
40歳代	229	26.2	11.8	58.5	35.8	27.1	6.1	8.3	3.5	3.5
50歳代	252	23.0	15.5	50.0	44.4	20.6	6.7	9.5	2.4	3.6
60歳代	203	25.1	17.2	45.3	46.8	27.1	8.9	7.4	1.5	1.5
70歳以上	266	20.3	10.2	47.4	40.6	21.8	8.3	10.2	1.1	10.5

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域において「気軽にスポーツを楽しめる施設の整備」が1位、「幅広い世代に向けた学びの機会や場の提供」が2位となっている。また、「図書館の利用環境の充実や読書活動の推進」が中央林間地区で3割を超え他の地域と比べ多くなっている。

(図表 13-1-2)

図表 13-1-2 文化芸術、読書や学び、スポーツに関する取り組み—居住地域別

単位：%

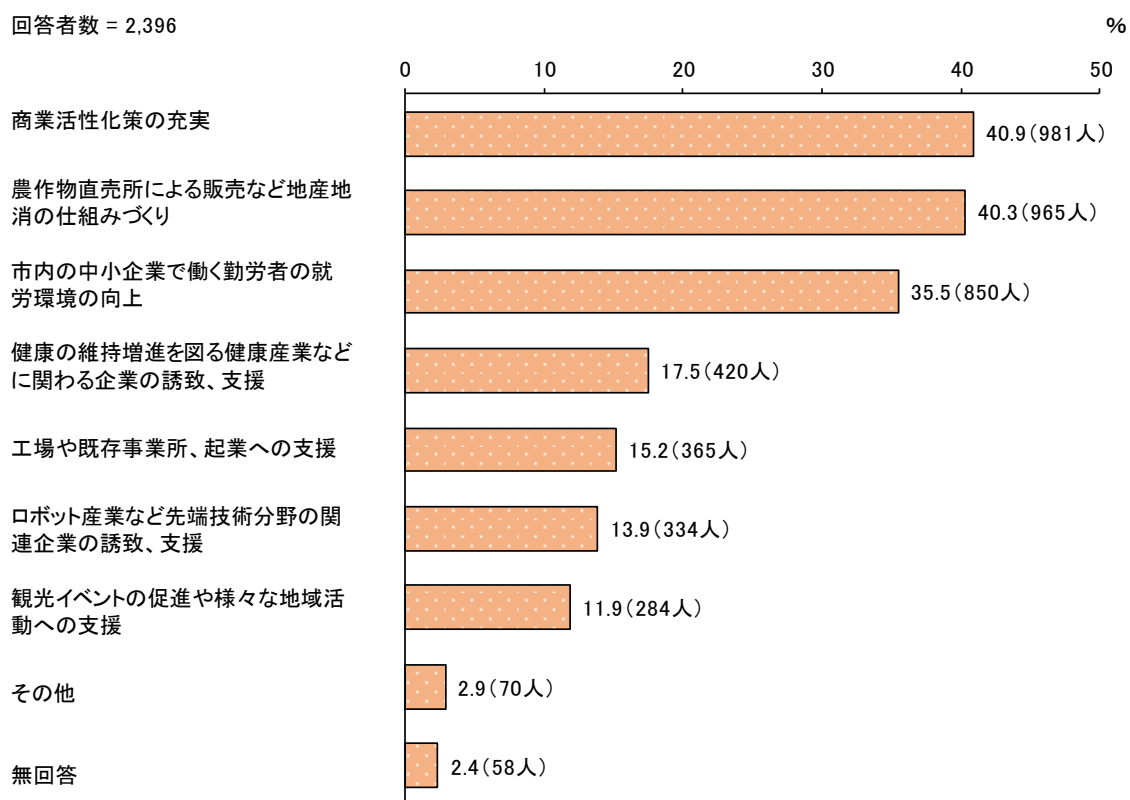
区分	回答者数(N)	図書館の利用環境の充実や読書活動の推進	スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援	気軽にスポーツを楽しめる施設の整備	幅広い世代に向けた学びの機会や場の提供	文化芸術の鑑賞・活動の機会や場の提供	文化芸術の担い手育成や関係団体等の支援	文化芸術に関する情報発信の充実	その他	無回答
全体	2,396	27.4	16.2	53.4	34.8	23.2	7.2	8.3	2.8	5.4
中央林間地区	302	33.1	14.9	57.0	34.1	25.2	6.6	6.0	2.3	3.6
つきみ野地区	240	28.3	20.4	55.4	28.3	25.8	7.5	9.2	1.7	3.3
南林間・鶴間地区	709	26.7	15.0	53.5	36.4	24.0	7.2	7.5	3.1	5.6
相模大塚地区	73	24.7	16.4	63.0	32.9	23.3	5.5	1.4	4.1	2.7
大和地区	471	24.6	17.0	51.4	35.7	23.4	8.1	10.4	2.8	5.3
桜ヶ丘地区	304	27.6	16.4	55.6	40.8	20.1	5.6	7.6	2.0	5.3
高座渋谷地区	253	27.7	16.2	48.2	28.9	23.3	8.3	11.5	2.8	7.9

問 1 4 地域経済の活性化に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○印は2つまで)

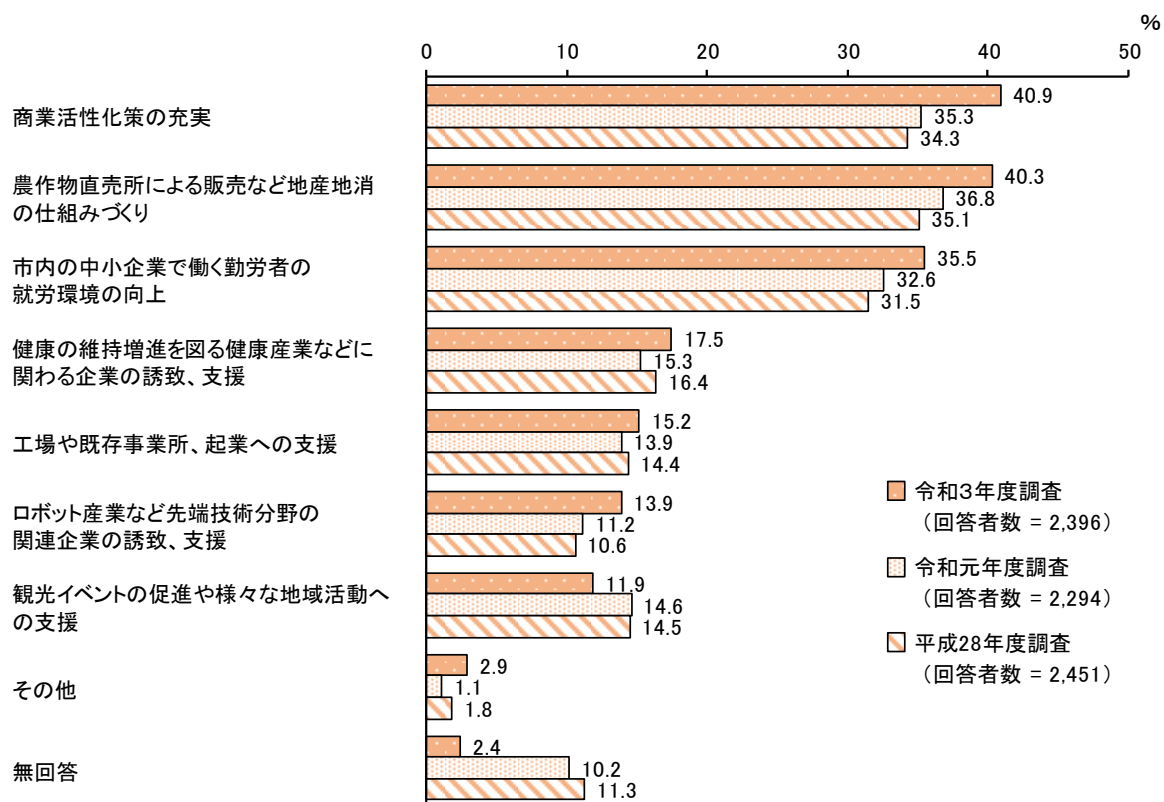
「商業活性化策の充実」(40.9%)が最も多く約4割となっている。次いで、「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」(40.3%)、「市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上」(35.5%)、「健康の維持増進を図る健康産業などに関わる企業の誘致、支援」(17.5%)の順となっている。(図表 14-1)

前回結果と比較すると、「商業活性化策の充実」が2位だった前回より5.6ポイント増加して今回1位となっている。「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」が前回1位から今回2位となっている。また、「市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上」が3位で前回同様となっている。(図表 14-1)

図表 14-1 地域経済の活性化に関する取り組み—全体



図表 14-1-1 地域経済の活性化に関する取り組み—経年比較



単位：%

区分	回答者数 (N)	商業活性化策の充実	農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり	市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上	健康の維持増進を図る健康産業などに関わる企業の誘致、支援	工場や既存事業所、起業への支援	ロボット産業など先端技術分野の関連企業の誘致、支援	観光イベントの促進や様々な地域活動への支援	その他	無回答
令和3年度調査	2,396	40.9	40.3	35.5	17.5	15.2	13.9	11.9	2.9	2.4
令和元年度調査	2,294	35.3	36.8	32.6	15.3	13.9	11.2	14.6	1.1	10.2
平成28年度調査	2,451	34.3	35.1	31.5	16.4	14.4	10.6	14.5	1.8	11.3

【性別・年齢別】

性別にみると、男性は「商業活性化策の充実」が1位、女性は「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」が1位となっている。また、男性は「市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上」が2位、女性は「商業活性化策の充実」が2位となっている。

年齢別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれて「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」が増加傾向となっている。(図表 14-1-2)

図表 14-1-2 地域経済の活性化に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数 (N)	商業活性化策の充実	工場や既存事業所、起業への支援	ロボット産業など先端技術分野の関連企業の誘致、支援	健康の維持増進を図る健康産業などに関わる企業の誘致、支援	市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上	農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり	観光イベントの促進や様々な地域活動への支援	その他	無回答
全体	2,396	40.9	15.2	13.9	17.5	35.5	40.3	11.9	2.9	2.4
【男性 全体】	1,003	43.3	17.8	18.7	18.1	35.3	35.0	11.8	3.3	1.4
男性 10歳代	33	39.4	21.2	12.1	21.2	39.4	18.2	9.1	9.1	—
20歳代	86	52.3	11.6	20.9	12.8	38.4	26.7	14.0	3.5	1.2
30歳代	132	40.9	20.5	21.2	19.7	34.8	28.8	16.7	4.5	0.8
40歳代	184	48.4	19.6	20.7	18.5	30.4	40.2	9.2	2.2	—
50歳代	202	46.0	20.3	17.3	16.8	34.7	34.7	8.4	4.0	1.0
60歳代	170	41.2	16.5	13.5	18.8	37.6	38.2	14.7	2.4	3.5
70歳以上	196	35.7	15.3	21.4	19.4	36.7	38.3	11.2	2.6	2.0
【女性 全体】	1,242	40.1	13.6	10.0	17.4	35.5	44.6	11.9	2.3	2.7
女性 10歳代	33	36.4	6.1	3.0	15.2	51.5	33.3	30.3	3.0	—
20歳代	87	42.5	9.2	4.6	14.9	41.4	40.2	24.1	1.1	1.1
30歳代	168	41.7	14.9	10.7	14.3	40.5	37.5	16.1	3.6	1.2
40歳代	229	34.9	18.8	11.4	15.7	31.9	45.4	14.4	2.6	2.2
50歳代	252	44.4	16.7	13.1	17.1	35.3	44.4	8.7	2.0	0.8
60歳代	203	42.4	11.8	10.3	19.2	42.9	45.3	4.4	2.0	2.0
70歳以上	266	38.0	9.4	7.9	21.1	26.7	51.1	9.8	1.5	6.4

【居住地域別】

居住地域別にみると、中央林間地区（44.0%）、相模大塚地区（46.6%）、大和地区（45.6%）では「商業活性化策の充実」が1位となっている。また、つきみ野地区（40.8%）、南林間・鶴間地区（40.1%）、桜ヶ丘地区（41.1%）、高座渋谷地区（42.7%）では「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」が1位となっている。（図表14-1-3）

図表14-1-3 地域経済の活性化に関する取り組み—居住地域別

単位：%

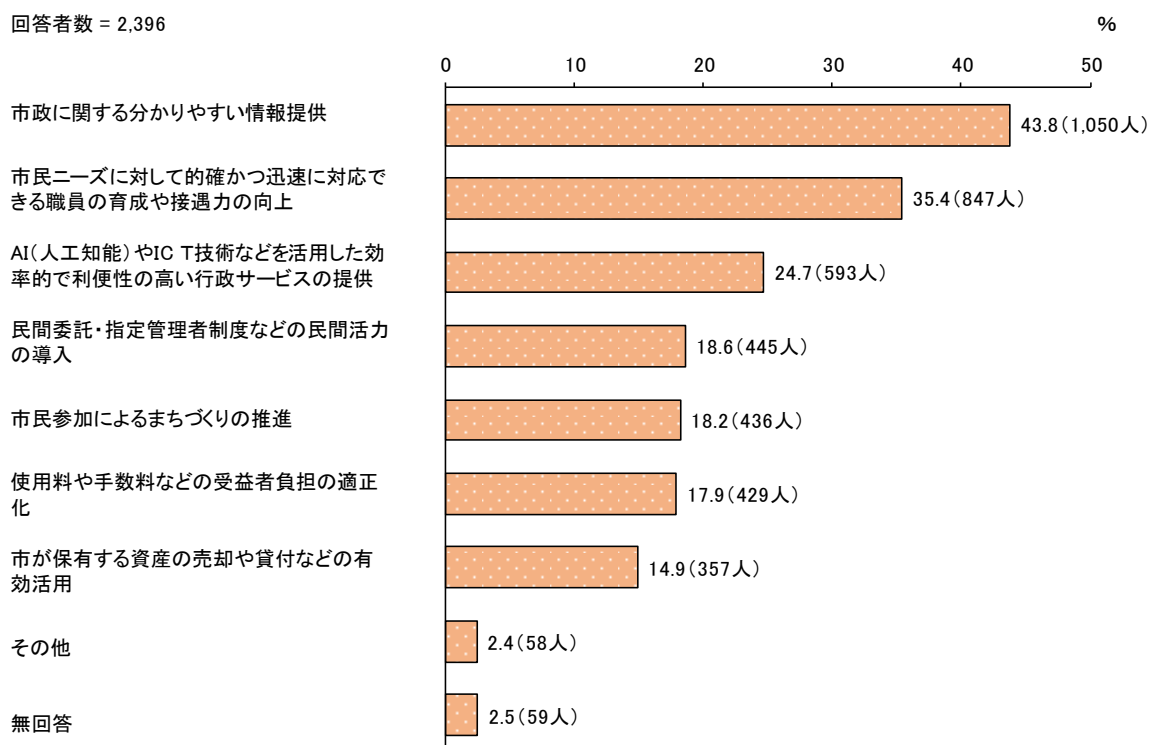
区分	回答者数（N）	商業活性化策の充実	工場や既存事業所、起業への支援	ロボット産業など先端技術分野の関連企業の誘致、支援	健康の維持増進を図る健康産業などに関わる企業の誘致、支援	市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上	農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり	観光イベントの促進や様々な地域活動への支援	その他	無回答
全体	2,396	40.9	15.2	13.9	17.5	35.5	40.3	11.9	2.9	2.4
中央林間地区	302	44.0	18.2	17.2	15.2	30.5	38.4	10.9	3.6	3.6
つきみ野地区	240	38.8	13.3	21.7	15.4	31.7	40.8	13.3	2.5	1.3
南林間・鶴間地区	709	39.2	15.7	13.5	20.2	38.2	40.1	12.0	3.0	1.7
相模大塚地区	73	46.6	15.1	13.7	20.5	28.8	39.7	6.8	4.1	1.4
大和地区	471	45.6	13.2	11.7	17.6	36.7	40.3	13.6	2.8	1.3
桜ヶ丘地区	304	40.1	18.1	13.2	14.8	33.2	41.1	11.8	3.0	3.0
高座渋谷地区	253	38.3	14.2	9.9	17.0	39.1	42.7	9.9	1.6	3.2

問 15 行政経営に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

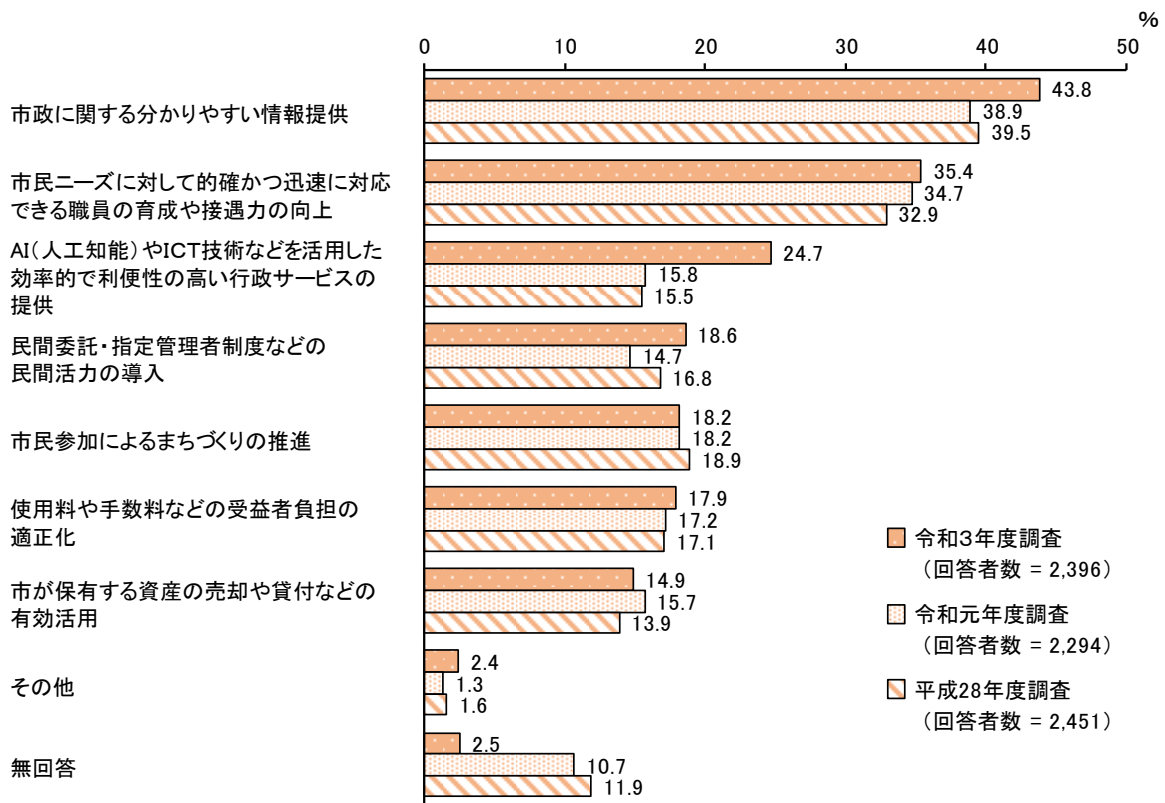
「市政に関するわかりやすい情報提供」(43.8%)が最も多く4割を超えている。次いで、「市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成や接遇力の向上」(35.4%)、「AI(人工知能)やICT技術などを活用した効率的で利便性の高い行政サービスの提供」(24.7%)、「民間委託・指定管理者制度などの民間活力の導入」(18.6%)の順となっている。(図表 15-1)

前回結果と比較すると、「市政に関するわかりやすい情報提供」が1位、「市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成や接遇力の向上」が2位で前回同様となっている。また、「AI(人工知能)やICT技術などを活用した効率的で利便性の高い行政サービスの提供」が前回5位から今回3位となっている。(図表 15-1-1)

図表 15-1 行政経営に関する取り組み—全体



図表 15-1-1 行政経営に関する取り組み—経年比較



単位：%

区分	回答者数(N)	市政に関する分かりやすい情報提供	市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成や接遇力の向上	AI(人工知能)やICT技術などを活用した効率的で利便性の高い行政サービスの提供	民間委託・指定管理者制度などの民間活力の導入	市民参加によるまちづくりの推進	使用料や手数料などの受益者負担の適正化	市が保有する資産の売却や貸付などの有効活用	その他	無回答
令和3年度調査	2,396	43.8	35.4	24.7	18.6	18.2	17.9	14.9	2.4	2.5
令和元年度調査	2,294	38.9	34.7	15.8	14.7	18.2	17.2	15.7	1.3	10.7
平成28年度調査	2,451	39.5	32.9	15.5	16.8	18.9	17.1	13.9	1.6	11.9

【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも「市政に関するわかりやすい情報提供」が1位となっている。また、男性は「A I（人工知能）やI C T技術などを活用した効率的で利便性の高い行政サービスの提供」が2位、女性は「市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成や接遇力の向上」が2位となっている。

年齢別にみると、「A I（人工知能）やI C T技術などを活用した効率的で利便性の高い行政サービスの提供」が男性20歳以上（41.9%）で4割強となっている。（図表15-1-2）

図表15-1-2 行政経営に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

区分	回答者数（N）	市政に関するわかりやすい情報提供	民間委託指定管理者制度などの民間活力の導入	市民参加によるまちづくりの推進	A I（人工知能）やI C T技術などを活用した効率的で利便性の高い行政サービスの提供	市が保有する資産の売却や貸付などの有効活用	使用料や手数料などの受益者負担の適正化	市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成や接遇力の向上	その他	無回答
全体	2,396	43.8	18.6	18.2	24.7	14.9	17.9	35.4	2.4	2.5
【男性 全体】	1,003	41.9	22.4	18.2	31.6	16.5	18.3	30.4	2.8	1.2
男性 10歳代	33	51.5	15.2	12.1	30.3	21.2	12.1	36.4	3.0	—
20歳代	86	52.3	14.0	10.5	41.9	17.4	19.8	20.9	2.3	1.2
30歳代	132	34.1	17.4	18.2	37.1	25.0	22.0	25.8	2.3	0.8
40歳代	184	37.0	27.2	16.3	37.0	19.6	24.5	23.4	3.8	—
50歳代	202	45.0	26.7	12.9	26.2	15.8	18.8	35.1	2.5	—
60歳代	170	38.2	24.1	25.3	27.6	14.7	14.1	35.3	2.9	2.4
70歳以上	196	45.4	20.4	24.0	27.6	8.7	13.8	34.2	2.6	3.1
【女性 全体】	1,242	46.1	15.6	18.0	20.4	13.9	17.7	39.2	1.9	2.8
女性 10歳代	33	69.7	15.2	27.3	15.2	12.1	24.2	24.2	3.0	—
20歳代	87	55.2	11.5	23.0	19.5	10.3	20.7	31.0	2.3	2.3
30歳代	168	49.4	13.1	14.3	29.2	14.3	19.6	35.7	1.8	0.6
40歳代	229	38.4	18.8	16.6	25.3	17.0	18.8	37.1	3.9	1.7
50歳代	252	41.3	18.7	12.3	21.4	15.1	16.7	46.0	1.6	2.8
60歳代	203	51.7	14.8	21.2	19.2	11.8	13.3	37.4	1.0	2.0
70歳以上	266	45.5	13.9	21.8	11.7	13.2	18.0	42.9	0.4	6.0

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域で「市政に関するわかりやすい情報提供」が1位、「市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成や接遇力の向上」が2位となっている。

(図表5-11-3)

図表 15-1-3 行政経営に関する取り組み—居住地域別

単位：%

区分	回答者数(N)	市政に関するわかりやすい情報提供	民間委託・指定管理者制度などの民間活力の導入	市民参加によるまちづくりの推進	AI(人工知能)やICT技術などを活用した効率的で利便性の高い行政サービスの提供	市が保有する資産の売却や貸付などの有効活用	使用料や手数料などの受益者負担の適正化	市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成や接遇力の向上	その他	無回答
全体	2,396	43.8	18.6	18.2	24.7	14.9	17.9	35.4	2.4	2.5
中央林間地区	302	43.0	19.5	15.2	33.4	15.9	11.9	35.8	2.6	2.6
つきみ野地区	240	45.0	22.9	17.5	30.0	12.9	11.7	34.2	2.1	1.3
南林間・鶴間地区	709	42.5	18.2	20.3	23.0	14.5	21.2	34.6	2.5	2.3
相模大塚地区	73	38.4	13.7	11.0	17.8	17.8	21.9	35.6	5.5	4.1
大和地区	471	47.1	17.8	20.4	22.9	18.0	16.1	36.7	1.9	1.3
桜ヶ丘地区	304	42.4	18.1	18.4	22.7	17.1	21.4	35.9	2.6	1.6
高座渋谷地区	253	47.0	19.8	16.6	23.3	7.5	19.4	34.4	1.2	4.0

Ⅲ まちづくりに関する意見・要望

回答者 2,396 人のうち 919 人からまちづくりに関する意見や要望があった。そのうち特に多かった記載事項は次のとおりとなっている。

- ◇ 公園について（遊具の増設、雑草の適切な手入れ など）（約 130 件）
- ◇ コロナ対策について（コロナ対策の強化、素早いワクチン接種対応 など）（約 100 件）
- ◇ 自転車利用環境について（安全な自転車通行空間の整備、マナー向上 など）（約 90 件）
- ◇ 防犯・治安について（防犯灯、防犯カメラの増設、客引きへの対応 など）（約 80 件）
- ◇ 道路・歩道について（道路・歩道の拡幅、舗装の整備 など）（約 80 件）

自由記述の回答について、主な意見の内容を基本目標別に分類して次のとおり掲載する。なお、内容については意見の趣旨を損なわないよう、一部要約したものもある。

【基本目標 1 いつまでも元気でいられるまち】

1 コロナ対策、ワクチン接種事業について

- ・ワクチン接種券の配布が他の市町村と比較して、遅いと感じた。ワクチンの接種対応を早くしてほしかった。
- ・ワクチン接種予約等のコロナ関連の情報が届くのが遅く、もうすこしく早く、詳しく情報提供してほしい。
- ・感染者の早期発見とPCR検査の対応の拡大など感染症対策を強化してほしい。
- ・コロナワクチンの接種できる日程を増してほしい。
- ・妊婦へのワクチン接種を最優先で実施してもらい、有難い。
- ・基礎疾患があり、早期にコロナワクチン接種ができ大変助かった。
- ・小学生から高校生まではできる限り、夏休み中に2回の接種ができるように段取りができればよかったと思う。
- ・ワクチン接種についてなるべく自宅に近い会場で接種できるように工夫してほしい。

2 健康施策について

- ・大和市は、健康に暮らすために健診が充実していると思う。
- ・いつも24時間健康相談ダイヤルに助けてもらっている。
- ・早く「健康度見える化コーナー」が復活してほしい。
- ・健康都市の主旨は理解できるが、健康診断等に力が集中しているように見られる。病気にならないよう健康を維持する施策（ウォーキング等）が必要であると思う。
- ・生活習慣病予防のための料理が勉強できる場所をつくってほしい。

3 市立病院について

- ・大和市立病院の初診・再診時選定療養費が昨年より値上がりしたが、市の施設なので、少し値下げしてもらえるとありがたい。
- ・昨年市立病院に入院したが、だいぶ老朽化していた。点滴をしながらトイレに入るのが狭くて大変だった。建て替えを検討してほしい。
- ・市立病院に小児科医を増やしたことはよい施策である。

4 市内の医療機関について

- ・大和市の北部と南部では、拠点となる大きな病院がなく、医療法人や大学病院などを誘致するなどして、市民の利便性を図ることが必要であると思う。
- ・中央林間に駅近で通うのに大変便利な医療モールをつくってほしい。
- ・24時間対応している救急病院をつくってほしい。

【基本目標2 一人ひとりがささえの手を実感できるまち】

1 高齢の方を対象とした施策について

- ・今後、高齢者が増えていく中で、一人暮らしも多くなると思う。家にひきこもらず、外を歩いていて安心・安全にひと休みできる場所（公園、図書館）、清潔で気分も上がるような場所が増えてほしい。
- ・高齢者に優しい施設、ホームケアなど充実してほしい。
- ・おひとりさま政策の更なる充実を期待する。
- ・近所づきあいがあまりなく、正直自分が年をとったら、ここで生活できる自信はない。
- ・60歳以上に交通手段に条件なしで無料パス等を発行してほしい。

2 障がい者施策について

- ・障がい者向け居宅介護を受けて生活している。サービスが使いづらく、大和市独自の使いやすいサービスをつくってほしい。
- ・商業施設等の多目的トイレの使い勝手が良くない所が多い。車いすスペース（駐車場）を増やしてほしい。
- ・精神障害者の就労の援助を充実してほしい。
- ・障がいがある人が働ける場所が少ない。障がい者も安心して働きながら生活できる場所をつくってほしい。

3 介護サービスについて

- ・要介護を必要としている者に対しての制度が充実していない。
- ・介護士不足を解消するためにも賃金を上げることも考えるべきだと思う。
- ・要介護者はタクシー割引券などがあると病院代もおさえる事ができる。コミュニティバスも車イスでは乗れない。訪問医師にしているもかなり高額だと感じている。

4 その他

- ・高齢者を大切にしているアピール「70歳代を高齢者と言わない都市 やまと」は受手によってはマイナスな印象である。
- ・大和市独特の歩きスマホ禁止。70歳代を高齢者と言わないとかのコピーが楽しくもパワーを感じる。
- ・コロナとかで職をなくしてしまった人などを助けるような条例をつくってほしい。
- ・市営の墓地をつくってほしい。

【基本目標3 こどもがすくすく成長する産み育てやすいまち】

1 保育所、幼稚園について

- ・引越してきて、すぐに保育園が見つかり、子育て世帯にとってもやさしい市であると思う。
- ・保育園で過ごす時間で、少しでも多くの経験ができるとよい。
- ・市立保育園の施設管理や定期的なメンテナンスをしてほしい。
- ・保育園は多いが就学前まで預かってくれる保育園は少ないと思う。

2 子育て施策全般について

- ・子育て世代、子ども向けの施策は国、県よりも先進的な政策を望む。
- ・子育て支援の充実と、高齢者にも安心して生活できる更なる支援の充実を願う。
- ・ポラリスやシリウスなど子育てしやすい環境に満足している。

3 子育てに係る経済的支援の充実について

- ・妊娠や出産、子育ての補助金を拡充してほしい。
- ・小児医療費助成の制度を年収に関係なく無料にしてほしい。
- ・小児医療は高校生まで無料にしてほしい。

4 放課後児童クラブについて

- ・児童クラブについて。保護者が就労していない日は預けられないことになっているが、ワークライフバランスを考えると、保護者の休みの日も子どもを預かってほしい。
- ・児童クラブの利用が少なくなってくる中学年、高学年の子どもの過ごし方に大変不安を感じている。

5 障がいのある子どもへのサービスについて

- ・第1松風園の規模を拡大して、希望する子供はみんな、早期療育を青少年中年長の3年間受けられるようにしてほしい
- ・自閉症の息子がおり、20歳を超えてもいられる場所がたくさんほしい。

8 その他

- ・身内がそばに居ない子育て世代のお母さんお父さんは、閉ざされて生活しているような気持ちになる場合も多いのではないかと。何か明るい気持ちになれるような対策をしてほしい。
- ・子育て関係の書類が全て対面かつ紙で効率的でない。

【基本目標 4 未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち】

1 市立小学校、中学校について

- ・学校でのオンライン授業を進めてほしい。
- ・コロナ禍でも、子どもたちが十分に勉強したり、運動に取り組めるようにしてほしい。
- ・学校内の給水設備やトイレ環境を充実してほしい
- ・元気な高齢者ボランティアを募り、子どもたちの登下校の安全対策に役立ててほしい。
- ・小学校の放課後、下校時の見守りパトロールの存在はとても重要であり、ありがたい取り組みであるが、地区によってはない所もあり、安心安全なまちづくりを行ってほしい。
- ・小中学校の給食費や教材費の無償化をしてほしい。
- ・部活動における外部コーチの活用を考えてほしい。
- ・学校教育にITや外国語教育も積極的に導入して、将来を担う子どもを育ててほしい。

2 放課後の居場所について

- ・小学校（高学年）、中、高生の放課後の居場所が足りないように感じる。
- ・親が送り迎えしなくても、小学生が子どもだけで行きやすい場所がほしい。

3 特別支援教育について

- ・大和市に支援学校や養護学校があれば地域の支援級との交流、アイデアの共有などしやすくなって、支援級の幅が広がると思う。
- ・大和市内に支援学校や養護学校がほしい。

4 その他

- ・あいさつはコミュニケーションの基本であり、人と人のつながりをより深くするもの。「おはよう」と言い合える教育方針であってほしい。

【基本目標5 安全で安心して暮らせるまち】

1 防犯・治安について

- ・街灯や防犯カメラを増設してほしい。
- ・防犯対策を強化してほしい。
- ・大和駅前の客引き対策を行ってほしい。
- ・治安が悪いように感じる。
- ・大和駅周辺のパトロールをお願いしたい。
- ・大和市＝治安が悪いというイメージもあったが、この10年はとても治安が良くなり、住みやすい町になったと思う。

2 交通安全について

- ・たびたび事故が発生している道路等へ信号、カーブミラーなどを整備してほしい。
- ・学校の通学路を見直して、安全に通学できるようにしてほしい。危険な場所は早く歩道整備してほしい。
- ・路上駐車を注意してほしい。
- ・道路と歩道の間ガードレールを設置してほしい。
- ・横断歩道がうすく、わかりづらいので再塗装をしてほしい。
- ・歩道が歩きにくく、狭い歩道に自転車が通る等があり、歩道の拡幅や自転車の通行禁止などは徹底してもらいたい。
- ・車いすでも通れる幅の歩道を確保してほしい。

3 防災について

- ・防災無線が聞えにくい。いざという時に情報が得られるのか心配である。
- ・防災無線ではなく、メール等でお知らせしてほしい。
- ・自治会加入義務化くらいにしないと災害の時大変になると思う。

4 基地に関することについて

- ・大学がオンラインになり、自宅での学習をしているが、飛行機の騒音がとても気になる。
- ・飛行機の飛行時間帯を見直してほしい。夜中や明け方に爆音で飛行されるのはきつい。
- ・以前より騒音が減った。

【基本目標 6 環境にも人にも優しい快適な都市空間が整うまち】

1 公園について

- ・公園の遊具を増やしてほしい。
- ・「泉の森」のような、自然と生き物にふれる事のできる場所は大変に貴重。保護してほしい。
- ・子どもの遊ぶ場所（公園等）に使用ルールが多く、自由に遊べない。
- ・ボール遊びや自転車にのれる場所がほしい。

2 自転車利用環境について

- ・自転車が安全に通れるスペースを確保してほしい。
- ・自転車専用レーンがあるが、狭いので危険。
- ・自転車レーンが整備されているにもかかわらず、歩道をいきおいよく自転車で走行するマナーの悪い市民が多すぎる。条例等で罰則等を設けてほしい。
- ・駅集辺は駐輪場が少ないので、無料の駐輪場を増やして欲しい。

3 道路、歩道について

- ・劣化した道路が多い。
- ・市内の渋滞がひどいので緩和してもらいたい。
- ・車椅子や身体の不自由な人、老人などが安心して外を通行できるような道路状況になってほしい。

4 コミュニティバスについて

- ・コミュニティバスの運行本数を増やしてほしい。また、運行範囲を拡大してほしい。

5 街づくり、開発について

【北部地域について】

- ・中央林間は少し市役所から遠く、交通の不便さを感じることもある。街の商店街みたいな個人店が少ないのが残念である。

【中部地域について】

- ・飲食店や個人商店に魅力的なお店がほとんどなく、友人、知人を誘って大和で食事をしようと言える店が駅周辺にない。

【南部地域について】

- ・桜ヶ丘駅周辺の活性化を目指して再開発をお願いしたい。
- ・中央林間方面はとても美しい街づくりができていにもかかわらず、高座渋谷方面はとても残念である。

6 ごみ収集、リサイクル等について

- ・資源ゴミの回収回数を増やしてほしい。
- ・ごみ袋の値段を下げる、もしくは無料にしてほしい。
- ・ごみの不法投棄なども、防犯カメラ等を使って取り締まってほしい。

7 地域の美化、街の景観について

- ・ごみのポイ捨てがひどい。対策をしてほしい。
- ・道路わきの木や花壇の手入れ、雑草等の手入れについて考えてもらいたい。

8 市内の緑について

- ・緑がたくさんあるまちづくりを進めてほしい。
- ・泉の森はじめ、緑が多く、自然を感じられる所が多いのは、とても良いと感じる。

9 生活環境について

- ・ペットの飼い方のマナーを啓発してほしい。
- ・大和市ではカラスが年々増殖している。カラス対策を行ってほしい。
- ・昼夜を問わずバイクの音がうるさくて困っている。

10 公共交通機関について

- ・市内のバスが本数少なく不便である。
- ・中央林間付近で、マンションや宅地整備が進んでいるが、東急の増便や、車両を増やすような施策はなく、相変わらず混雑している。

11 路上喫煙、歩きスマホについて

- ・歩きタバコをしている人が多すぎる。もっと厳しく罰してほしい。
- ・喫煙禁止の場所での喫煙の取り締りを強化してほしい。
- ・歩きスマホの禁止をもっと徹底してほしい。

12 その他

- ・歩道等に所々休みできるベンチがほしい。
- ・治水に関しての整備をしてほしい。
- ・市営住宅に入居したいが、なかなか入れない。所得制限をもう少し上げてほしい。
- ・引地台温水プールを早くオープンしてほしい。

【基本目標 7 豊かな心と感動が広がるまち】

1 シリウス、ポラリスについて

- ・学生や社会人で勉強する人は家以外でリラックスができて、勉強できる所を常に求めている。シリウスやポラリス、その他図書館の席は満席になりがちですので、できればいつでも余裕をもって落ち着いて勉強できる場所をもっと増してほしい。
- ・長い間新しい設備のホール、舞台を大和にと切に願っていたので、シリウスのオープンは嬉しかった。
- ・ポラリス、シリウスなどの存在に感動した。清潔感があり、安心して子どもを遊ばせられる。
- ・大和シリウスの駐車料金を下げてほしい。
- ・シリウスやベテルギウスの有効な利用のため、広報等でもっと知らせして欲しい。

2 読書施策について

- ・図書館はあちこちあり、ネット予約もできてとても便利である。ネットで検索をし、借りて、色々な本を子どもと一緒に読んでいる。返却ポストも増えてきて助かっている。
- ・つきみ野学習センターにある図書館の規模を大きくしてほしい。
- ・図書館、書店でコンピュータ・ネットワーク・情報セキュリティプログラミングなどのIT関係の最新書籍を充実させてほしい。

3 スポーツについて

- ・スポーツの発展を目的として、スポーツ施設の導入をしてほしい
- ・グラウンドゴルフ場があるとよい。

4 文化芸術、歴史について

- ・高額の使用料がかからない、吹奏楽やオーケストラなど50人規模に対応可能な練習施設を増やしてほしい。
- ・博物館、美術館を充実してほしい。

5 学習センターについて

- ・学習センターの充実や専用施設の整備を望んでいる。
- ・学習センターに足を運んで始めて知るイベントが多々ある。他の学習センター同士でもっとイベント周知の連携をしてはどうか。

【基本目標 8 市民の活力があふれるまち】

1 商店街、買い物について

- ・ 駅周辺に買い物施設が充実すると嬉しい。
- ・ 大和駅周辺で食品以外（洋服、靴、雑貨）の買い物ができるお店があまりないので、増えたら良いと思う。
- ・ 「にぎわい商品券」のような大和市の経済活性化にやくだつ商品券を充実させてほしい。
- ・ 大和市は商業施設などが充実し生活がしやすい。

2 自治会等地域コミュニティについて

- ・ 自治会の役割を見直してほしい。資源ごみ収集所の管理（カゴを出したり、清掃したり）も負担である。
- ・ 自治会加入者を増やすよう取り組んで欲しい。

3 雇用について

- ・ 求職しているが、市内で正社員の仕事が少ない。雇用問題を改善してほしい。

4 企業誘致について

- ・ 企業を誘致すると、地元で働きたい人が増えるし、活性化にもつながる。
- ・ 大和市は地域的に利便性に優れた位置にあるため、産業振興にもっと力を入れると良い

5 多文化共生について

- ・ 文化、国籍だけでなく、様々な世代や立場の人が知り合える機会があるとよいと思う。
- ・ 在住外国人に対するサービスを充実してほしい。翻訳サービスなど。
- ・ LGBT の理解促進に対する施策を増やしてほしい。

6 その他

- ・ 観光地が少ない。
- ・ 大和市の代名詞が「図書館」だけというのは残念。特産物やグルメなど市民と一緒に盛り上がる魅力を作してほしい。
- ・ コミセンなどもなかなか空がなく、確保することが難しい。
- ・ 地域活動に対しての補助をもう少し簡略化してほしい。
- ・ コロナでイベントがないのがとてもさみしい。
- ・ 第一次産業のPR（地産地消）、後継者問題の解消が必要である。

**令和3年度
健康都市やまと総合計画に関する市民意識調査報告書
(令和4年2月)**

大和市政策部総合政策課
〒242-8601 大和市下鶴間一丁目1番1号 TEL:046-263-1111 (代表)
H P:<https://www.city.yamato.lg.jp/>